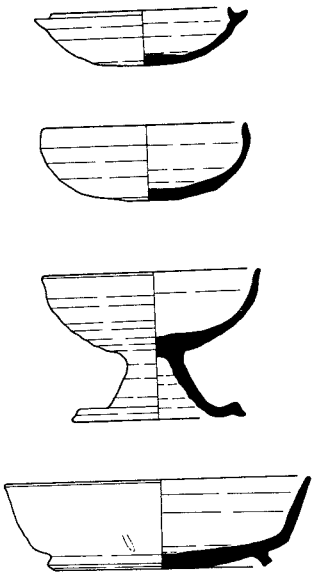
高松市埋蔵文化財調査報告第52集

太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第四冊

松縄下所遺跡



２００１年３月

高松市教育委員会

はじめに

太田第２土地区画整理事業は，市街地南郊外の田園地帯において，本市が鋭意進めている大規模な街づくりであります。面積は約360.6haに及ぶ全国屈指の規模を誇り，昭和63年度から始められ現在も進行中であります。この区画整理事業は，われわれに快適な生活環境をもたらすとともに，今まで遺跡が空白であった平野中央部に，未知の遺跡を発見する機会をもたらしました。

これら新たに見つかった遺跡は，必要に応じて，本市教育委員会によって発掘調査を実施しており，調査終了後は出土遺物の整理を行い，報告書を随時刊行しております。本報告書は，区画整理事業に伴う発掘調査報告としては４冊目にあたり，今回は松縄下所遺跡の内容をまとめました。

松縄下所遺跡では，７世紀後半～８世紀後半の道路状遺構が発見され，これは今でも高松平野に残る条里地割と一致することから，条里地割の起源が従来の８世紀初頭とする考えから７世紀後半まで遡る可能性がでてきました。つまり，松縄下所遺跡の道路状遺構は，条里地割が見られる高松平野の景観の原型ともいうべきものであります。奇しくも，条里地割の原型が，現代の条里施行ともいうべき区画整理事業によって見つかりましたことは，長い歴史の中で繰り返される人々の営みを痛感せずにはいられません。

最後になりましたが，今回の調査に際し，多大なご理解とご協力をいただきました地元の方々や関係者に感謝の意を表するものです。

平成13年３月

高松市教育委員会

教育長　浮田　清市

例　言

1　本報告書は，太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第四冊で，高松市松縄町に所在する松縄下所遺跡の調査報告を収録した。

2　発掘調査および整理作業については，高松市教育委員会が実施した。

3　調査から報告書作成に至るまで，下記の関係機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略，五十音順）

香川県教育委員会　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　讃岐文化遺産研究会
条里制研究会
石上英一（東京大学史料編纂所所長）　伊藤寿和（日本女子大学文学部教授）
内田忠賢（お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助教授）
木下　良（古代交通研究会会長）　金田章裕（京都大学大学院文学研究科教授）
工楽善通（元奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長）
高橋　学（立命館大学文学部教授）　外山秀一（皇學館大學文學部教授）
丹羽佑一（香川大学経済学部教授）　日野　尚（佐賀大学教育学部教授）
山中敏史（奈良国立文化財研究所集落遺跡研究室長）

4　松縄下所遺跡の調査は，平成２年度および平成３年度に文化振興課文化財専門員山本英之が試掘調査を実施し，本調査を平成３年度および平成４年度に山本が行った。整理作業は，山本および同課文化財専門員川畑聰が行った。

5　本報告書掲載の写真撮影は，楠華堂（代表楠本真紀子）に委託した。

6　本報告書の編集・執筆は，川畑が行った。

7　本文の挿図として，国土地理院発行２万５千分の１地形図「高松南部」および高松市都市計画図２千５百分の１「三条」「木太２」を一部改変して使用した。

8　発掘調査で得られたすべての資料は，高松市教育委員会で保管している。

9　本報告書の高度値は海抜高を表し，方位は座標北を表す。

１０　本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
ＳＡ…柵列　ＳＢ…掘立柱建物　ＳＤ…溝　ＳＫ…土坑　ＳＰ…柱穴　ＳＸ…不明遺構

目　次

はじめに
例　言
目　次

第１章　調査の経緯と経過
第１節　調査の経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 1

第２章　地理的環境・歴史的環境
第１節　地理的環境 …… 3
第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　調査の成果
第１節　調査区の設定と遺構番号の整理 …… 5
第２節　遺跡の概要と基本層序 …… 5
第３節　弥生時代の遺構と遺物 …… 19
第４節　飛鳥～奈良時代の遺構と遺物 …… 22
第５節　平安時代末期～鎌倉時代の遺構と遺物 …… 42
第６節　江戸時代の遺構と遺物 …… 47
第７節　その他の遺構と遺物 …… 51

第４章　まとめ
第１節　遺構の変遷 …… 62
第２節　道路状遺構と条里地割 …… 62

挿図目次

第１図　調査区位置図
第２図　周辺主要遺跡分布図
第３図　松縄下所遺跡周辺の微地形
第４図　北Ⅰ区遺構配置図
第５図　北Ⅱ区遺構配置図
第６図　北Ⅲ区遺構配置図
第７図　南Ⅰ・Ⅱ区遺構配置図
第８図　南Ⅲ区遺構配置図
第９図　南Ⅳ区遺構配置図
第10図　南Ⅴ区遺構配置図
第11図　南Ⅵ区遺構配置図
第12図　南Ⅰ区西壁土層図
第13図　北Ⅲ区南壁土層図
第14図　北Ⅰ区旧河道土層図
第15図　SD51出土遺物実測図
第16図　SD52出土遺物実測図
第17図　北Ⅰ区遺構面出土遺物実測図
第18図　石器実測図
第19図　SD01出土遺物実測図
第20図　SD02出土遺物実測図
第21図　南Ⅳ区SD01・02・03・05断面図
第22図　南Ⅱ区SD03断面図
第23図　南Ⅱ・Ⅲ区SD04・05断面図
第24図　SD03出土遺物実測図①
第25図　SD03出土遺物実測図②
第26図　SD05出土遺物実測図
第27図　SD09出土遺物実測図
第28図　SD10出土遺物実測図
第29図　溝(SD)断面図
第30図　SD34出土遺物実測図
第31図　SB01平面・断面図
第32図　SB06平面・断面図
第33図　SB06出土遺物実測図
第34図　SB07平面・断面図
第35図　SB07出土遺物実測図
第36図　SB08平面・断面図
第37図　SB09出土遺物実測図
第38図　SB09平面・断面図
第39図　SB11平面・断面図
第40図　SA04平面・断面図
第41図　南Ⅳ区SP01平面・断面図
第42図　南Ⅳ区SP01出土遺物実測図
第43図　南Ⅳ区SP28・34出土遺物実測図
第44図　南Ⅳ区ピット出土遺物実測図
第45図　南Ⅲ区ピット出土遺物実測図
第46図　SK06出土遺物実測図
第47図　SK11出土遺物実測図
第48図　SX05出土遺物実測図
第49図　SX05断面図
第50図　SX09平面・断面図
第51図　SX09出土遺物実測図
第52図　SX10断面図
第53図　SX10出土遺物実測図
第54図　SX11出土遺物実測図
第55図　南Ⅲ区黒色粘質土層出土遺物実測図
第56図　SB02出土遺物実測図
第57図　SB02平面・断面図
第58図　SK16出土遺物実測図
第59図　SX04出土遺物実測図
第60図　SX01～04断面図
第61図　不定形小区画水田区画図
第62図　不定形小区画水田出土遺物実測図
第63図　SD45出土遺物実測図
第64図　SK01出土遺物実測図①
第65図　SK01出土遺物実測図②
第66図　SK01出土遺物実測図③
第67図　SK03出土遺物実測図
第68図　SK13出土遺物実測図
第69図　SB03平面・断面図
第70図　SB04平面・断面図
第71図　SB05平面・断面図
第72図　SA01平面・断面図
第73図　SA03平面・断面図
第74図　SA06平面・断面図
第75図　SD06出土遺物実測図
第76図　SD07断面図
第77図　SD07出土遺物実測図
第78図　SD08出土遺物実測図
第79図　SD23出土遺物実測図
第80図　SD39出土遺物実測図
第81図　SD41出土遺物実測図
第82図　SK05断面図
第83図　SK15断面図
第84図　SX06～08断面図
第85図　南調査区遺構面出土遺物実測図
第86図　南Ⅲ区遺構面出土遺物実測図
第87図　南Ⅳ区遺構面出土遺物実測図
第88図　南Ⅵ区遺構面出土遺物実測図
第89図　南Ⅱ区遺構面出土遺物実測図
第90図　遺構変遷図(弥生時代)
第91図　遺構変遷図(飛鳥～奈良時代)
第92図　遺構変遷図(平安時代末期～鎌倉時代)
第93図　遺構変遷図(江戸時代)
第94図　高松平野の条里プラン
第95図　道路状遺構(SD01～05)と条里地割

挿表目次

第１表　松縄下所遺跡発掘調査実績表
第２表　新旧調査区および遺構名対照表
第３表　石器観察表
第４表　北Ⅲ区不定形小区画水田一覧表
第５表　SD51出土土器観察表
第６表　SD52出土土器観察表
第７表　北Ⅰ区遺構面出土土器観察表
第８表　SD01出土土器観察表
第９表　SD02出土土器観察表
第10表　SD03出土土器観察表
第11表　SD05出土土器観察表
第12表　SD09出土土器観察表
第13表　SD10出土土器観察表
第14表　SD34出土土器観察表
第15表　SB06出土土器観察表
第16表　SB07出土土器観察表
第17表　SB09出土土器観察表
第18表　南Ⅳ区SP01出土土器観察表
第19表　南Ⅳ区SP28・34出土土器観察表
第20表　南Ⅳ区ピット出土土器観察表
第21表　南Ⅲ区ピット出土土器観察表
第22表　SK06出土土器観察表
第23表　SK11出土土器観察表
第24表　SX05出土土器観察表
第25表　SX09出土土器観察表
第26表　SX10出土土器観察表
第27表　SX11出土土器観察表
第28表　南Ⅲ区黒色粘質土包含層出土土器観察表
第29表　SB02出土土器観察表
第30表　SK16出土土器観察表
第31表　SX04出土土器観察表
第32表　北Ⅲ区水田出土土器観察表
第33表　SD45出土土器観察表
第34表　SK01出土土器観察表
第35表　SK03出土土器観察表
第36表　SK13出土土器観察表
第37表　SD06出土土器観察表
第38表　SD07出土土器観察表
第39表　SD08出土土器観察表
第40表　SD23出土土器観察表
第41表　SD39出土土器観察表
第42表　SD41出土土器観察表
第43表　南調査区遺構面出土土器観察表
第44表　南Ⅲ区遺構面出土土器観察表
第45表　南Ⅳ区遺構面出土土器観察表
第46表　南Ⅵ区遺構面出土土器観察表
第47表　南Ⅱ区遺構面出土土器観察表

附図目次

附図１　北Ⅰ区遺構配置図
附図２　北Ⅱ・Ⅲ区遺構配置図
附図３　南Ⅰ～Ⅲ区遺構配置図
附図４　南Ⅳ～Ⅵ区遺構配置図
附図５　全調査区遺構配置図

図 版 目 次

図版１　北Ⅰ・Ⅱ区空中写真
図版２－１　北Ⅲ区空中写真
図版２－２　南Ⅰ・Ⅱ区空中写真
図版３－１　南Ⅲ・Ⅳ区空中写真
図版３－２　南Ⅴ・Ⅵ区空中写真
図版４－１　北Ⅰ区全景（西から）
図版４－２　北Ⅲ区全景（東から）
図版５－１　南Ⅰ区全景（南から）
図版５－２　南Ⅱ区全景（南から）
図版５－３　南Ⅲ区全景（南から）
図版５－４　南Ⅳ区全景（南から）
図版６－１　南Ⅴ区全景（南から）
図版６－２　南Ⅵ区全景（北から）
図版６－３　南Ⅲ区SD03礫群検出状況（北から）
図版６－４　南Ⅲ区SD03～05･09･10交差点全景（東から）
図版７－１　南Ⅰ区SB01全景（南から）
図版７－２　南Ⅲ区SB02全景（北から）
図版８－１　南Ⅲ区SB03･04全景（北から）
図版８－２　南Ⅳ区SB06全景（北から）
図版９－１　南Ⅳ区SB07全景（東から）
図版９－２　南Ⅳ区SB08･09全景（西から）
図版10－１　北Ⅱ区SB49･50全景（北から）
図版10－２　南Ⅳ区SP01遺物出土状況（東から）
図版11－１　南Ⅱ～Ⅲ区SD03遺物出土状況
図版11－２　南Ⅲ区SD03遺物出土状況
図版12　出土遺物写真
図版13　出土遺物写真
図版14　出土遺物写真
図版15　出土遺物写真
図版16　出土遺物写真
図版17　出土遺物写真
図版18　出土遺物写真
図版19　出土遺物写真

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

松縄下所遺跡は，高松市松縄町616番地ほかに位置し，太田第２土地区画整理事業の中で整備が進められている都市計画道路福岡多肥上町線の予定地にあたる。

太田第２土地区画整理事業は，昭和62年２月２日の香川県都市計画審議会による都市計画決定を受けて，昭和63年度から実施されている。事業区域は，高松市街の南郊約６kmの田園地帯で，林，木太，太田，多肥の４地区に及ぶ360.6haは全国有数の事業規模である。この地域には，一般国道11号高松東道路ならびに四国横断自動車道の建設が予定され，これによる急速な市街化が予想されるため，路線沿線の市街化ならびに都市基盤整備を計画的に進める目的で事業計画がなされたものである。

第２節　調査の経過

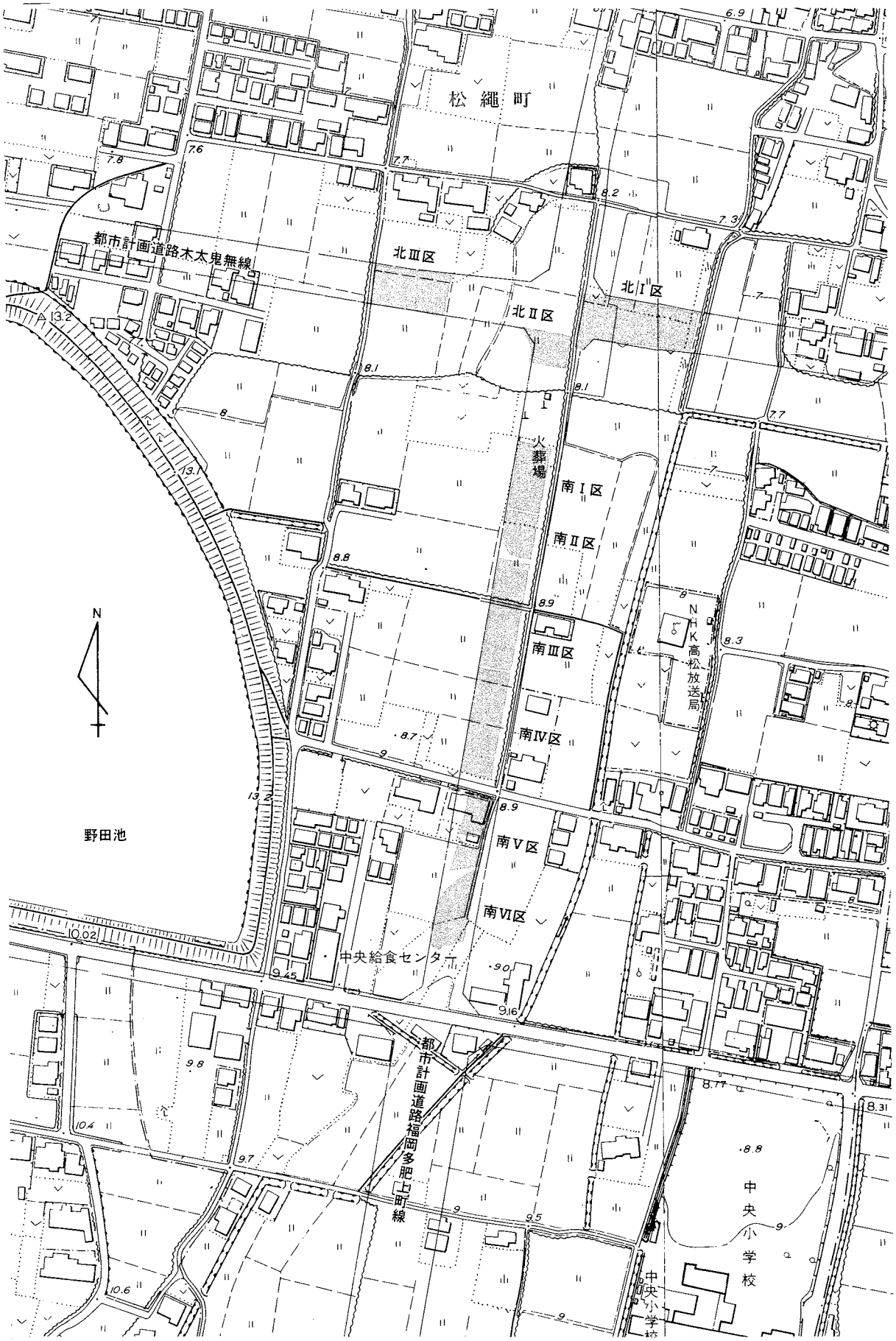
発掘調査も含めて区画整理事業にかかる施工は，所有者の土地使用権を一定期間停止するための仮換地指定の後に行われる。松縄下所遺跡の場合は，まず平成２年の秋に最初の仮換地指定がなされ，これを受けて平成２年度に最初の試掘調査を実施した。この結果，試掘対象地全域が埋蔵文化財包蔵地と認められたため，発掘調査を実施することとなった。平成３年の８月29日から12月27日にかけて，高松市教育委員会の直営で発掘調査を実施した。ついで，平成３年度本調査地北側にあたる都市計画道路木太鬼無線との交差点部分を中心とした箇所に用地確保がなされたため，これを平成３年９月から12月にかけての間に２次にわたって試掘調査を実施し，埋蔵文化財包蔵地と確認された部分について，前年度の未着手部分を加えて調査範囲を設定した。本調査は，平成4年6月15日から９月30日にかけて行い，掘削業務は別枝土建（株）に業者発注した。航空写真測量は，平成３年度本調査分を朝日航洋（株），平成４年度本調査分をアジア航測（株）に発注した。各年次における発掘調査の実績については第１表と第１図のとおりである。

また，発掘調査の成果については，速報または啓発的なものとしてこれまでに以下の刊行物に報告している。

山本英之「高松平野の条里遺構」『条里制研究』第８号　条里制研究会　1992年
「松縄下所遺跡」『讃岐国弘福寺領の調査』　高松市教育委員会　1992年
「松縄下所遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報』平成４年度　香川県教育委員会　1993年
「松縄下所遺跡」『高松市内埋蔵文化財試掘調査概報』平成３・４年度　高松市教育委員会　1993年
『むかしの高松』第4号　高松市教育委員会　1994年

調査区	試掘期間	本調査期間	本調査面積	施工者
南II～IV区 南VI区	H2.7.18～H3.3.8	H3.8.29～12.27	2,825㎡	高松市教育委員会 直営
北I～III区 南I・V区	H3. 9.6～ 9.12 H3.12.9～12.11	H4.6.15～9.30	3,900㎡	別枝土建（株） 業者発注

第１表　松縄下所遺跡発掘調査実績表



第1図　調査区位置図（縮尺1/3,000）

第２章　地理的環境・歴史的環境

第１節　地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に，低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地，東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km，南北16kmの範囲に及んでいる。また，この平野は，讃岐山脈から流下し，北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川などによって形成された扇状地でもある。

さて，現在石清尾山塊の西を直線に北流する香東川は，17世紀初頭の河川改修によって一本化されたもので，古代以前においては香川町大野付近から東へ分岐した後，石清尾山塊の南側を回り込んで平野中央部を東北流する別の主流路があった。この旧流路は，現在では水田及び市街地の地下に埋没してしまったが，空中写真等から複数の旧河道が知られており，発掘調査によってもその痕跡が確認されている。なお，17世紀の廃川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

第２節　歴史的環境

高松平野中央部で，最古の遺跡は，縄文時代草創期の有舌尖頭器が表採された大池遺跡である。しばらくの空白後，晩期の遺跡が発掘されており，木製農具が出土した林・坊城遺跡やさこ・長池遺跡，東中筋遺跡，木器加工場であった居石遺跡等をあげることができる。

弥生時代前期に移ると，天満・宮西遺跡や汲仏遺跡で集落をめぐる環壕が発掘されるとともに，上西原遺跡，さこ・長池遺跡，さこ・長池II遺跡で不定形小区画水田が見つかっている。中期になると，さこ・長池遺跡，さこ・長池II遺跡，井手東Ｉ遺跡，多肥松林遺跡で住居跡，周溝墓等を伴う集落の一部が調査されているが，規模・密度は総じて希薄である。

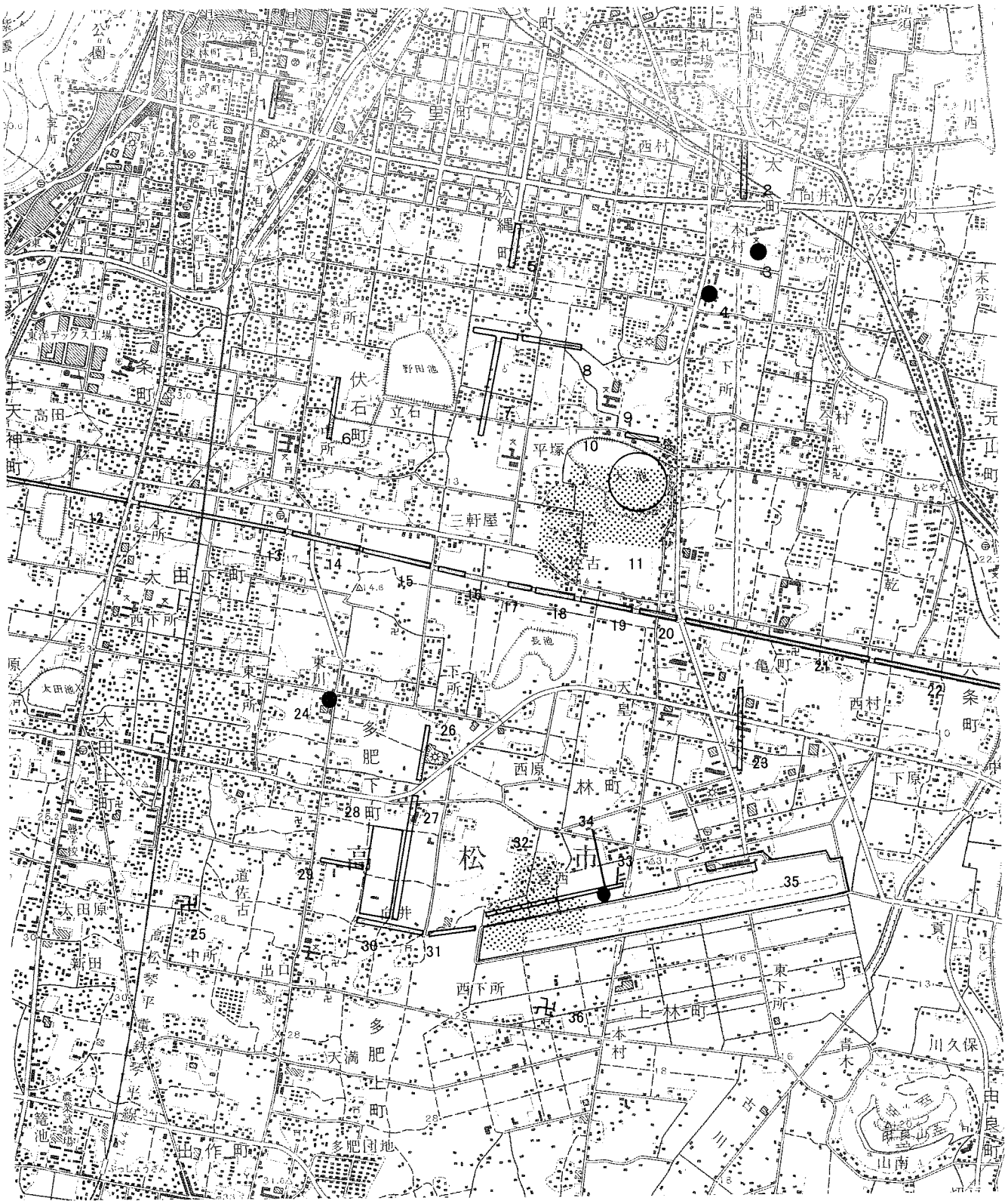
弥生時代後期になると遺跡は数・規模ともに爆発的に増加し，上天神遺跡，天満・宮西遺跡，凹原遺跡，空港跡地遺跡のように十数棟の住居跡と大量の廃棄土器を伴う集落が出現する。

古墳時代では，これら弥生時代後期の遺跡のうち上天神遺跡，凹原遺跡，空港跡地遺跡が前期初頭に至るまで集落が存続することが知られている。また，太田下須川遺跡では古墳時代中期の集落を検出している。一方，古墳の分布状況を概観すると，石清尾山古墳群をはじめ，主に丘陵上に築造されている。

古代では条里遺構が注目される。各遺跡で，条里界線にあたる遺構を検出しており，平安時代から現代に至るまで時代は様々であるが，条里地割施行が段階的に進んだことが明らかになりつつある。中でも，松縄下所遺跡は現地表面の条里とは10数メートルずれた位置にありながら地表条里と同方向の道路側溝状の遺構を検出し，時期も７世紀代にまで遡り得るなど高松平野の条里施行に関わる可能性がある重要な遺跡である。また，さこ・長池II遺跡では旧香川・山田郡界線にあたる部分に幅６ｍの間隔で並行する道路側溝を検出している。

中世では，さこ・長池遺跡，さこ・松ノ木遺跡で，旧河道が埋没していく過程の凹地に小規模な区画の水田面が検出されている。また，空港跡地遺跡では，溝に囲まれた屋敷跡を確認している。

近世では，さこ・長池II遺跡，空港跡地遺跡で，集落跡を確認しており，当時の農民の生活を知ることができる。



1 東中筋遺跡　2 木太中村遺跡　3 白山神社古墳　4 木太本村Ⅱ遺跡　5 天満・宮西遺跡
6 キモンドー遺跡　**7 松縄下所遺跡**　8 境目下西原遺跡　9 上西原遺跡　10 大池遺跡
11 弘福寺領田図比定地北地区　12 上天神遺跡　13 太田下須川遺跡　14 蛙股遺跡
15 居石遺跡　16 井手東Ⅱ遺跡　17 井手東Ⅰ遺跡　18 さこ・長池Ⅱ遺跡　19 さこ・長池遺跡
20 さこ・松ノ木遺跡　21 林坊城遺跡　22 六条上所遺跡　23 宗高坊城遺跡　24 汲仏遺跡
25 多肥廃寺　26 凹原遺跡　27 日暮松林遺跡　28 多肥松林遺跡　29 松林遺跡
30 多肥松林遺跡　31 多肥宮尻遺跡　32 弘福寺領田図比定地南地区　33 宮西・一角遺跡
34 一角遺跡　35 空港跡地遺跡　36 拝師廃寺

第2図　周辺主要遺跡分布図（縮尺1/25,000）

第３章　調査の成果

第１節　調査区の設定と遺構番号の整理

松縄下所遺跡の調査は平成３・４年度の２ヶ年次にわたったが，調査の便宜上，各年度毎に調査面積を４～５区画に分割して順次調査を進めていった。すなわち，平成３年度の調査区は，都市計画道路福岡多肥上町線の予定地，南北延長約210mを都合４調査区に分割して，また平成４年度はその北側の延長35mと，福岡多肥上町線に直交して計画されている都市計画道路木太鬼無線との交差点部分および交差点付近の木太鬼無線路線内の計５調査区を設定した。

しかし，これらは区画整理事業の仮換地指定による用地確保の進捗と，実際の現地での立ち入りの可否，または調査の手順にしたがって設定したものであるため，遺跡全体の地形や遺構等のまとまりとは全く無関係になっている。このため，調査区を都市計画道路木太鬼無線予定地の東から順に北Ⅰ～Ⅲ区と呼称し，都市計画道路福岡多肥上町線予定地を北から順に南Ⅰ～Ⅵ区と呼称して報告したい。調査時の調査区番号との対照は，第２表のとおりである。また，遺構番号についても，同一の遺構でありながら，調査区・調査年度により別の呼称を用いているため，本報告では第２表のとおり，遺構番号の整理を行った。

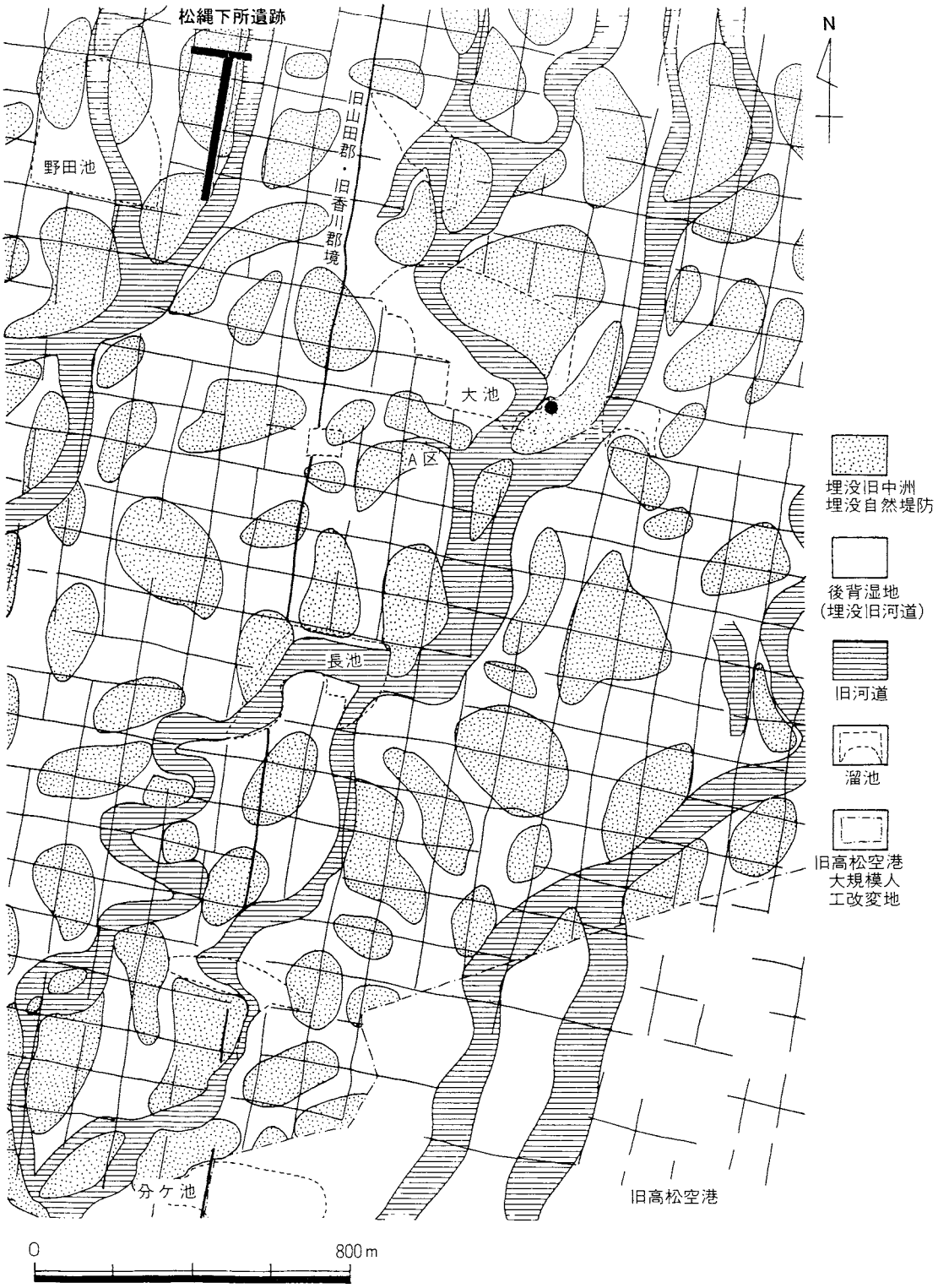
第２節　遺跡の概要と基本層序

調査前の当該地は，おもに水田・宅地として利用されていた。都市計画道路福岡多肥上町線では24m幅員の道路予定地のうち総長290m分が，都市計画道路木太鬼無線で24m幅員の道路予定地のうち総長105m分が調査対象となり，合わせた面積約9,480㎡を測る。そのうち，現有道路や用水路部分などを除くと，実際の掘削は面積6,725㎡となった。

松縄下所遺跡は，高松平野の中央部に位置し，南北に細長い安定した微高地上に立地する。微高地の東西両側には香東川の埋没旧河道が存在するが，西側の旧河道は現在，野田池という溜池として利用されている。調査区は，南北に細長い微高地を縦断する形となっており，南から北に進むに従い，標高がしだいに低くなる。

遺跡の基本層序は，南区ではおおむね南Ⅰ区西壁土層図（第12図）のとおりである。一方，北区ではおおむね北Ⅲ区南壁土層図（第13図）のとおりであるが，北Ⅰ区東端の自然河川においては第14図のように異なってくる。遺構面は，黄褐色シルト質極細砂～細砂層の上面であり，標高約７～８ｍを測る。どの遺構も浅いことから，遺構面は後世の削平をかなり受けていると考えられる。検出した遺構は，弥生時代，飛鳥～奈良時代，平安時代末期～鎌倉時代，江戸時代の４時期である。

これらの遺構は，溝跡59条，掘立柱建物跡11棟，柵列６列，柱穴155個(掘立柱建物跡と柵列の柱穴を除く)，土坑16基，不明遺構16基を数え，遺構および包含層から30㎝コンテナ約50箱分の遺物が出土している。遺構は，どれも後世の削平を受けており，次節以降報告する遺構の法量は現存の値を示す。それでは，時代ごとに遺構と遺物を報告する。

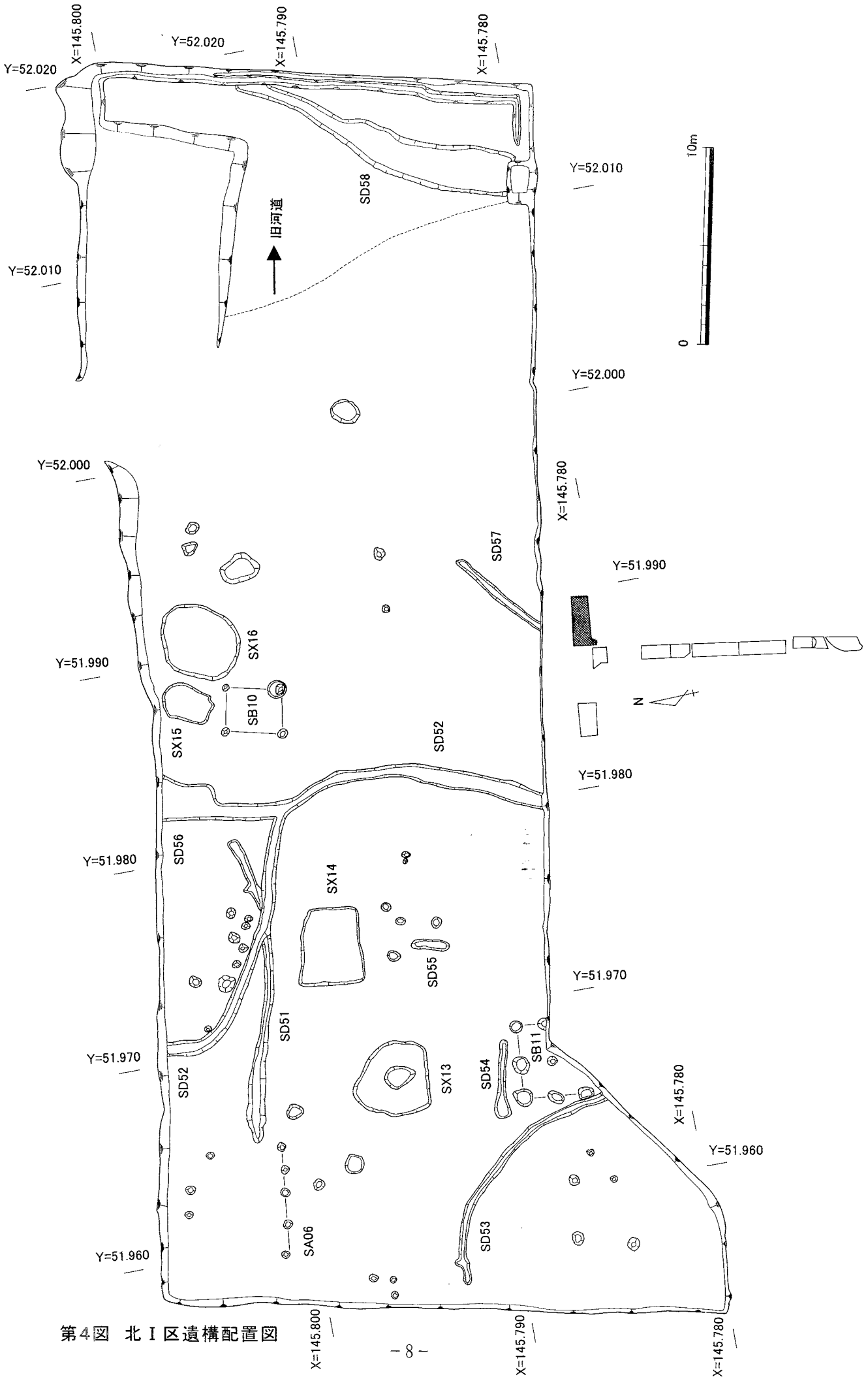


第3図　松縄下所遺跡周辺の微地形（高橋学1992をもとに作成）

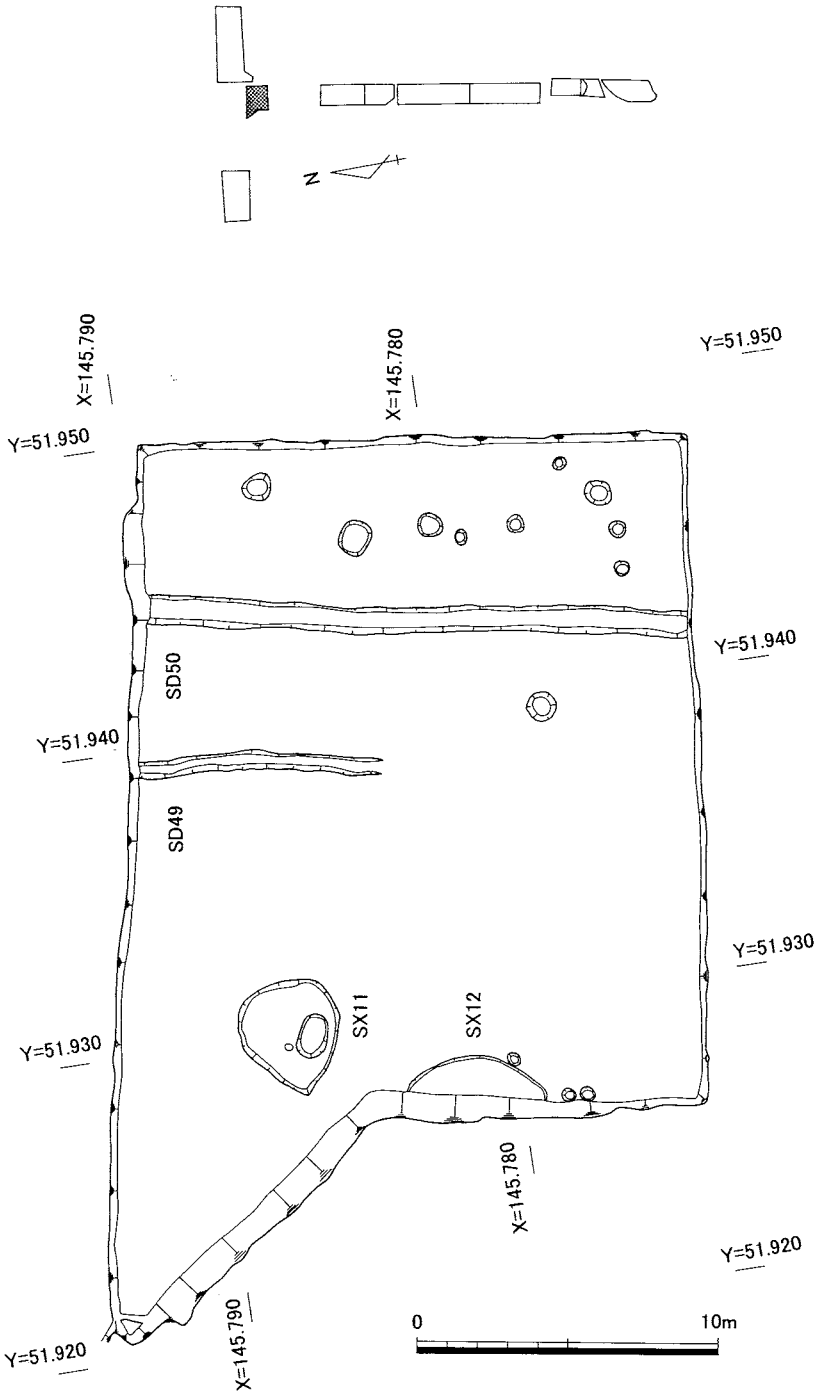
		旧遺構番号						備考
新調査区番号		南Ⅰ区	南Ⅱ区	南Ⅲ区	南Ⅳ区	南Ⅴ区	南Ⅵ区	
旧調査区番号		92年度1区	91年度1区	91年度2区	91年度3区	92年度2区	91年度4区	
新	SD 01			SD01	SD01			SD03上層
	SD 02				SD02			SD05上層
	SD 03	SD01	SD08	SD08	SD08	SD01	SD01・41	SD01下層
	SD 04	SD02	SD04	SD03				
	SD 05			SD03・06	SD03	SD02	SD50	SD02下層
	SD 06	SD03	SD32					
	SD 07			SD02・04				
	SD 08				SD18			
	SD 09			SD11				
	SD 10			SD12				
	SD 11	SD08						
	SD 12	SD09						
	SD 13	SD07						
	SD 14	SD06						
	SD 15	SD05						
	SD 16	SD04						
	SD 17		SD30					
	SD 18		SD29					
	SD 19		SD34					
	SD 20		SD31					
	SD 21			SD05				
	SD 22			SD14				
遺	SD 23			SD13				
	SD 24			SD15				
	SD 25			SD10				
	SD 26				SD16			
	SD 27				SD30			
	SD 28				SD26			
	SD 29				SD23			
	SD 30				SD22			
	SD 31				SD21			
	SD 32				SD20			
	SD 33				SD19・28			
	SD 34				SD25			
	SD 35				SD24			
	SD 36					SD14		
	SD 37					SD15		
	SD 38					SD16	SD42・51	
	SD 39					SD13		
	SD 40					—		
	SD 41						SD44	
	SD 42						SD43	
	SD 43						SD45	
構	SD 44						—	
	SD 45						SD49	
	SD 46						SD47	
	SD 47					SD18		
	SD 48					SD17		
	SB 01	SB01						
	SB 02			SB01				
	SB 03			SB02				
	SB 04			SB03				
	SB 05				SB07			
	SB 06				SB06			
	SB 07				SB04			
	SB 08				SB08			
	SB 09				SB05			
	SA 01	SA01						
	SA 02	SA02						
	SA 03			SA01				
	SA 04				SA02			
	SA 05						—	
	SK 01			SK01				—
	SK 02			SK02				
	SK 03			SK03				
番	SK 04	SK01						
	SK 05			SK05				
	SK 06			SK06				
	SK 07					SK04		
	SK 08					SK03		
	SK 09					—		
	SK 10					SK02		
	SK 11					SK01		
	SK 12						SK10	
	SK 13						SK11	
	SK 14						SK12	
	SK 15						SK13	
	SK 16						SD48	
	SX 01	SX01						
	SX 02	SX02						
	SX 03	SX03						
	SX 04	SX04						
	SX 05			SX01				
	SX 06			SX02				
	SX 07			SX03				
	SX 08			SX05				
	SX 09				SX09			
号	SX 10				SX07			

		旧遺構番号		
新調査区番号		北Ⅰ区	北Ⅱ区	北Ⅲ区
旧調査区番号		92年度4区	92年度5区	92年度3区
新	SD 49		SD02	
	SD 50		SD01	
	SD 51	SD01		
	SD 52	SD02		
	SD 53	SD03		
遺	SD 54	SD04		
	SD 55	SD05		
	SD 56	SD06		
	SD 57	—		
構	SD 58	—		
	SD 59			—
	SB 10	—		
	SB 11	SB02		
	SA 06	—		
番	SX 11		SX01	
	SX 12		—	
	SX 13	SX01		
	SX 14	SX02		
	SX 15	SX03		
号	SX 16	SX04		

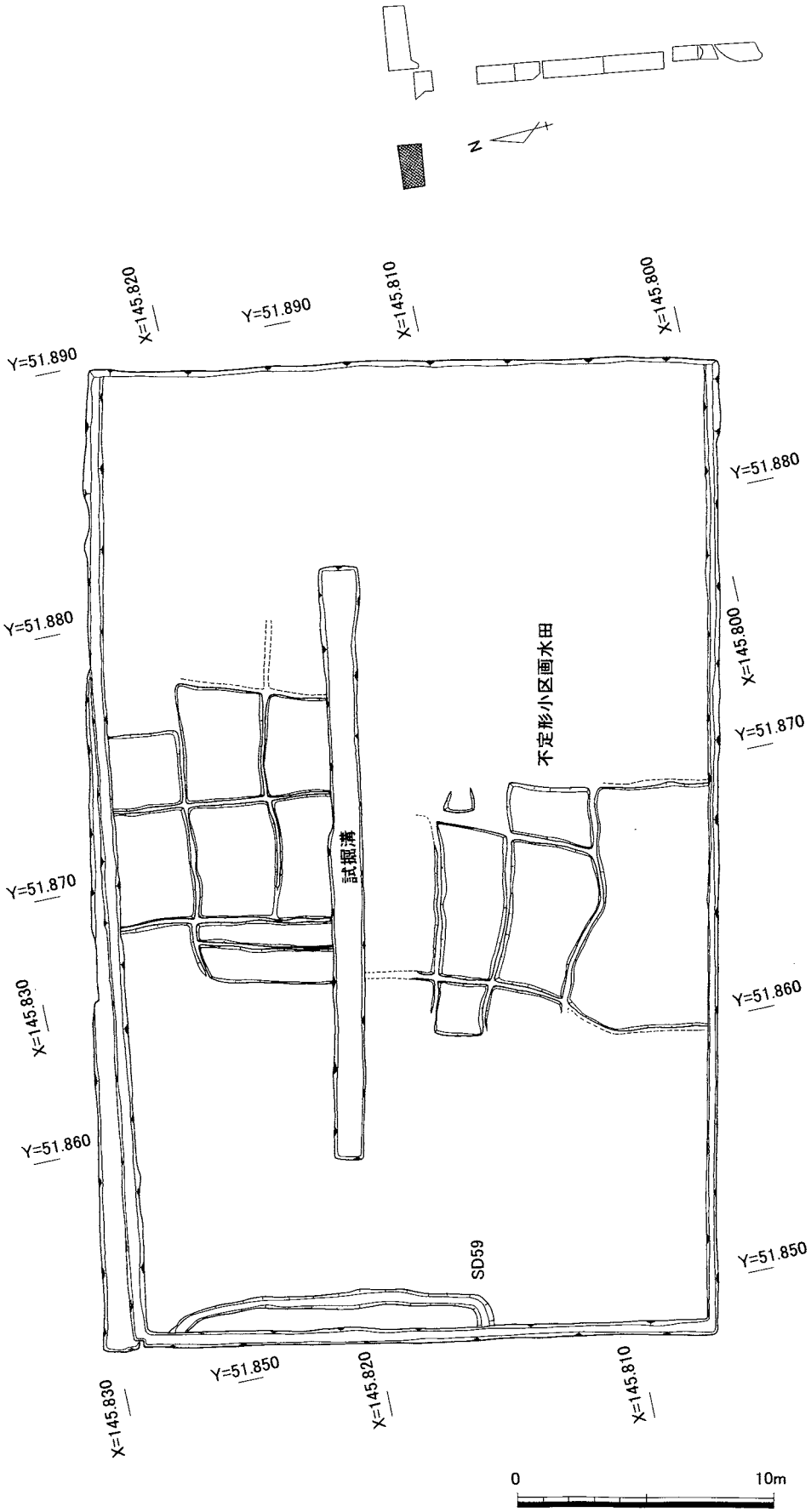
第２表　新旧調査区および遺構名対照表



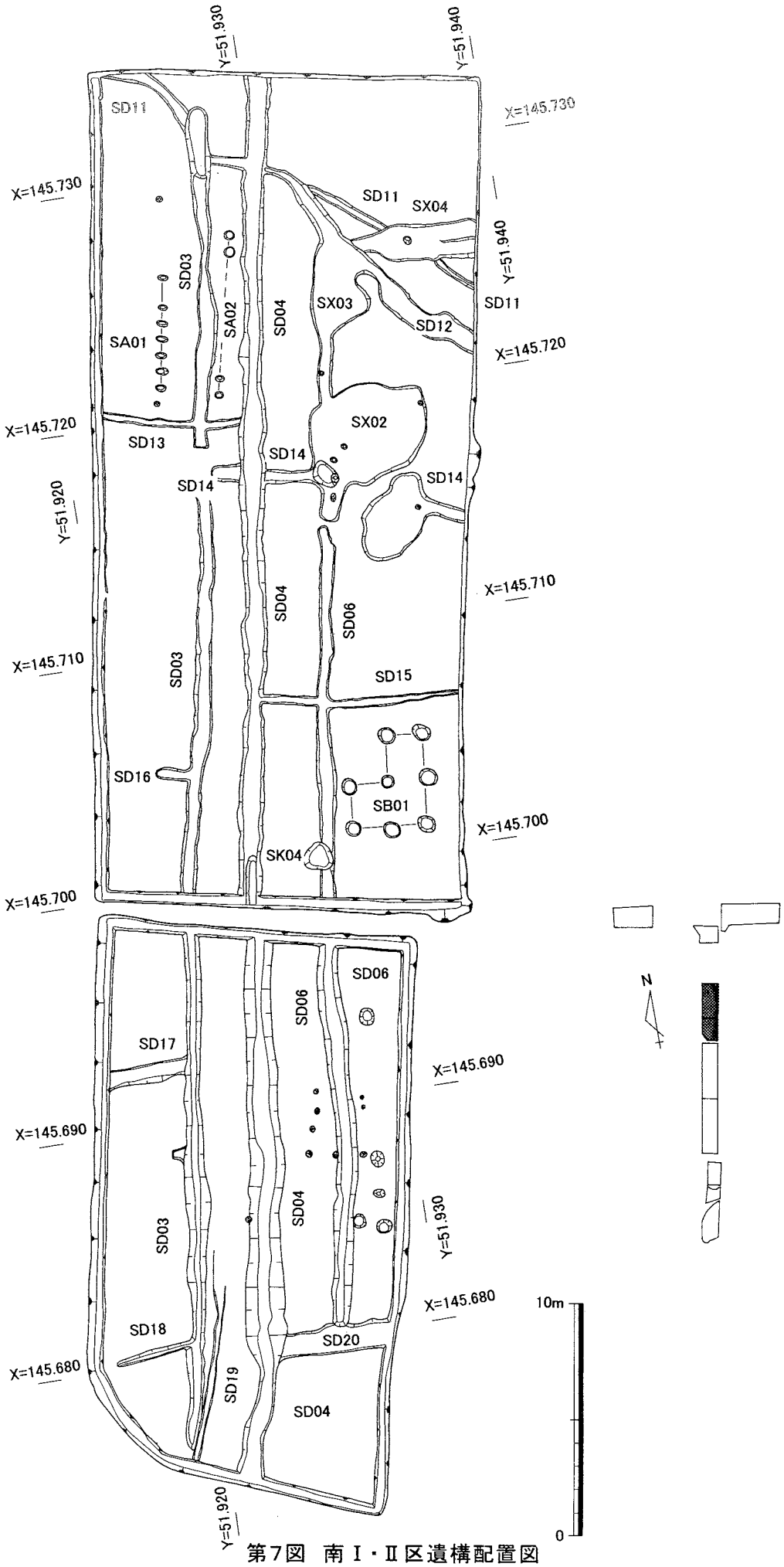
第4図　北Ⅰ区遺構配置図



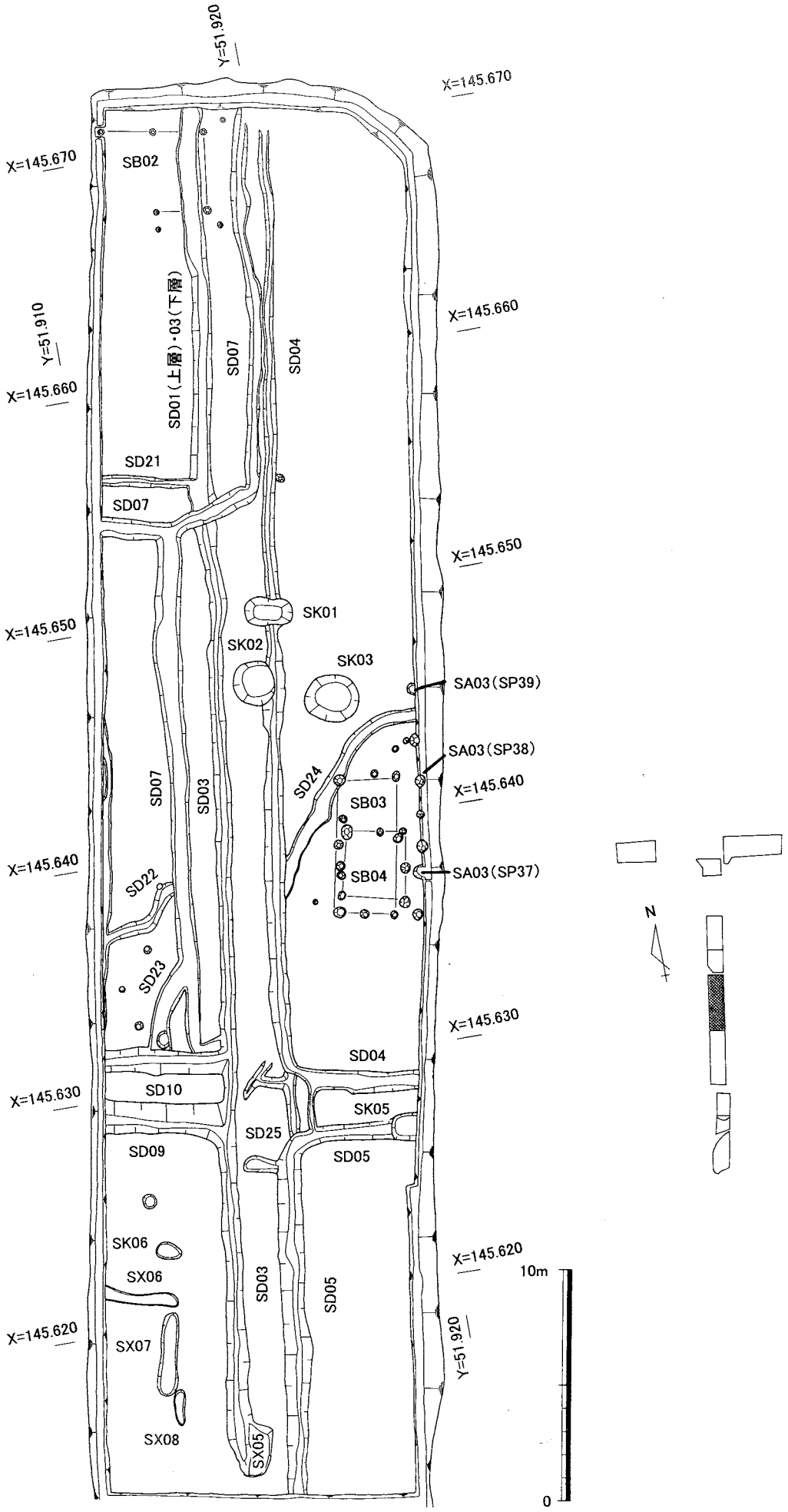
第5図　北Ⅱ区遺構配置図



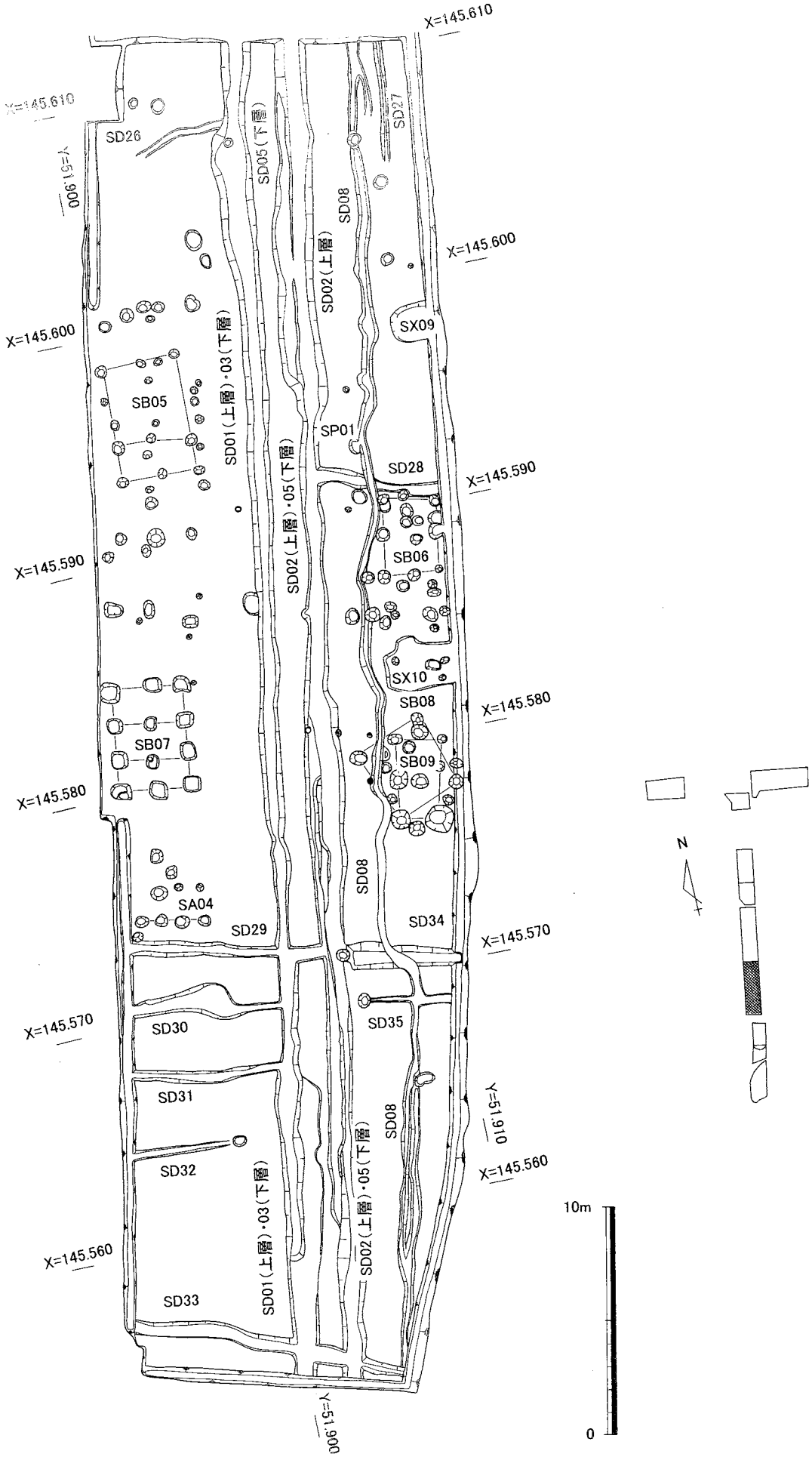
第6図　北Ⅲ区遺構配置図



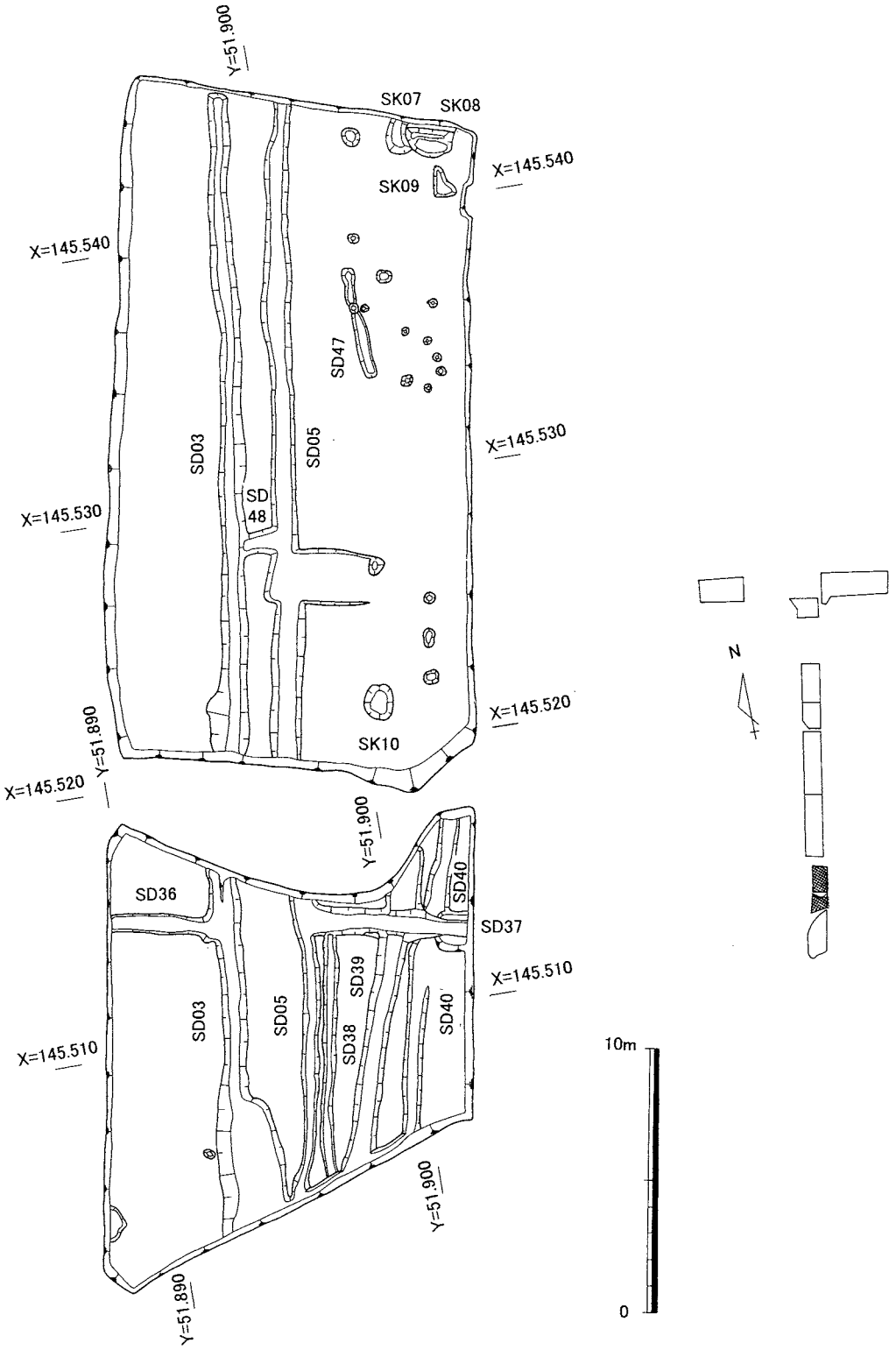
第7図　南Ⅰ・Ⅱ区遺構配置図



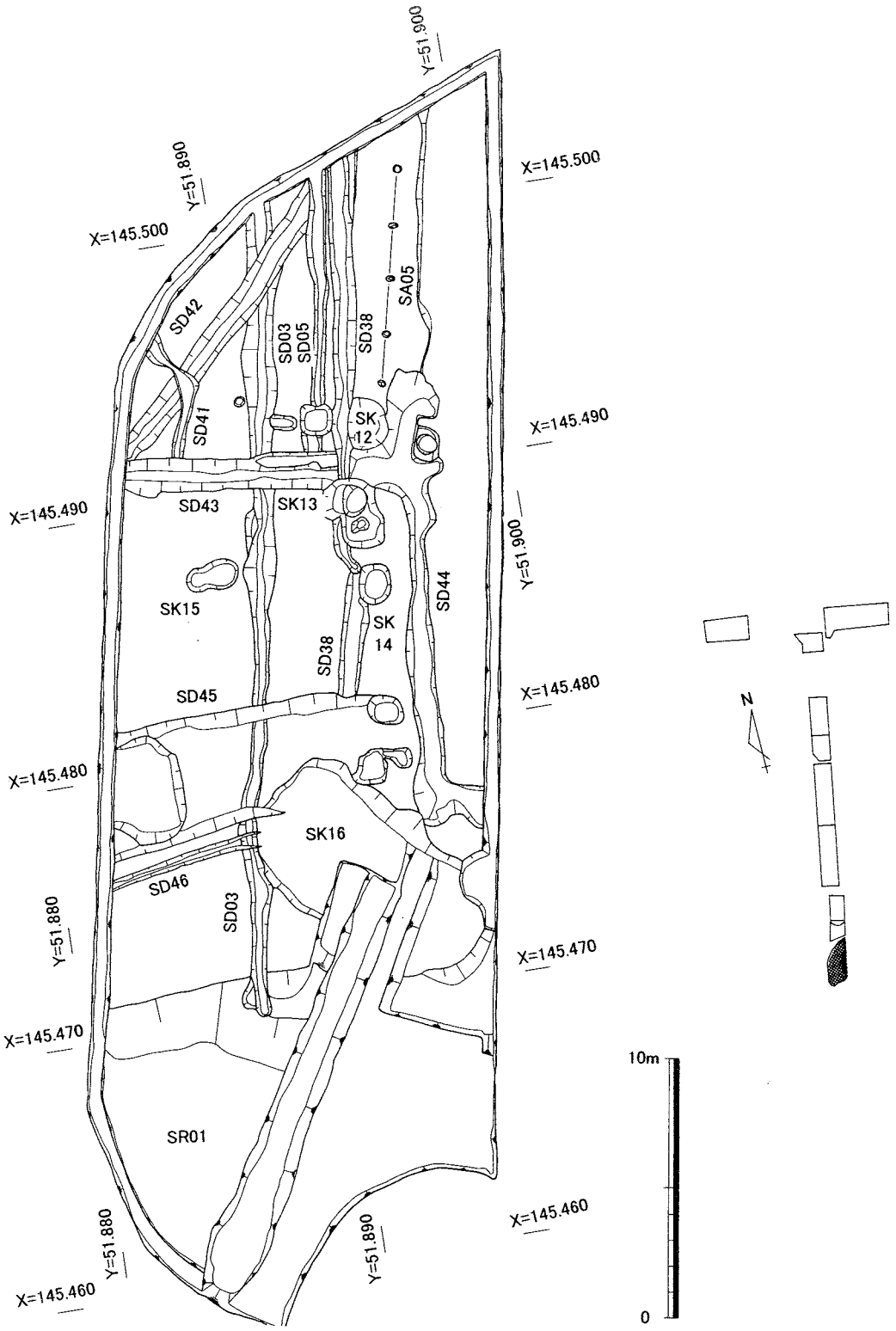
第8図　南Ⅲ区遺構配置図



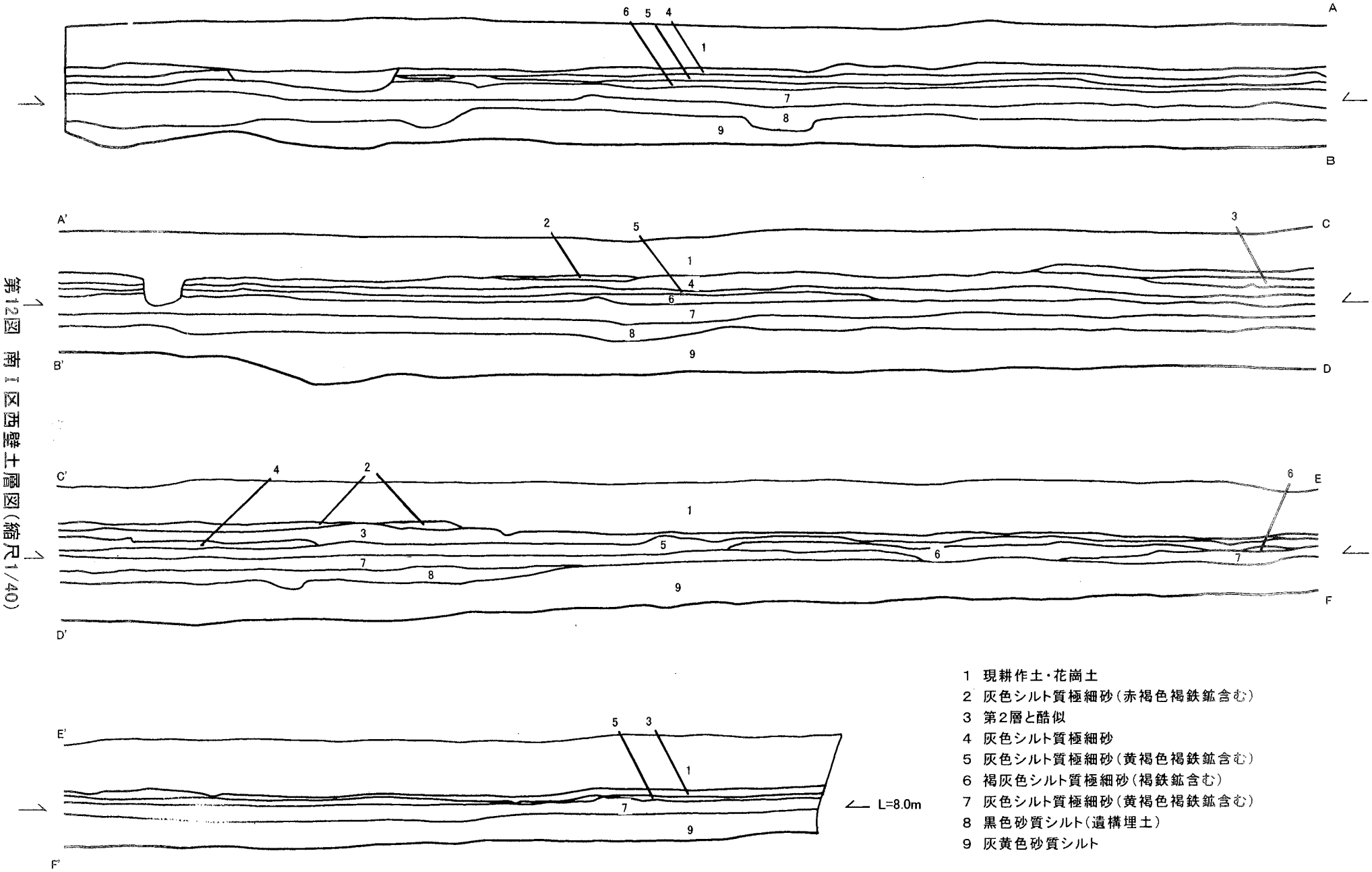
第9図　南Ⅳ区遺構配置図



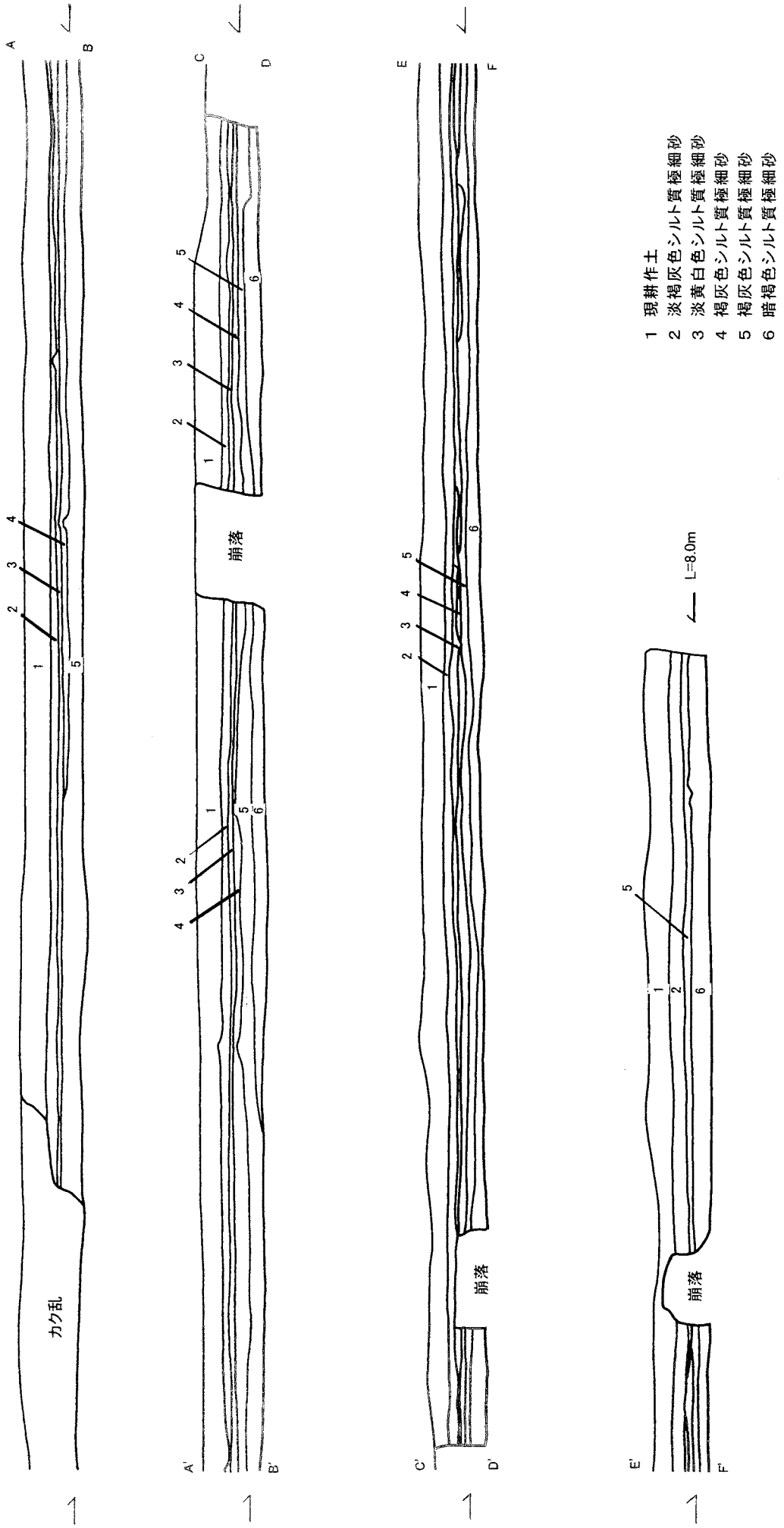
第10図　南Ⅴ区遺構配置図



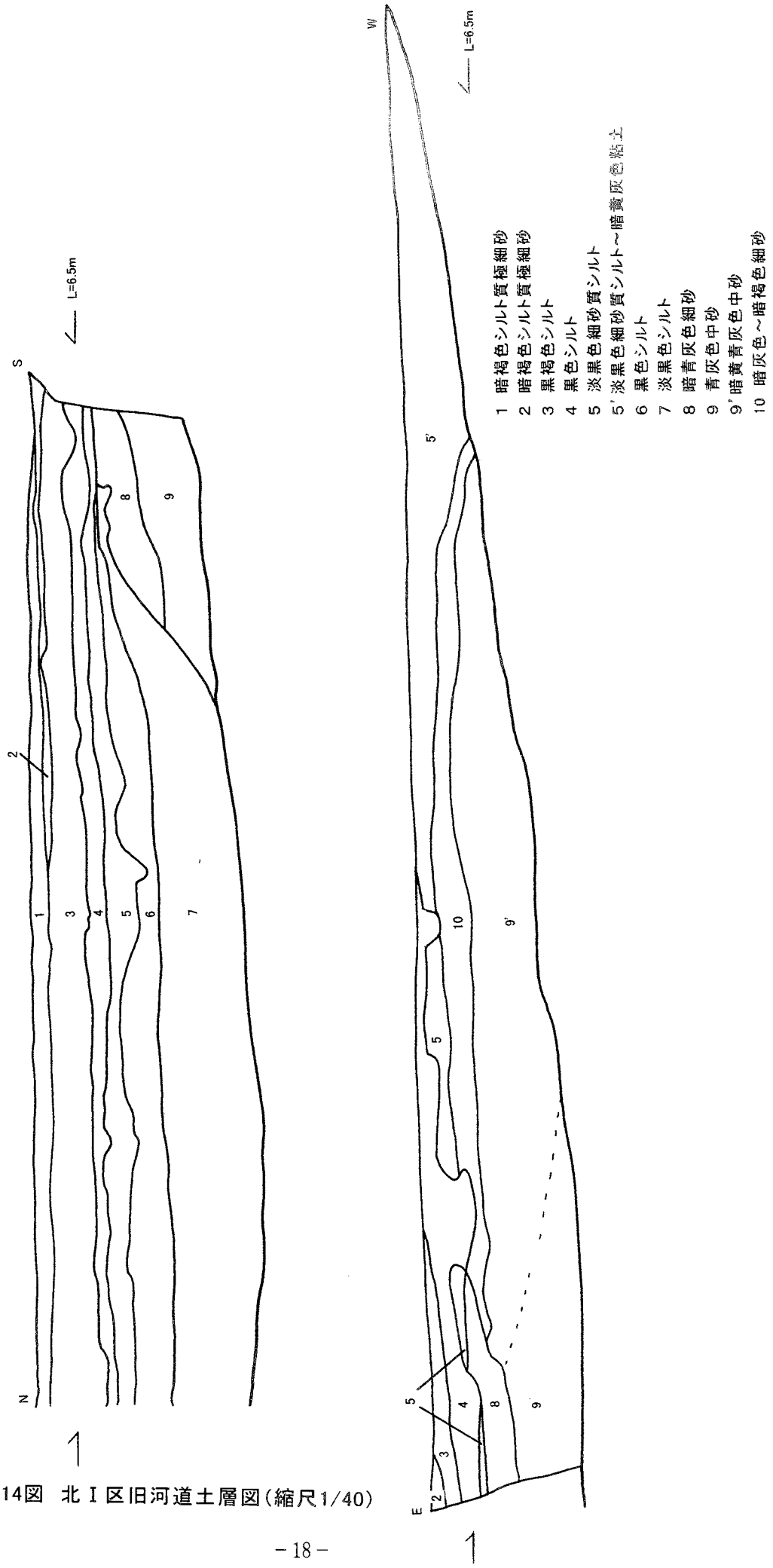
第11図　南Ⅵ区遺構配置図



第12図 南Ⅰ区西壁土層図(縮尺1/40)



第13図　北Ⅲ区南壁土層図(縮尺1/40)



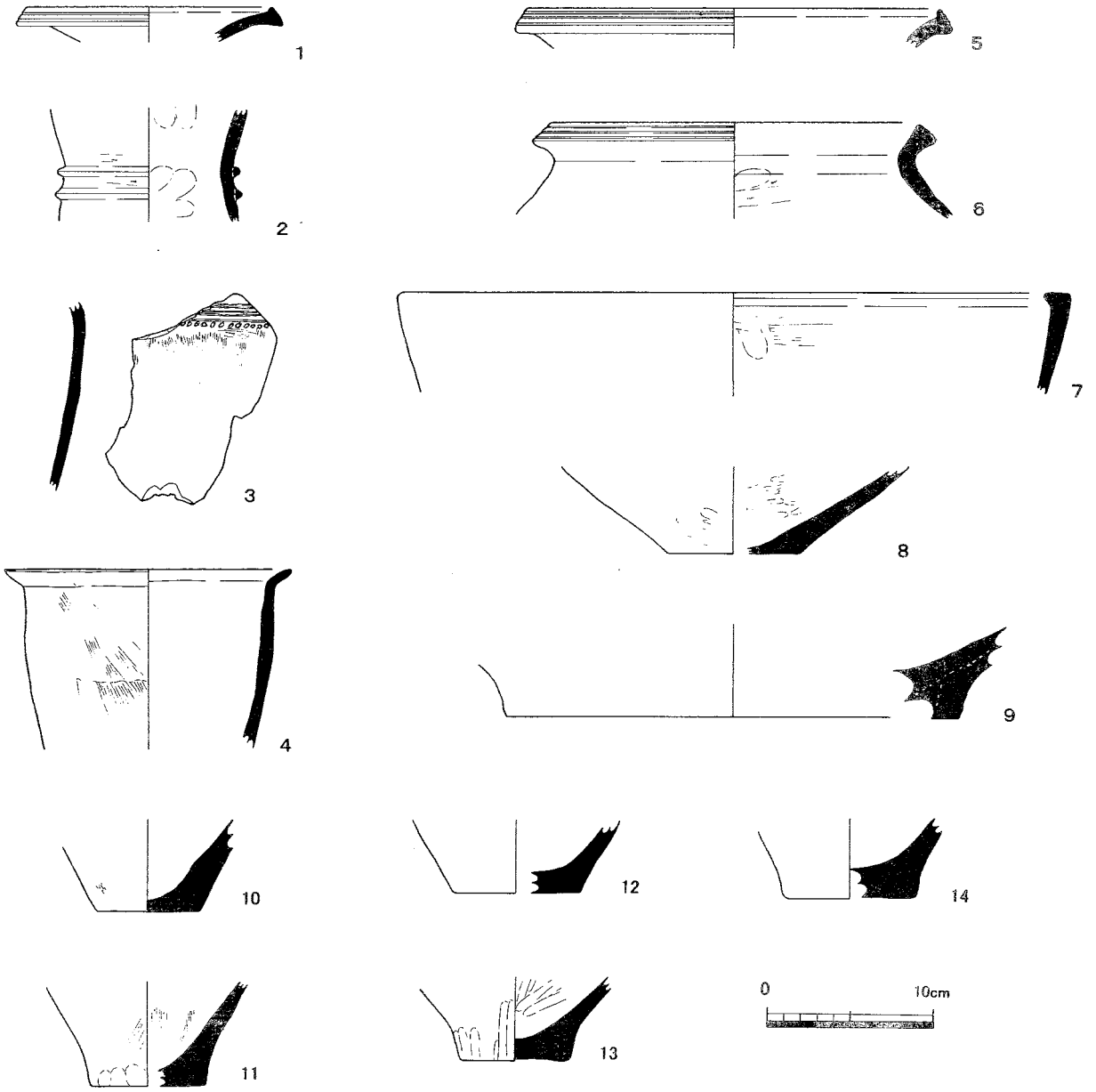
第14図　北Ⅰ区旧河道土層図(縮尺1/40)

第3節　弥生時代の遺構と遺物

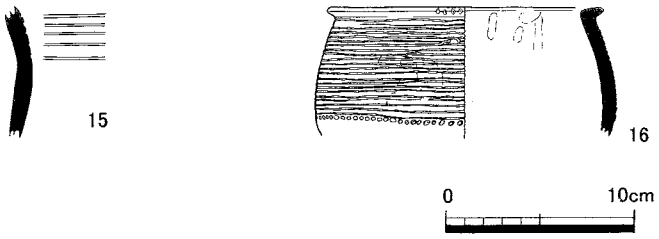
弥生時代の遺構は，北Ⅰ区にのみ認められ，確実なものは溝2条のみである。ただし，土器・石器が北区だけでなく南区にも広く散布しており，弥生時代の遺構が南区にも存在していた可能性を示唆する。石器についてはここで一括して報告し，違う時代の遺構に混入している土器については次節以降において報告している。

ＳＤ５１

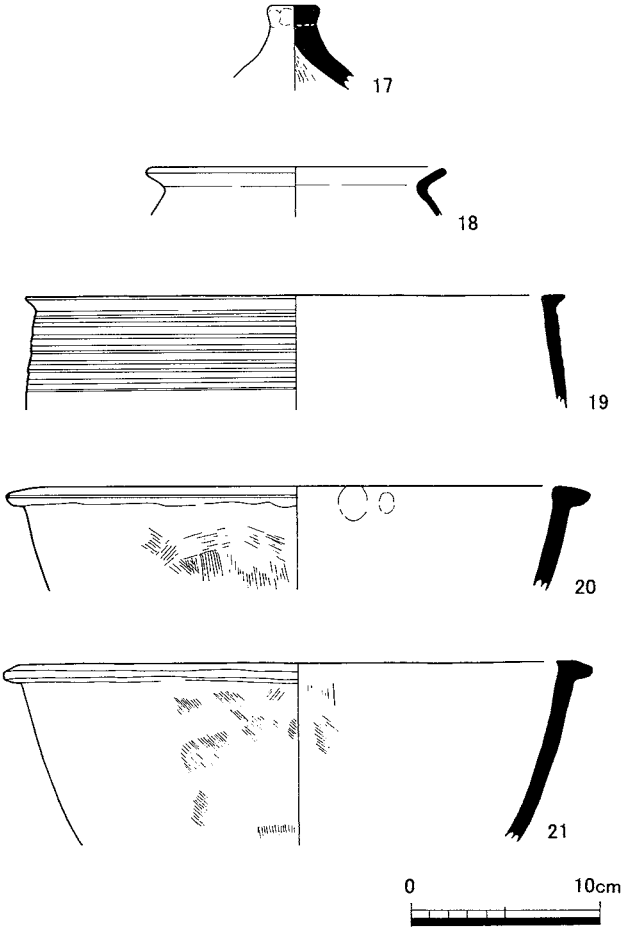
北Ⅰ区北西で西から東に弓なりにのびる溝である（第４図）。両端とも，調査区内で消失している。傾斜は西から東に向かって緩やかに下っている。幅0.4～１ｍ，深さ0.1ｍ，検出長15.8ｍを測る。出土遺物は弥生土器のみであるが，弥生時代前期末に属するもの(第15図2～4，8～14)と，後期前半に属するもの(第15図1，5～7)の２時期がある。



第15図　SD51出土遺物実測図



第16図　SD52出土遺物実測図



第17図　北Ⅰ区遺構面出土遺物実測図

ＳＤ５２

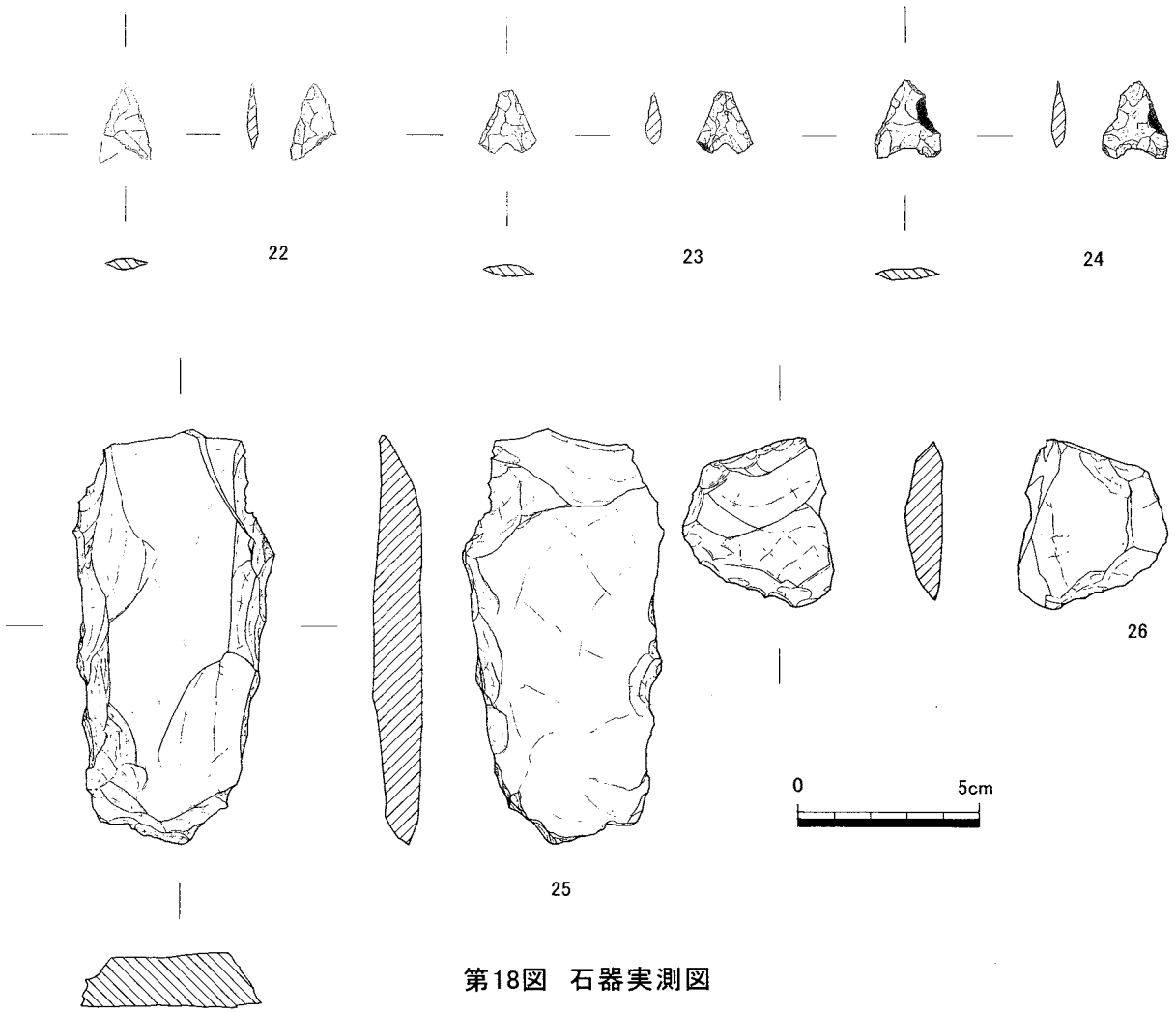
北Ⅰ区西で北から南にＳ字状にのびる溝である（第４図）。南北端とも，調査区外にのびる。傾斜は北から南に向かって緩やかに下っている。途中，SD56と合流するが，切り合い関係は不明である。幅0.5～１ｍ，深さ0.1～0.2ｍ，検出長28.7ｍを測る。出土遺物の弥生土器(第16図15・16)は，多条篦描沈線をもつ甕片であり，弥生時代前期末に属する。

北Ⅰ区遺構面

北Ⅰ区からは，遺構精査時に弥生土器(第17図17～21)が出土している。18のみが弥生時代後期の甕で，他は前期末のものである。前期末の甕(19～21)は，いわゆる逆Ｌ字形の口縁をもつもので，多条篦描沈線を有するものもある。

石器

北区および南区北半分より，弥生時代の石器(第18図22～26)が，後世の遺構に混入して，または遺構精査時に出土している。22～24は石鏃である。25は石鍬，26は用途不明の不定形石器である。



第18図　石器実測図

番号	器種	法量（cm）				材質	特徴
		現存長	最大幅	最大厚	重さ(g)		
22	打製石鏃	2.1	1.2	0.3		サヌカイト	基部の一部を欠損。両側から調整。
23	打製石鏃	1.8	1.6	0.4	(0.7)	サヌカイト	基部の一部と先端を欠損。両側から調整。
24	打製石鏃	2.2	1.8	0.3	(1.0)	サヌカイト	側縁部の一部を欠損。両側から調整。
25	打製石鍬	10.3	5.0	1.3	12.5	サヌカイト	両側から調整。
26	打製不定形石器	4.7	4.2	1.0		サヌカイト	両側から調整。

第３表　石器観察表

第４節　飛鳥～奈良時代の遺構と遺物

この節で扱う時代は，古代の中でも特に飛鳥～奈良時代である。道路状遺構１組，掘立柱建物跡６棟，柵列１列，土坑２基，不明遺構３基，包含層１層を確認した。

(1)道路状遺構

道路状遺構は，北II区および南地区全域において，２本の直線溝が並行して南北に調査区を縦断する形で全長約267m検出した。これら直線溝は，南地区では，Ｎ９°Ｅの方位をもち，２本の溝と溝の間の距離は，溝の中心どうしで2.3～2.5mを測る。北II区では，南地区と若干様相が異なり，SD49より残りがよいSD50はＮ10°Ｅの方位をもち，２本の溝と溝の間の距離は，溝の中心どうしで約５～5.5mを測る。北II区の溝間は，南地区のものより倍以上となっており，SD50は別にしてSD49は道路状遺構とは違うものかもしれない。

さらに，これら直線溝は，灰褐色シルト質極細砂を埋土とする上層溝（SD01･02）と，黒褐色シルト質極細砂を埋土とする下層溝（SD03･04･05）に分けることができる。上層溝と下層溝はほぼ重複しているが，一部に重複していない箇所もあることから，下層溝の埋没後に上層溝が改めて掘削されたものと考えられる。

上記の南北方向の溝と約52～58m間隔をもって，２本一組となって直交する直線溝も検出している。南III区のSD09･10をはじめ，南IV区のSD29･34，南V区のSD36･37，南II区のSD20といった東西方向の溝が該当する。このうち，南III区において，SD03･04･05とSD09･10の溝によって道路の交差点を形成している。

ＳＤ０１・０２（第８・９・21図）

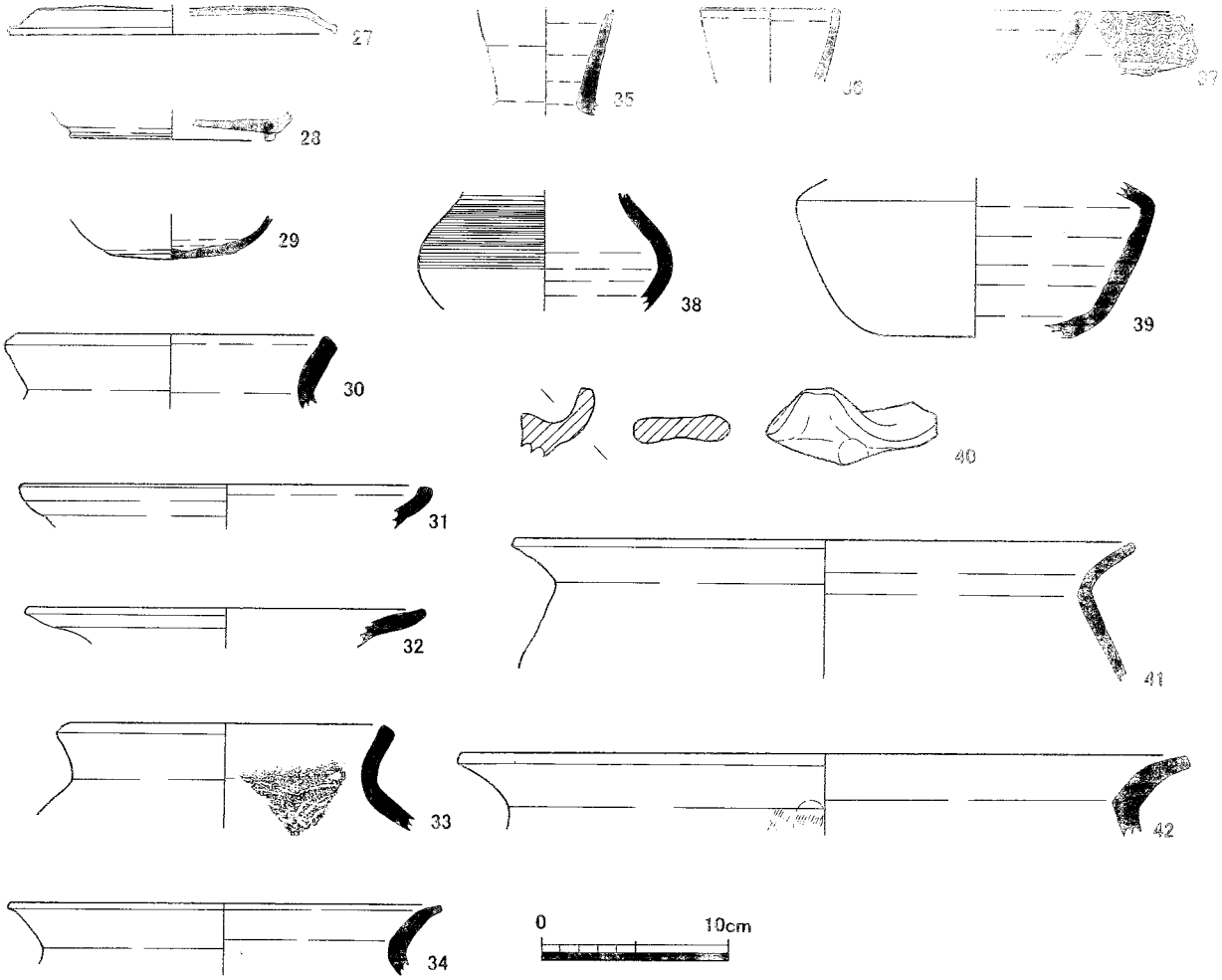
上層溝は，西側のものをSD01，東側のものをSD02と呼称した。これら上層溝は，後世の削平により部分的にしか残っておらず，SD01は南IV区約58.5m分と南III区北端約22m分，SD02は南IV区約58.5m分のみしか確認できなかった。溝の幅約１m，深さは最も残りが良いところで約0.1mを測る。埋土は，前述のとおり灰褐色シルト質極細砂であり，横断面はおおむね逆台形を呈する。

出土遺物は，SD01から，須恵器杯蓋（第19図27）・杯身(28)・壺(29)・甕(30･31･33･37)・長頸壺(35･39)・短頸壺(38)・平瓶(36)，土師器壺(32)・甕(34･41･42)・把手(40)がある。もっとも年代観を表す須恵器を概観すると，田辺編年TK217（中村編年II－６，III－１）から中村編年IV－２・３のものが見られ，７世紀後半から８世紀後半と考えられる。

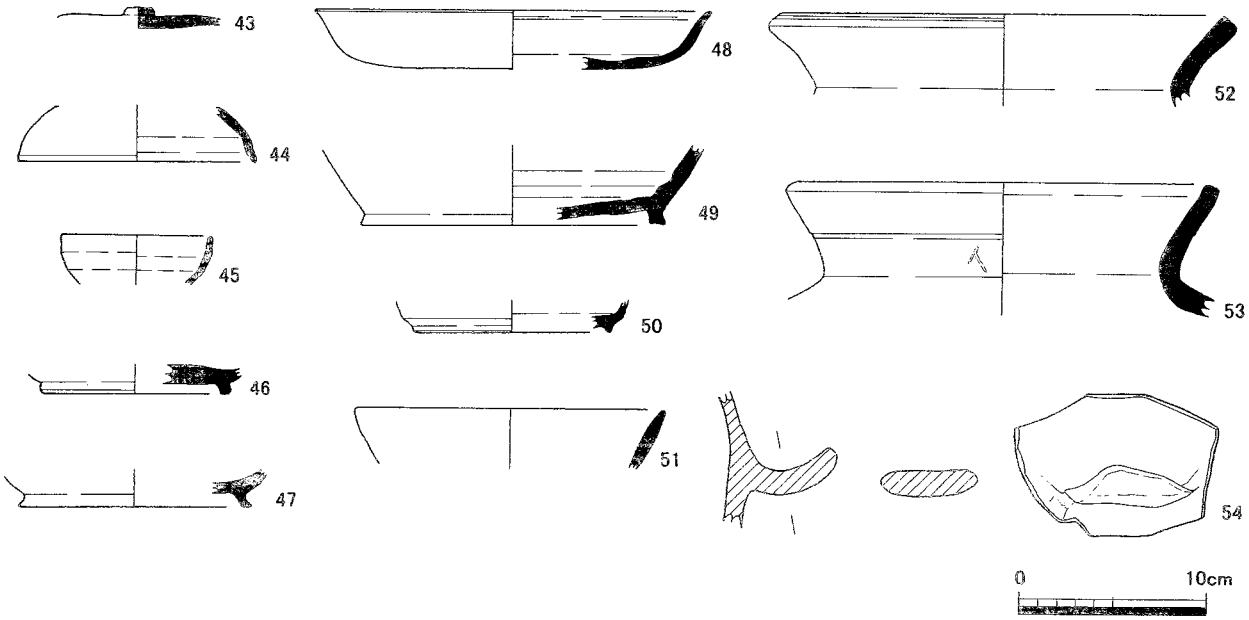
SD02から，須恵器杯蓋（第20図43･44）・杯身(45～47･50)・皿(48)・壺(49)・甕(52･53)，土師器杯(51)・把手(54)が出土している。須恵器を概観すると，田辺編年TK217（中村編年II－６，III－１）から中村編年IV－２・３のものが見られ，SD01同様に７世紀後半から８世紀後半と考えられる。

ＳＤ０３・０４・０５（第７～11･21～23図）

下層溝は，西側のものをSD03，東側のものをSD04･05と呼称した。SD04･05は，南III区でそれぞれ直角に東へ折れ繋がらないことから別番号としたが，本来は同一のものである。これら下層溝は，南地区全域で確認でき，北端の南Ｉ区以北では北II区のSD49･51に対応すると想定され，南端の南VI区では微高地から旧河道へと地形が変化するのに伴い消失している。溝の幅0.4～１m，深さは平均0.1～0.2mだが最も深いところで0.4mを測る。溝の傾斜は，全体を通して見た場合，南から北に向かって傾いている。



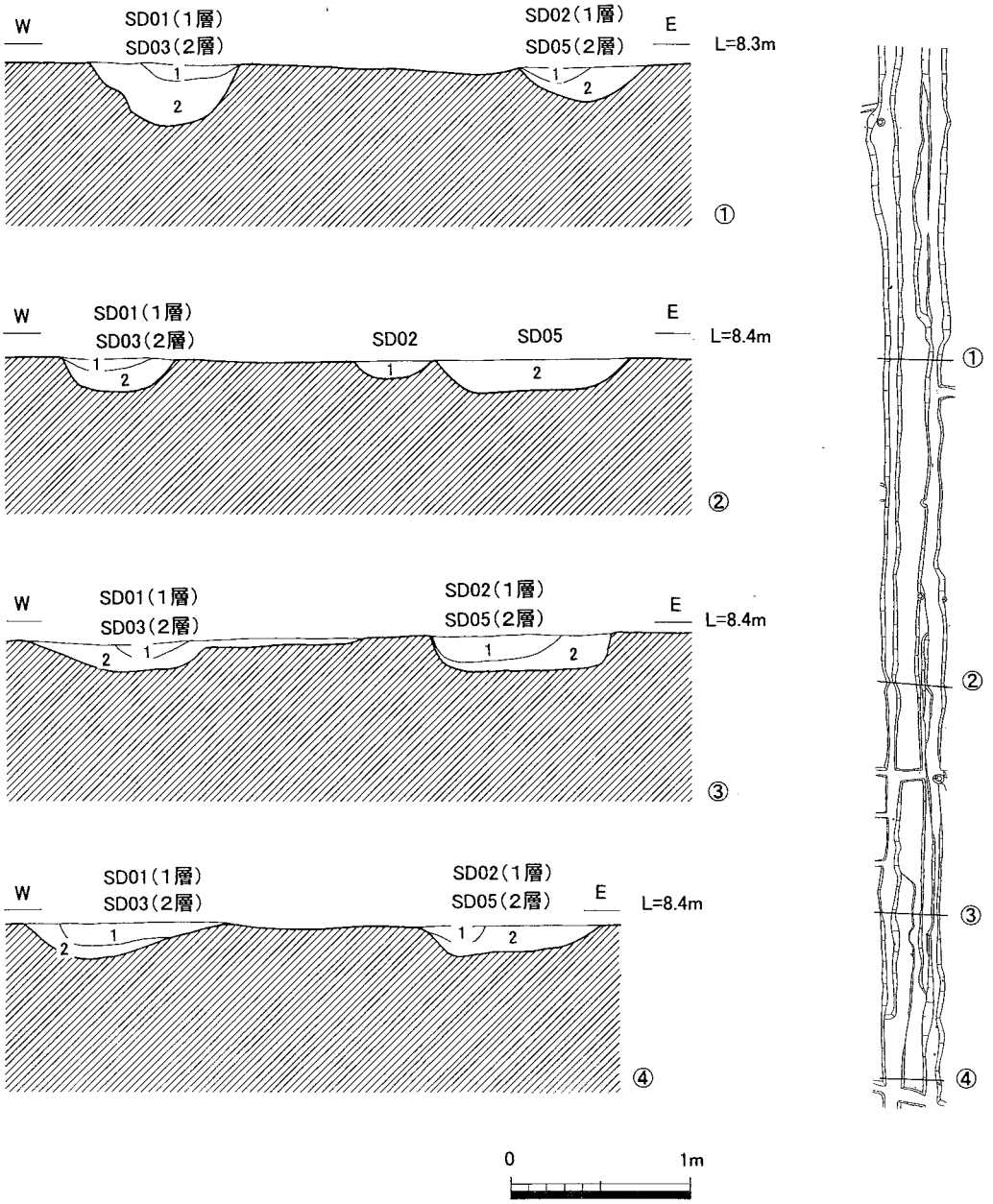
第19図　SD01出土遺物実測図



第20図　SD02出土遺物実測図

埋土の層位は，前述したとおり，黒褐色シルト質極細砂を基本とするが，南II区北のSD04で最も残りが良い箇所では，４層にまで分層が可能である。第１層淡黄褐色シルト質極細砂，第２層暗褐色シルト質極細砂，第３層黒褐色シルト質極細砂，第４層褐色シルト質極細砂である。横断面は，おおむね逆台形を呈する。

出土遺物は，SD03から，須恵器杯蓋（第24･25図55～61）・杯身(62～71･82～84)・高坏(72～81)・壺(85～86)・平瓶(87)・提瓶(88)・短頸壺(89)・壺(90)・甕(91)・横瓶(92)，土師器杯(93～95)・甕(97･98･100～102)・鉢(103)，土錘(96)，弥生土器(99･104～108)がある。須恵器を概観すると，田辺編年TK217（中村編年II－６，III－１）から中村編年IV－２・３のものが



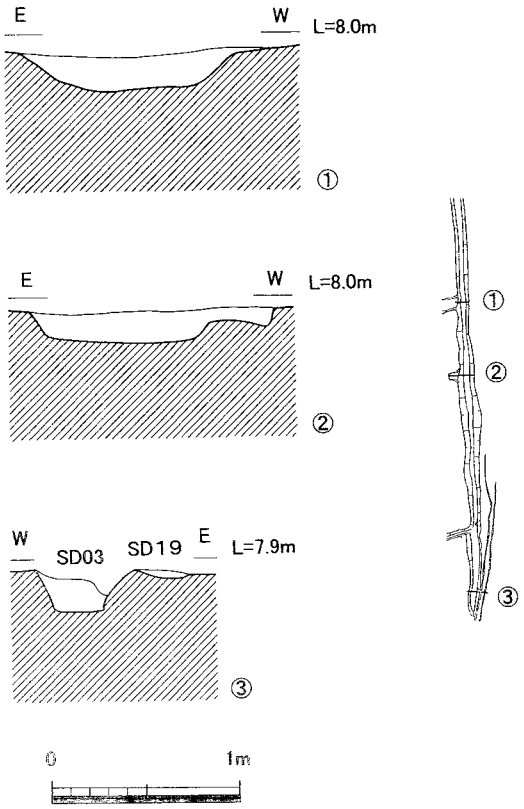
第21図　南IV区SD01･02･03･05断面図

見られ，７世紀後半から８世紀後半と考えられる。このうち，田辺編年TK217～TK46が比較的多く見られる。

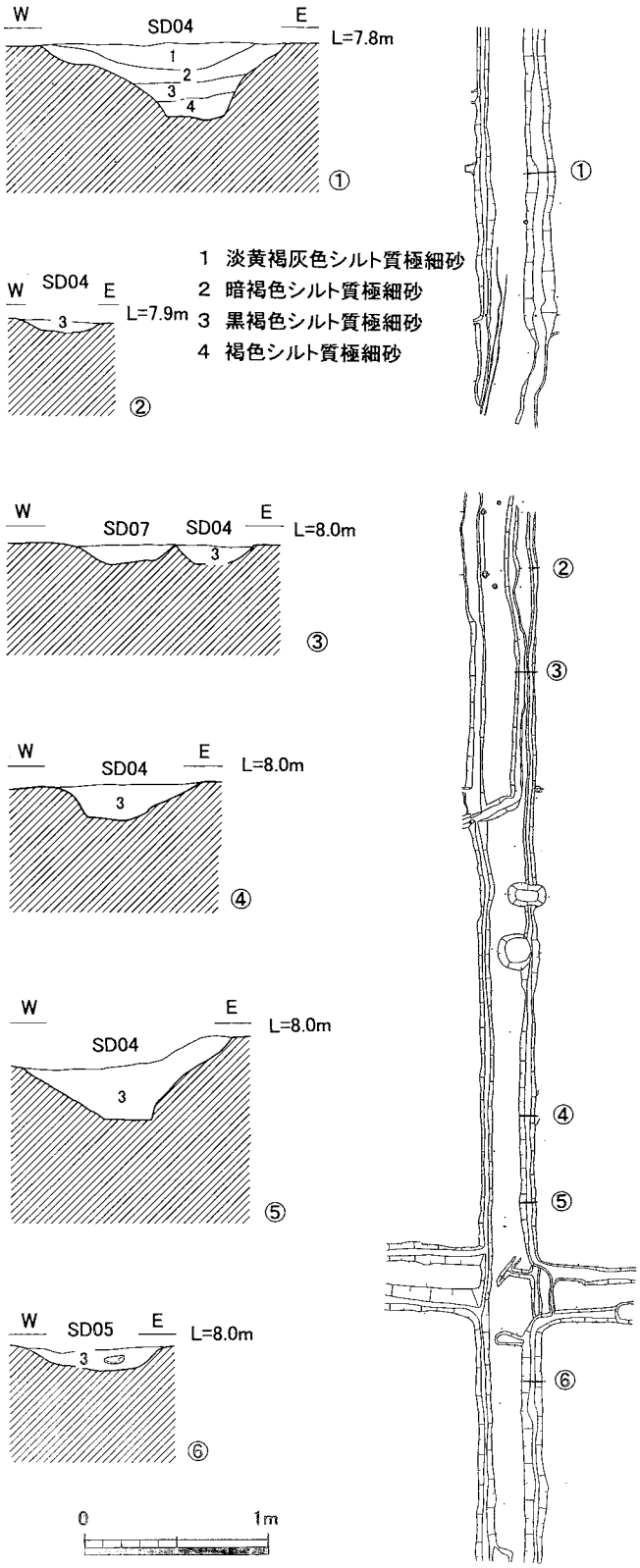
SD05から，須恵器杯身（第26図109～124）・高坏(126～136)・壺(125･138)・甕(137)・横瓶(139)・底部(140)，土師器製塩土器(141)・甕(142～148)・把手(149)がある。SD03同様に田辺編年TK217（中村編年Ⅱ－６，Ⅲ－１）から中村編年Ⅳ－２・３のものが見られ，７世紀後半から８世紀後半と考えられる。また，田辺編年TK217～TK46が比較的多く見られる。

ＳＤ４９・５０（第５図）

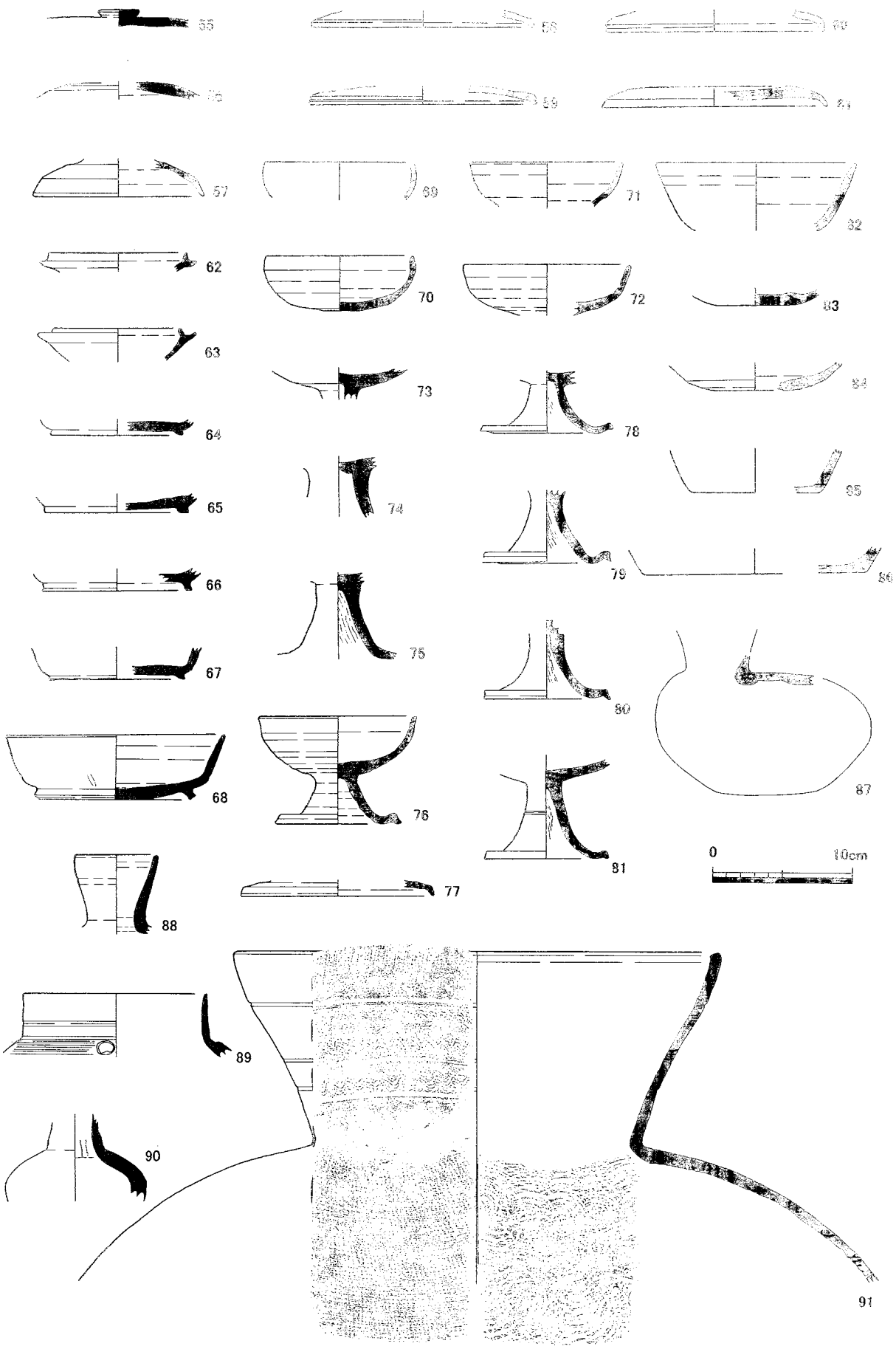
北Ⅱ区で確認した南北に並行してのびる溝でSD49･50それぞれ南地区の下層溝SD03･04の続きと考えられる。ただし，前述のように，南地区に比べ溝どうしの間隔が広がっており，SD04の延長上にSD50は位置するが，SD49はSD03の延長上より西へ位置する。SD49は幅0.5～0.6m，深さ0.1～0.2m，検出長8.1mを測り，SD50は幅0.8～１m，深さ0.1m，検出長17.9mを測る。



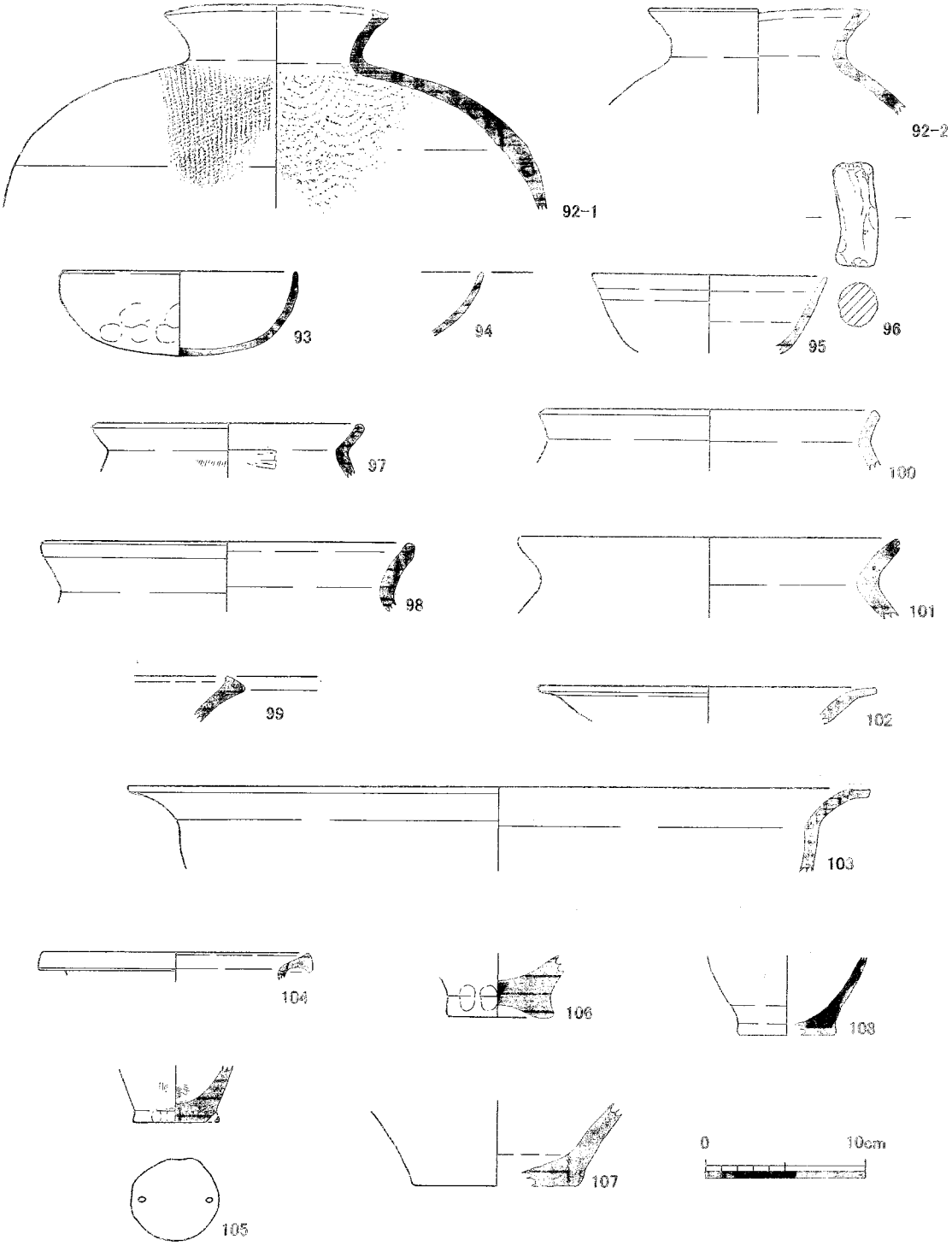
第22図　南Ⅱ区SD03断面図



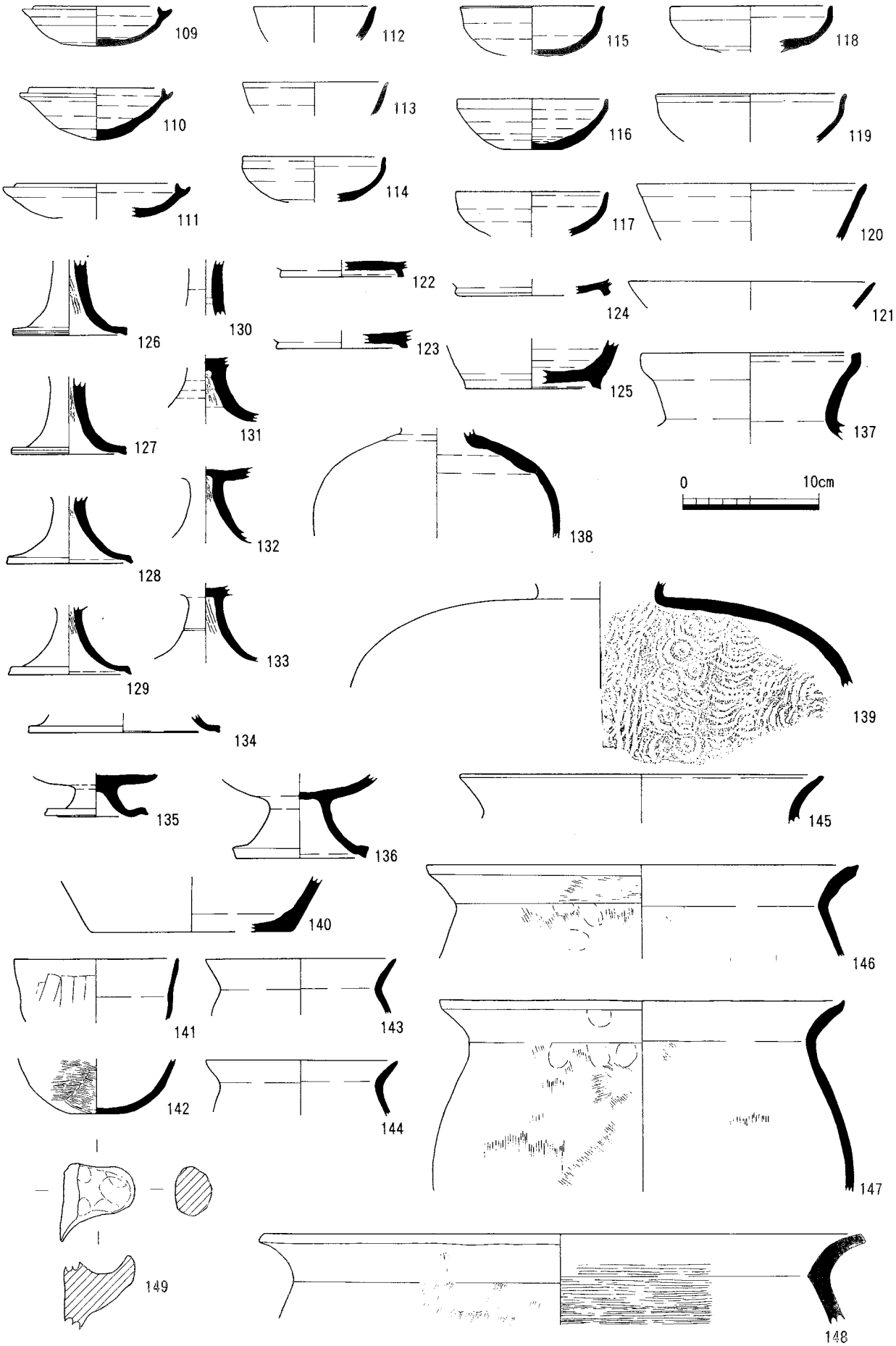
第23図　南Ⅱ･Ⅲ区SD04･05断面図



第24図　SD03出土遺物実測図①



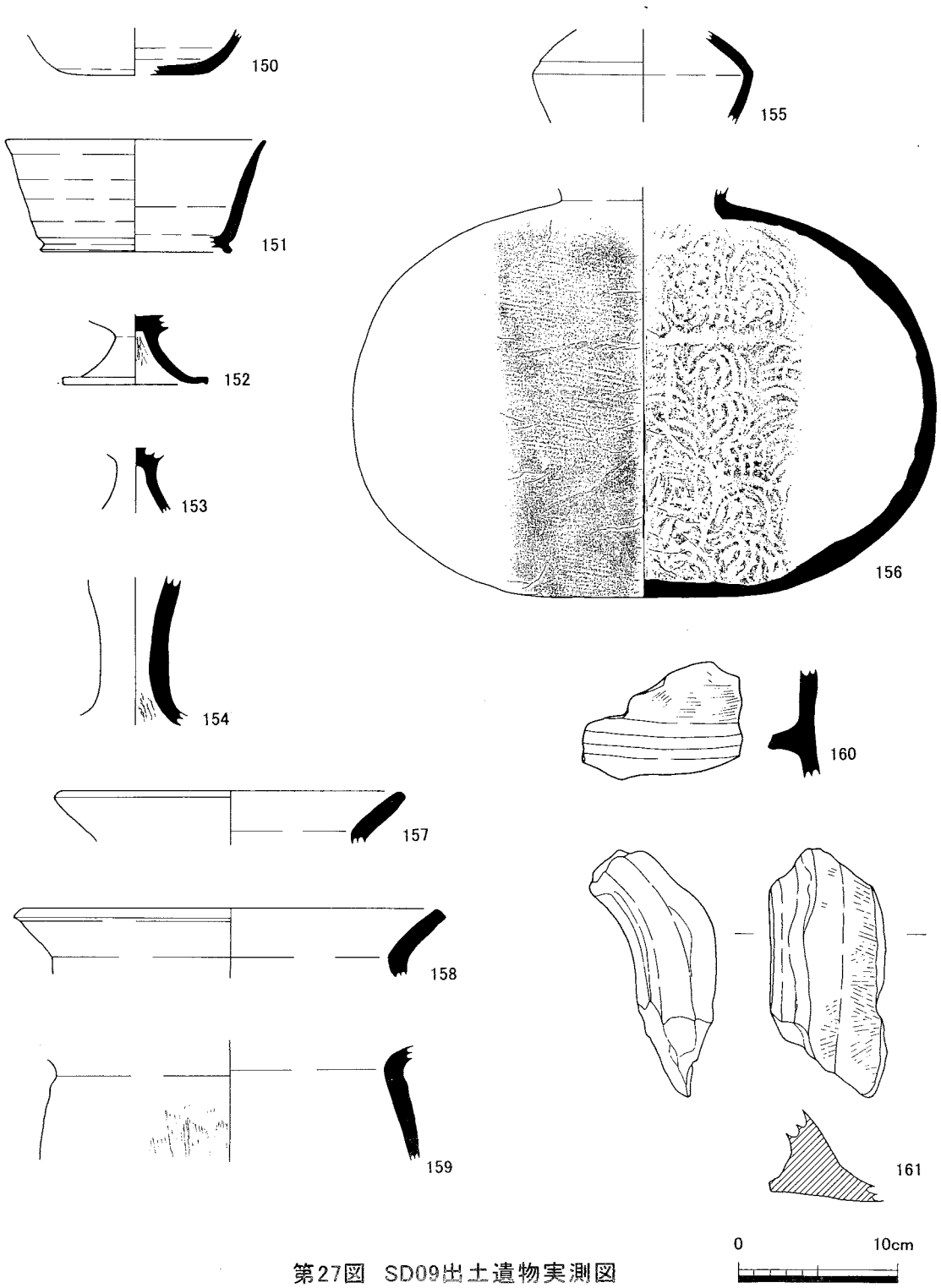
第25図　SD03出土遺物実測図②



第26図　SD05出土遺物実測図

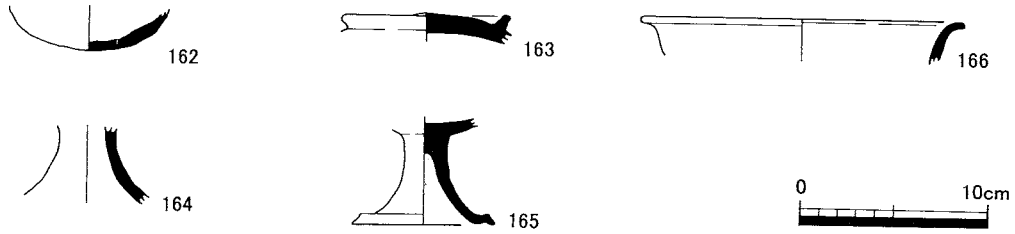
ＳＤ０９・１０（第８・29図）

南Ⅲ区において，SD03・04・05とともに道路の交差点を形成している。SD09・10ともSD03から始まり，調査区西端で調査区外へのびている。方位は，Ｎ78～81°Ｗである。SD09は幅1.4m，深さ0.3m，検出長5.1mを測り，SD10は幅１m，深さ0.3m，検出長5.1mを測る。また，SD09・10間の距離は，溝の中心どうしで約2.5mを測る。横断面は，おおむね逆台形を呈する。埋土の層位は，第１層が暗褐色細砂，第２層が黒褐色砂質シルトである。

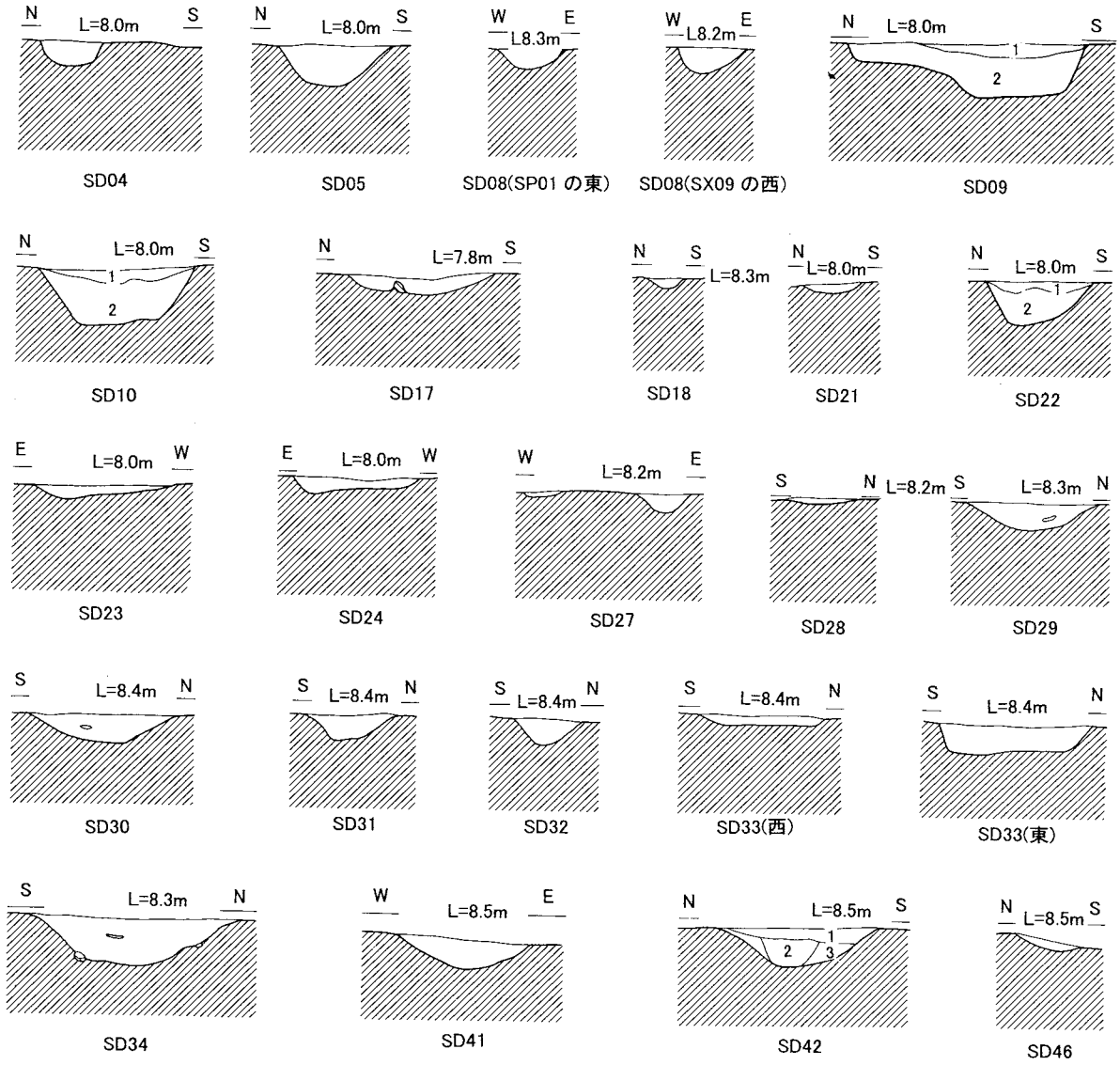


第27図　SD09出土遺物実測図

出土遺物には，SD09から，須恵器杯身（第27図150･151）・高坏(152･153)・長頸壺(154･155)・横瓶(156)，土師器甕(157～159)・竈(160･161)がある。SD10から，須恵器杯身（第27図162)・円面硯(163)・高坏(164･165)，土師器杯(166)がある。SD09・10ともに田辺編年TK217（中村編年II－6，III－1）から中村編年IV－2・3のものが見られ，7世紀後半から8世紀後半と考えられる。



第28図　SD10出土遺物実測図



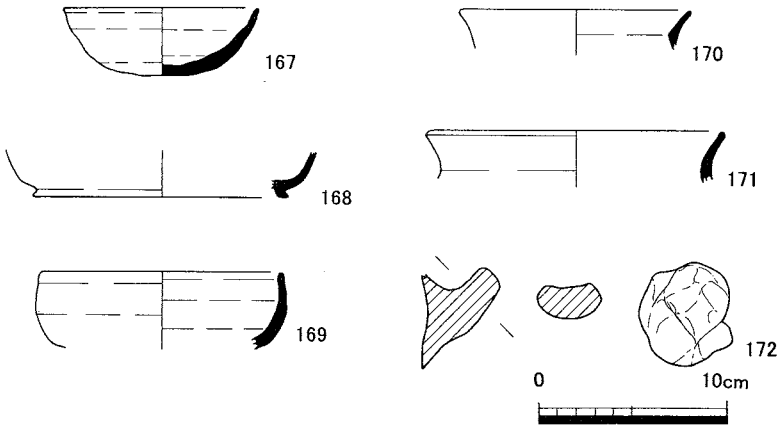
第29図　溝(SD)断面図

0　1m

ＳＤ２９・３４（第９・29図）

南Ⅳ区において，SD03・05と直角に交差している。方位は，Ｎ77°Ｗである。SD29・34は，それぞれSD03・05から始まり，調査区西・東端において調査区外にのびている。SD03・05間で１条の溝として繋がっているが，SD29・34の続きであるかどうかは不明である。SD29は幅0.5～0.7ｍ，深さ0.1～0.2ｍ，検出長6.5ｍを測り，SD34は幅0.7～1.2ｍ，深さ0.3ｍ，検出長4.9ｍを測る。横断面は，おおむねＵ字形もしくは逆台形を呈する。

出土遺物には，SD34から，須恵器杯身（第30図167・168），土師器杯(169)・甕(170・171)・把手(172)がある。田辺編年TK217（中村編年Ⅱ－６，Ⅲ－１）から中村編年Ⅳ－２・３のものが見られ，７世紀後半から８世紀後半と考えられる。



第30図　SD34出土遺物実測図

ＳＤ３６・３７（第10図）

南Ⅴ区において，SD03・05とほぼ直角に交差している。SD36・37は，それぞれSD03・05から始まり，調査区西・東端において調査区外にのびている。SD36は幅0.7ｍ，深さ0.1～0.3ｍ，検出長3.8ｍを測り，SD37は幅１ｍ，深さ0.3ｍ，検出長5.7ｍを測る。出土遺物はないが，遺構の状況から古代に属する遺構と想定される。

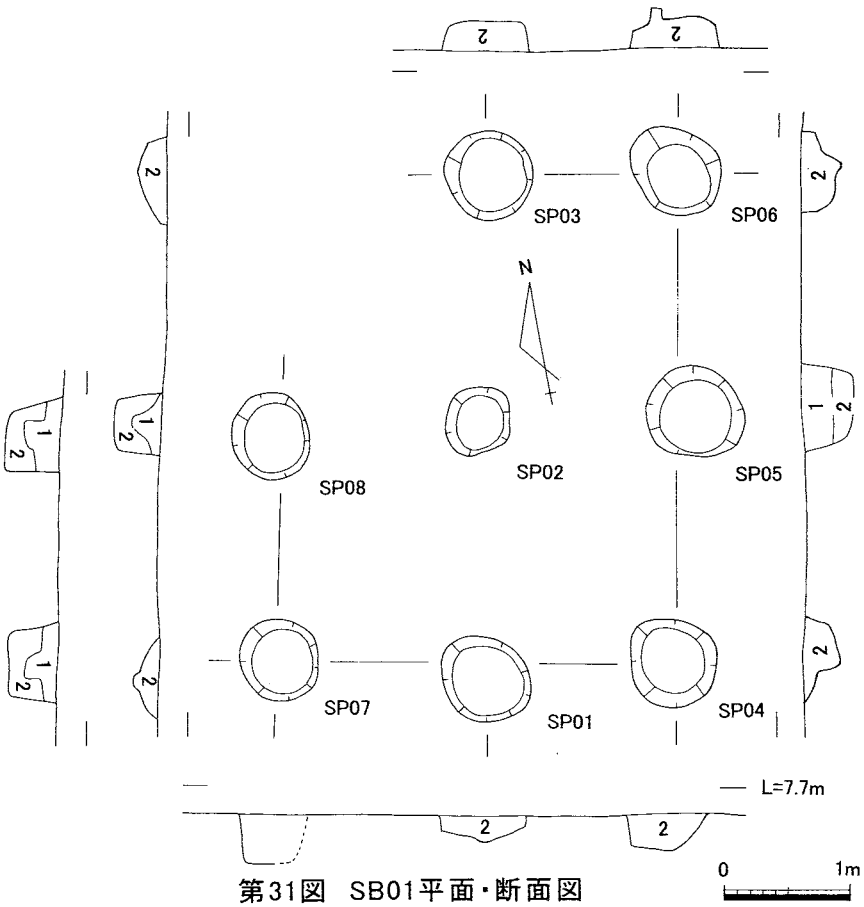
ＳＤ２０（第７図）

南Ⅱ区において，SD04と交差しているが，他の溝と比べると直角よりやや斜めに交わる。方位は，Ｎ87°Ｗである。SD20は，SD04から始まり，調査区東端において調査区外にのびている。幅１～1.2ｍ，深さ0.1ｍ，検出長4.5ｍを測る。出土遺物はないが，遺構の状況から，古代に属する遺構と想定される。

(2)掘立柱建物跡

ＳＢ０１（第７，31図）

南Ⅰ区南東で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ５°



第31図　SB01平面・断面図

Eであり，桁行２間（3.9m），梁間２間（3.2m）の規模をもつ正方形の棟で，床面積は，12.48㎡を測る。建物跡北西隅にあるべき柱穴１個を検出していないが，当初から存在しなかったのか，削平を受けて消失したのかは判断できない。桁行の芯心間の距離は1.9～2.0mを測る。柱穴の平面は隅丸方形に近い不整円形であり，その規模は中央のものを除いて，直径0.6～0.8m，深さ0.2～0.4mを測る。柱穴の埋土は１灰黄色砂質シルト，２黒色粘質細砂の二層である。

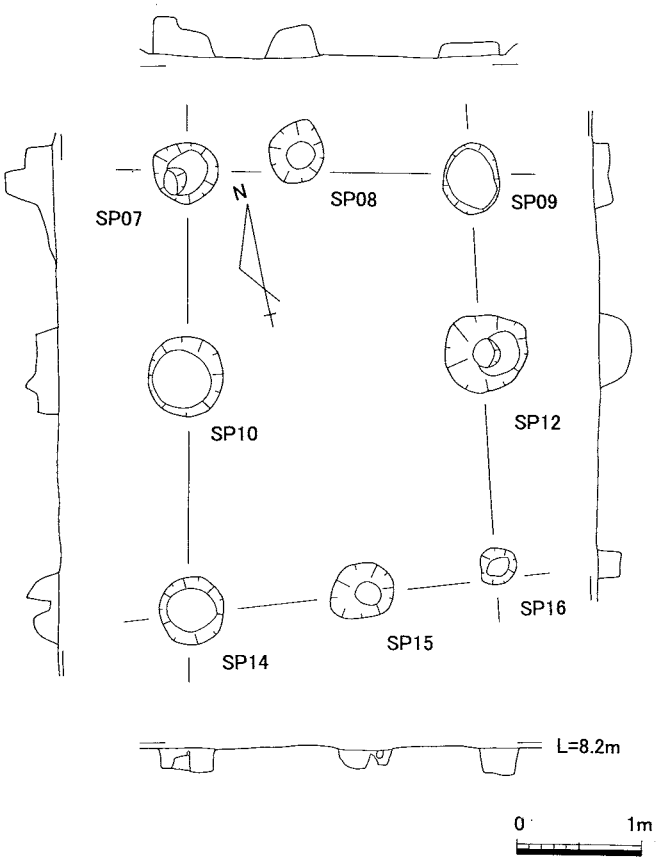
出土遺物には，図化できなかったが，須恵器甕の破片，土師器小片がある。出土遺物や道路状遺構に沿って建てられていることから，道路状遺構と同じ頃と考えられる。

ＳＢ０６（第９，32図）

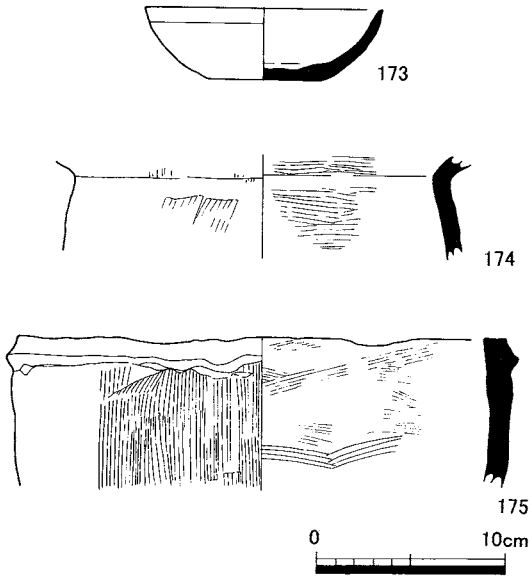
南Ⅳ区中央東端で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ10°30′Ｅであり，桁行２間（3.25～3.55m），梁間２間（2.25～2.45m）の規模をもつ南北棟で，床面積は，7.99㎡を測る。桁行の芯心間の距離は1.45～1.8mを測る。柱穴は，直径0.3～0.65mの不整円形で，深さ0.12～0.38mを測る。柱穴の埋土は黒褐色シルト質極細砂の一層である。

SD08・SD28と接するが，切り合い関係は不明である。

出土遺物には，須恵器杯身（第33図173），土師器甕(174･175)がある。出土遺物や道路状遺構に沿って建てられていることから，道路状遺構と同じ頃と考えられる。



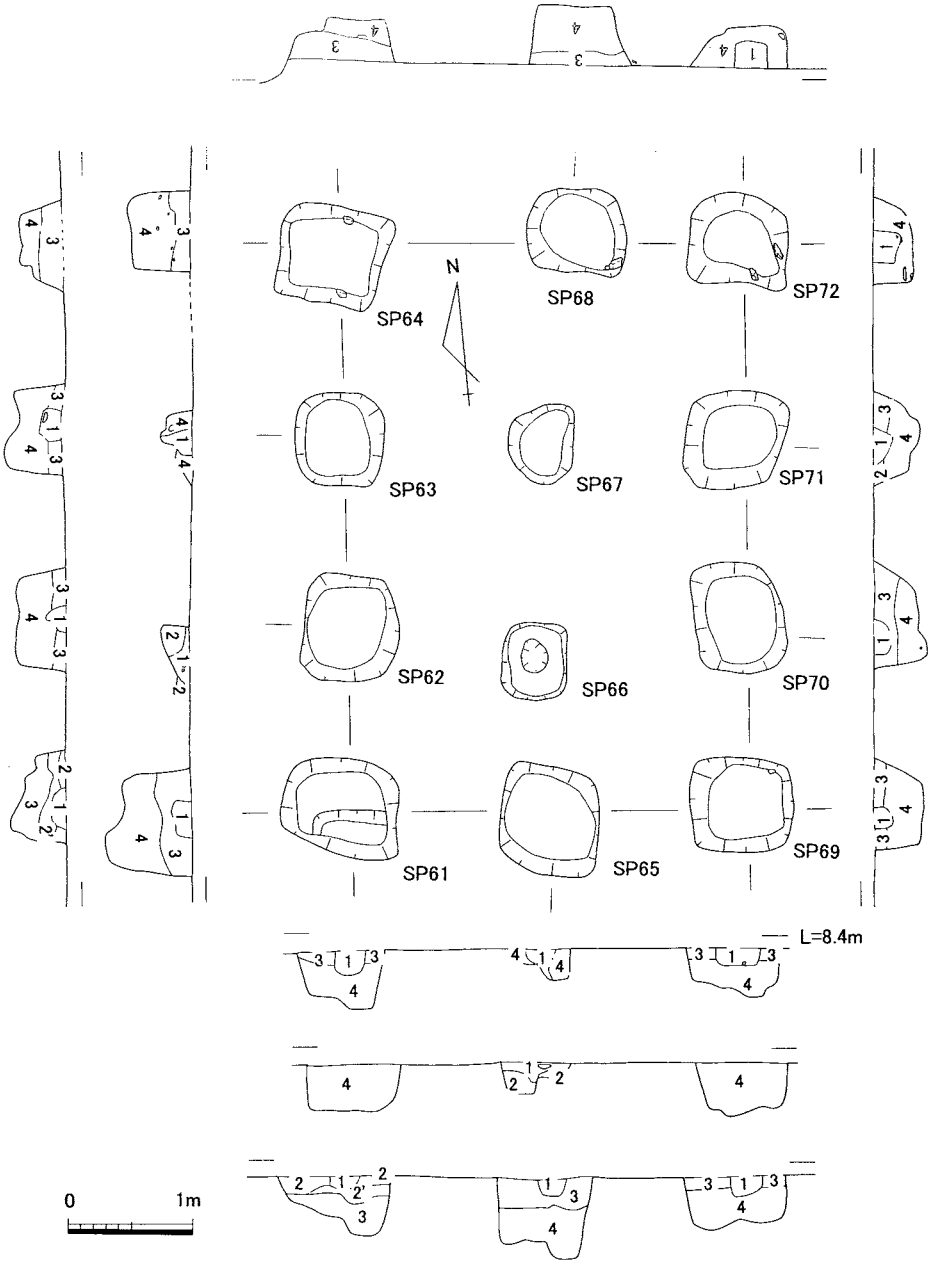
第32図　SB06平面･断面図



第33図　SB06出土遺物実測図

ＳＢ０７（第９･34図）

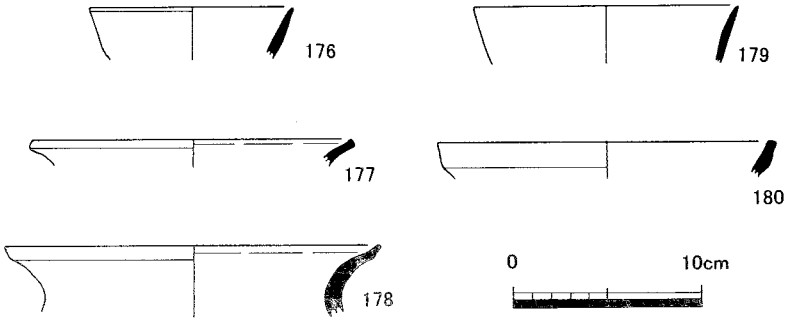
南Ⅳ区中央西端で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ４°Ｅであり，桁行３間（4.5m），梁間２間（3.2m）の規模をもつ南北棟で，床面積は，14.4㎡を測る。柱穴の配列では，SP68が中心軸よりやや東に寄る。桁行の芯心間の距離は1.5mを測る。柱穴の平面は隅丸方形



第34図　SB07平面・断面図

を呈し，その規模は一辺0.7～0.9m，深さ0.35～0.65mを測る。柱穴の埋土は１褐灰色シルト質極細砂，２灰黄褐色粗砂礫，３黒褐色シルト質極細砂（粗砂粒多い），４黒褐色シルト質極細砂（まばらに粗砂粒含む）の四層に分層できる。

出土遺物には，土師器杯



第35図　SB07出土遺物実測図

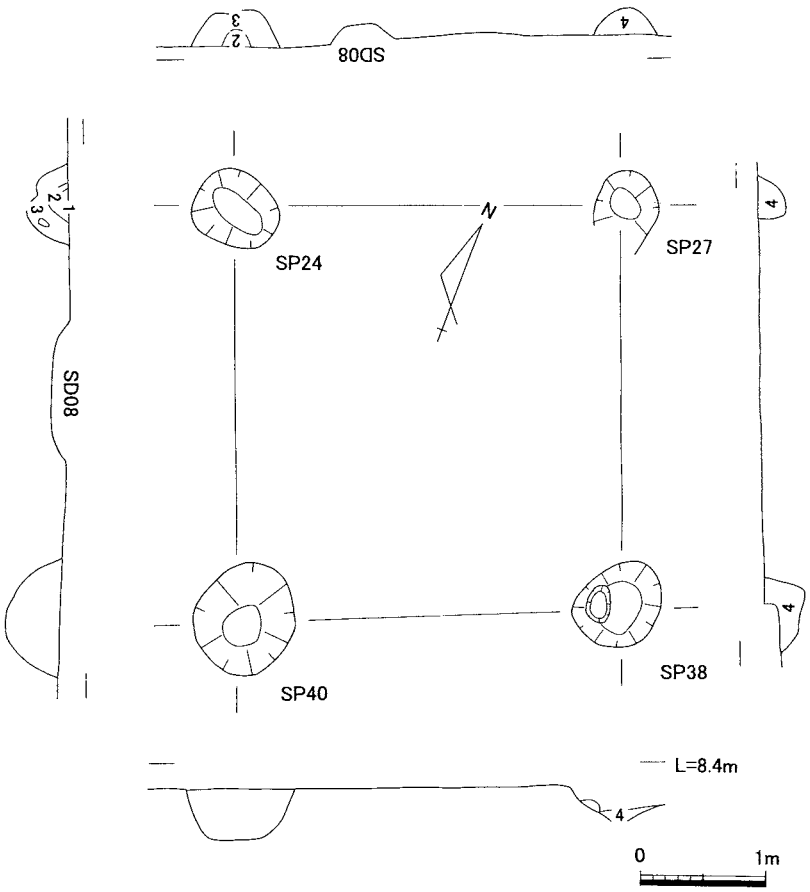
(第35図176)・甕(177・178)・製塩土器(179)，須恵器壺(180)がある。出土遺物や道路状遺構に沿って建てられていることから，道路状遺構と同じ頃と考えられる。

ＳＢ０８（第９・36図）

南Ⅳ区中央東端で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ21°Ｗであり，桁行１間（3.2～3.3m），梁間１間（3.1m）の規模をもつ正方形の棟で，床面積は，10.08㎡を測る。桁行の芯心間の距離は3.2～3.3mを測る。柱穴は，直径0.5～0.85mの不整円形で，深さ0.3～0.45mを測る。柱穴の埋土は１灰白色シルト質極細砂，２明黄褐色シルト質極細砂，３にぶい黄褐色シルト質極細砂，４オリーブ褐色シルト質極細砂の四層に分層できる。

出土遺物には，土師器小片がある。時期については明確にできないが，柱穴の規模が比較的大きいことを考慮すると，道路状遺構と同じ頃かもしれない。

SB09と重複しており，さらに柱穴SP40は，SB09の柱穴でもあるが，先後関係は不明である。なお，他の建物跡と方位が明らかに違うだけでなく，柱穴の規模や埋土に差があることから，掘立柱建物跡と断定するには検討の余地を残す。



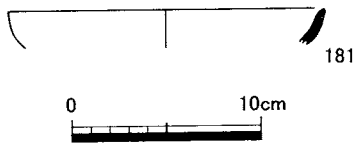
第36図　SB08平面・断面図

ＳＢ０９（第９・38図）

南Ⅳ区中央東端で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ10°Ｅであり，桁行２間（3.4～3.55m），梁間１間（1.8～2.05m）の規模をもつ南北棟で，床面積は，6.69㎡を測る。桁行の芯心間の距離は東側で1.25～2.2m，西側で1.8mを測る。柱穴は，直径0.4～1.2mの不整円形で，深さ0.1～0.4mを測る。柱穴の埋土は１明黄褐色シルト質極細砂，２灰白色シルト質極細砂，３淡黄色シルト質極細砂，４灰黄色シルト質極細砂，５灰白色シルト質極細砂（２に比べ細かい），

6オリーブ褐色シルト質極細砂，7浅黄色シルト質極細砂の七層に分層できる。

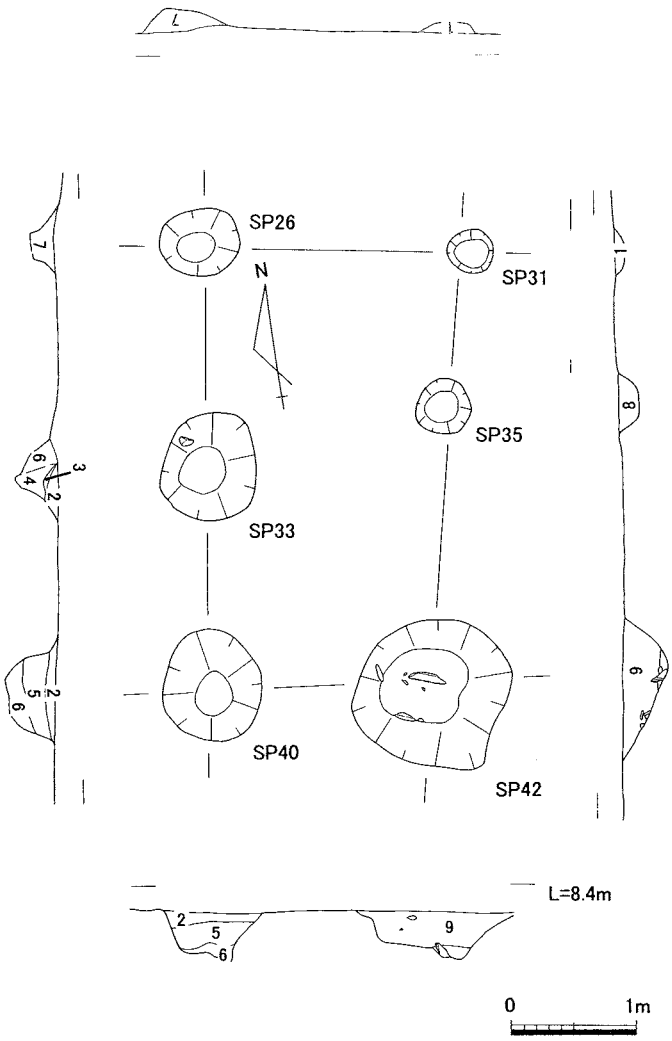
出土遺物には，図化できるものとして土師器杯(第37図181)のみであるが，建物や柱穴の規模を考慮すると，SB01･07と同じ時期と想定される。ただし，SB08と重複しており，さらに柱穴SP40は，SB08の柱穴でもあるが，先後関係は不明である。なお，柱穴の規模や埋土に差があることから，掘立柱建物跡と断定するには検討の余地を残す。



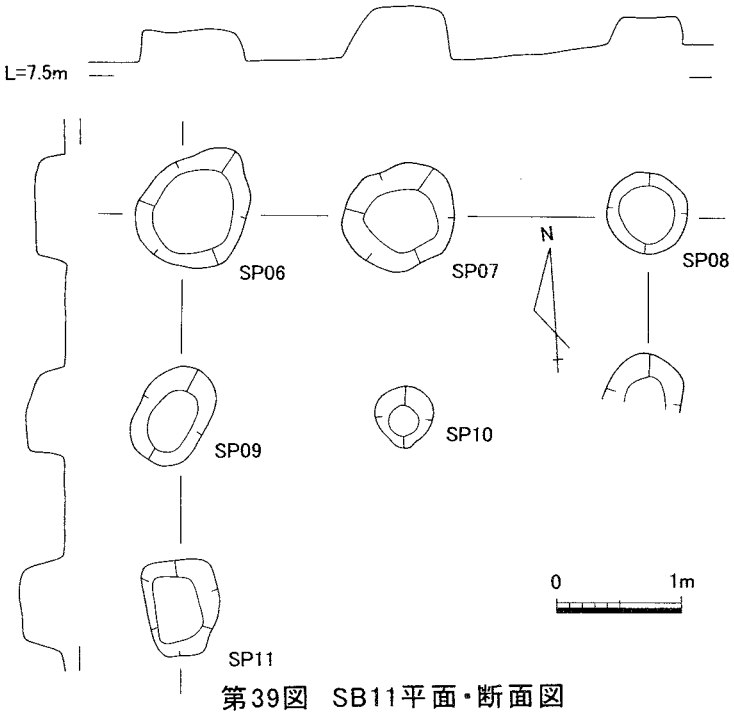
第37図　SB09出土遺物実測図

ＳＢ１１（第４･39図）

北Ｉ区南西で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ４°Ｅであり，桁行２間（3.2m），梁間２間（3.7m）の規模をもつ正方形の棟で，床面積は，11.84㎡を測る。建物跡南東隅にあるべき柱穴１個は，調査区外に位置するため検出していない。桁行の芯心間の距離は1.6mを測る。柱穴の平面は不整円形であり，その規模は中央のものを除いて，直径0.65～0.9m，深さ0.2～0.4mを測る。出土遺物はないが，建物や柱穴の規模を考慮すると，SB01･07と同じ時期と想定される。



第38図　SB09平面･断面図

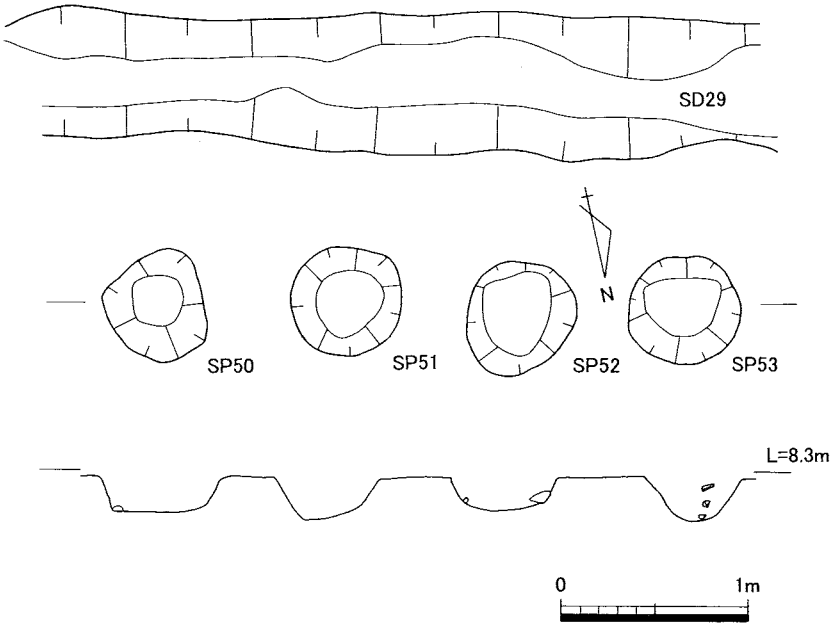


第39図　SB11平面･断面図

(3)柵列

ＳＡ０４（第９･40図）

南Ⅳ区西中央付近で検出した東西方向の柵列で，現存４個の柱穴で構成されるが，西は調査区外のため柱穴の総数は不明である。主軸方位はＮ12°Ｗで，SB07，SD29と方位をほぼ同じくする。柱穴の芯心間の距離は0.9～１ｍを測り，柵列の総長は現存2.8ｍとなる。柱穴は不整円形であり，その規模は直径0.6ｍ，深さ0.2ｍを測る。SB07，SD29と方位をほぼ同じくし，また柱穴の規模も古代に属する掘立柱建物跡同様に大きいことから，出土遺物はないものの道路状遺構や掘立柱建物跡と同じ時期に属すると考えられる。



第40図　SA04平面･断面図

(4)柱穴

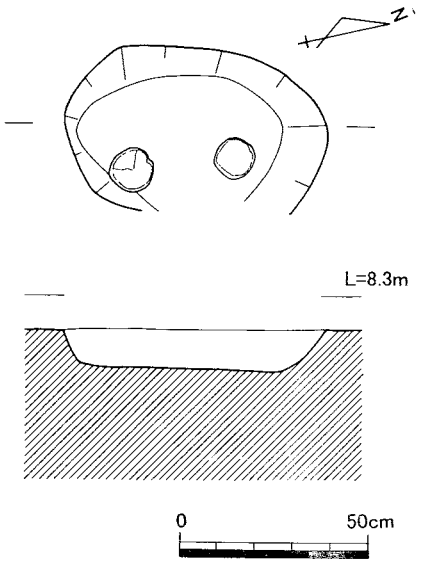
ＳＰ０１（第９，41図）

南Ⅳ区北東で検出した柱穴で，SD08により東端が切られている。南北に長い楕円形で，直径0.7ｍ，深さ0.1ｍを測る。この柱穴から，須恵器杯身２点がほぼ完形で並んだ状態で出土している。須恵器杯身(第42図182,183)は，田辺編年TK217～TK46に該当し，７世紀後半と考えられる。

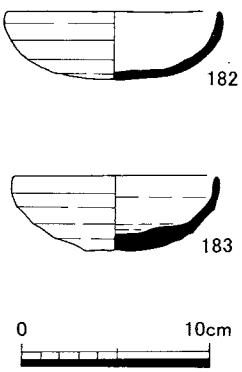
ＳＰ２８・３４（第９図）

南Ⅳ区中央東側で検出した柱穴で，SP28･34･41と南北方向に一直線に並ぶことから柵列または掘立柱建物跡の桁とも考えられる。SP28はほぼ円形で直径0.7ｍ，深さ0.3ｍを測り，SP34もほぼ円形で直径0.6～0.8ｍ，深さ0.4ｍを測る。

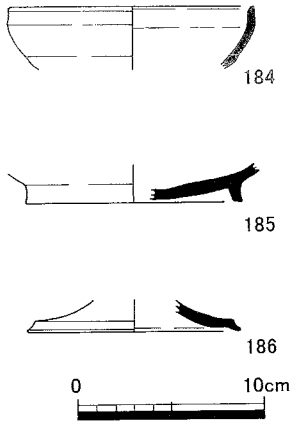
出土遺物として，須恵器杯身(第43図184･185)・高坏(186)がある。



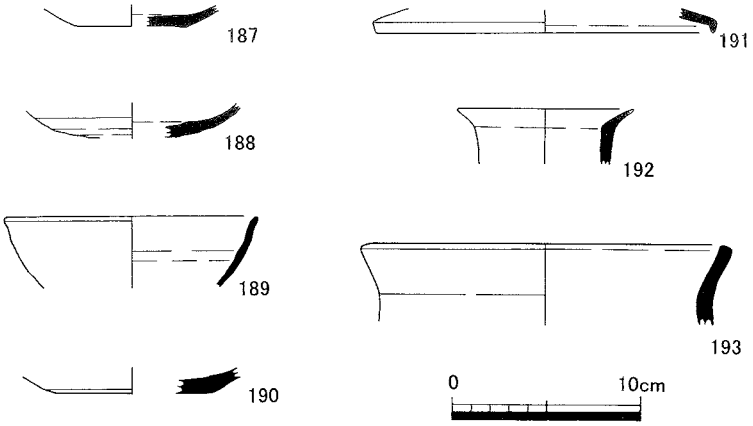
第41図　南Ⅳ区SP01平面･断面図



第42図　南Ⅳ区SP01出土遺物実測図



第43図　南Ⅳ区SP28･34出土遺物実測図



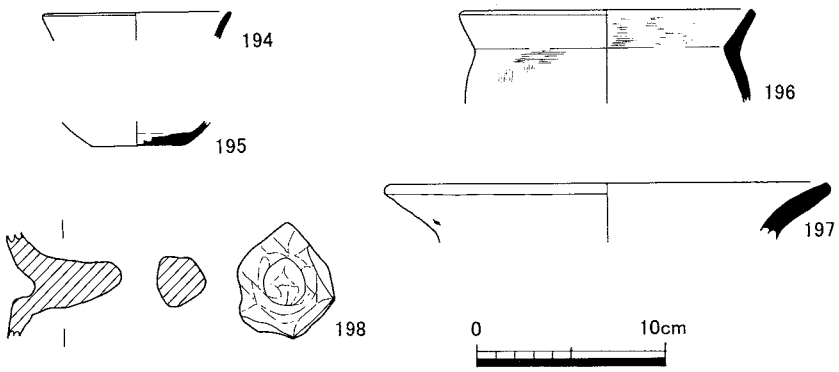
第44図　南Ⅳ区ピット出土遺物実測図

南Ⅳ区ピット出土遺物(第44図)

南Ⅳ区の柱穴（ピット）から，出土した遺物のうち，図化できるものを掲載している。須恵器杯身(187～190)・坏蓋(191)，土師器壺(192)・甕(193)が存在する。

南Ⅲ区ピット出土遺物(第45図)

南Ⅲ区の柱穴（ピット）から，出土した遺物のうち，図化できるものを掲載している。須恵器杯身(194･195)，土師器甕(196･197)・把手(198)が存在する。



第45図　南Ⅲ区ピット出土遺物実測図

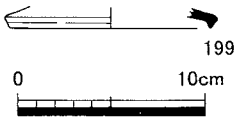
(5)土坑

ＳＫ０６（第８図）

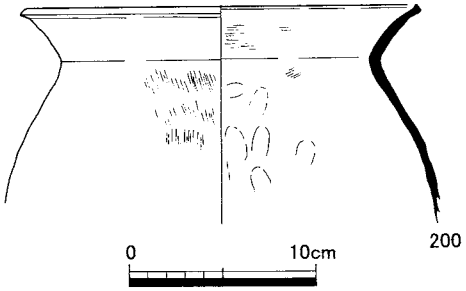
南Ⅲ区南西隅で検出した土坑で，不整な楕円形を呈し長径1.1m，短径0.7m，深さ0.1mを測る。出土遺物として，須恵器高坏脚部(第46図199)があり，田辺編年TK217～TK46に該当し７世紀後半と考えられる。

ＳＫ１１（第10図）

南Ⅴ区南西隅で検出した土坑で，不整な円形を呈すると考えられるが，西半分は調査区外のため全体は不明である。直径1.3m，深さ0.1mを測る。出土遺物として，土師器甕(第47図200)がある。



第46図　SK06出土遺物実測図

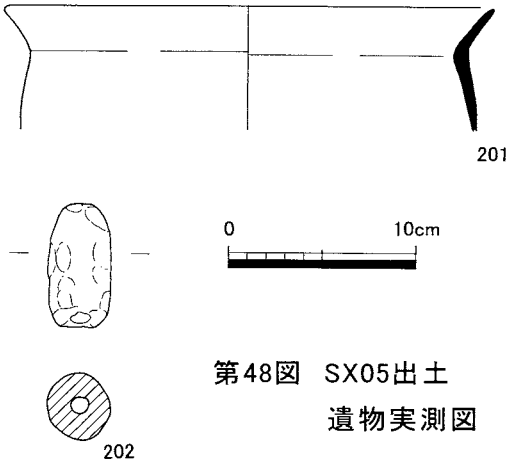


第47図　SK11出土遺物実測図

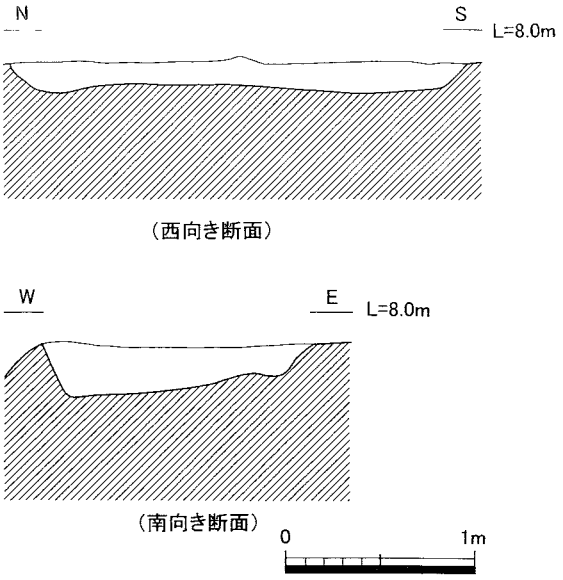
(⑥)不明遺構

ＳＸ０５（第８，49図）

南Ⅲ区南端で検出した不明遺構で，SD03と切り合うが前後関係は不明である。南北2.3m，東西1.1m，深さ0.1mを測る。断面は，おおむね逆台形を呈する。出土遺物として，土師器甕，土錘(第48図201･202)がある。



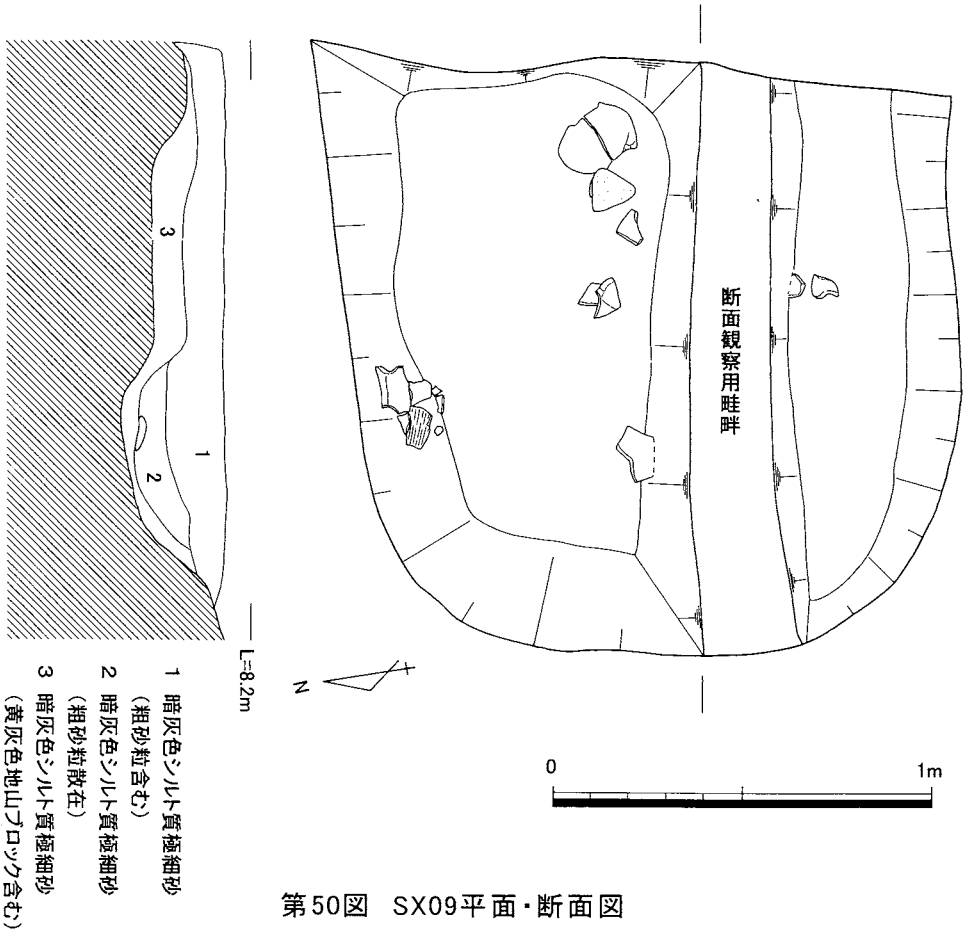
第48図　SX05出土遺物実測図



第49図　SX05断面図

ＳＸ０９（第９，50図）

南Ⅳ区北東端で検出した不明遺構で，楕円形を呈すると考えられるが，東半分は調査区外のため全体は不明である。南北1.6m，東西1.6m以上，深さ0.3mを測る。埋土は，暗灰色シルト質極細砂で，粗砂粒の包含状況等に応じて３層に分層できる。出土遺物として，弥生土器底部(第51図203)，土師器口縁部(204)がある。



第50図　SX09平面・断面図

ＳＸ１０（第９，52図）

南Ⅳ区中央東端で検出した不明遺構で，不定形を呈し，東半分は調査区外のため全体は不明である。南北2.5m，東西３m以上，深さ0.1mを測る。出土遺物として，須恵器杯身(第53図205)・高坏(206)，土師器甕(207～209)がある。

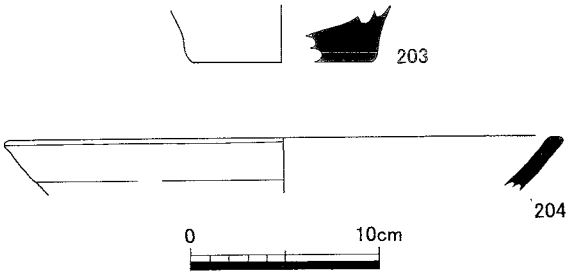
ＳＸ１１（第５図）

北Ⅱ区北西で検出した不明遺構で，不整な円形を呈する。直径3.4～3.9m，深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物として，須恵器杯蓋(第54図210)・杯身(211～213)・甕(217)，土師器杯(214･215)・甕(216)・蛸壺(218)，弥生土器蓋(219)・高坏(220～222)・甕(224･225)・大型鉢(226)がある。

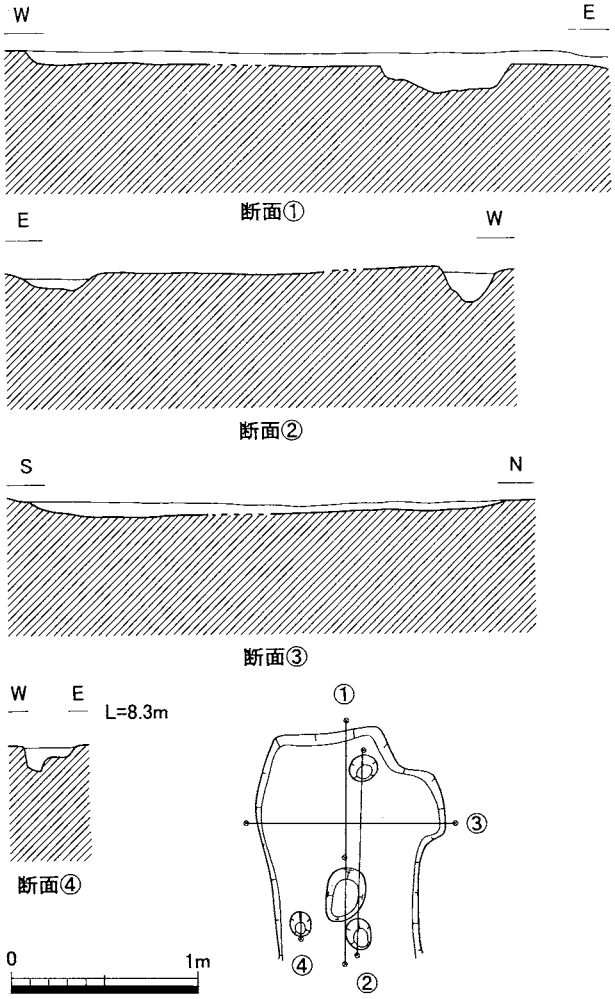
(7)包含層（第８図）

南Ⅲ区南西で，SD03より西，SD09より南において遺構面を10～20cm覆っていた黒色粘質土の遺物包含層である。この層より多量の土器が出土している。

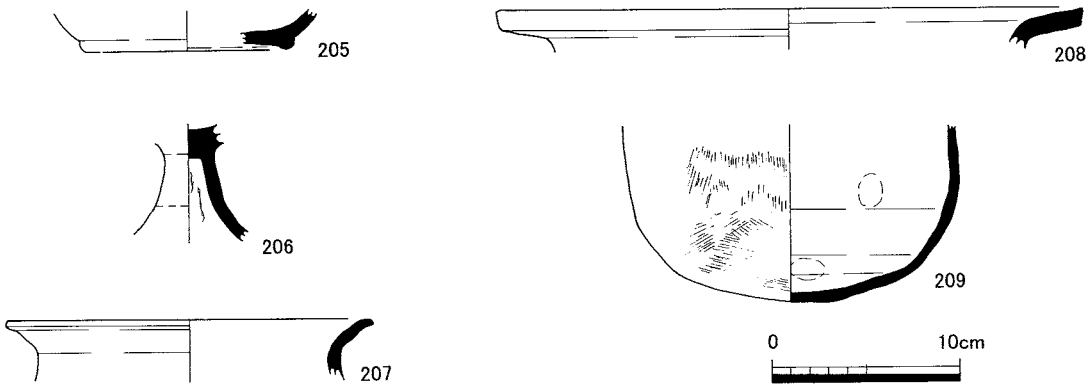
出土遺物として，須恵器杯蓋(第55図227～234)・杯身(235～242)・高坏(243～245)・平瓶(246)・壺(248)・長頸壺(249～251)・台付長頸壺(252)・鉢(253)・甕(254･255)，弥生土器甕(256)・壺(257)がある。



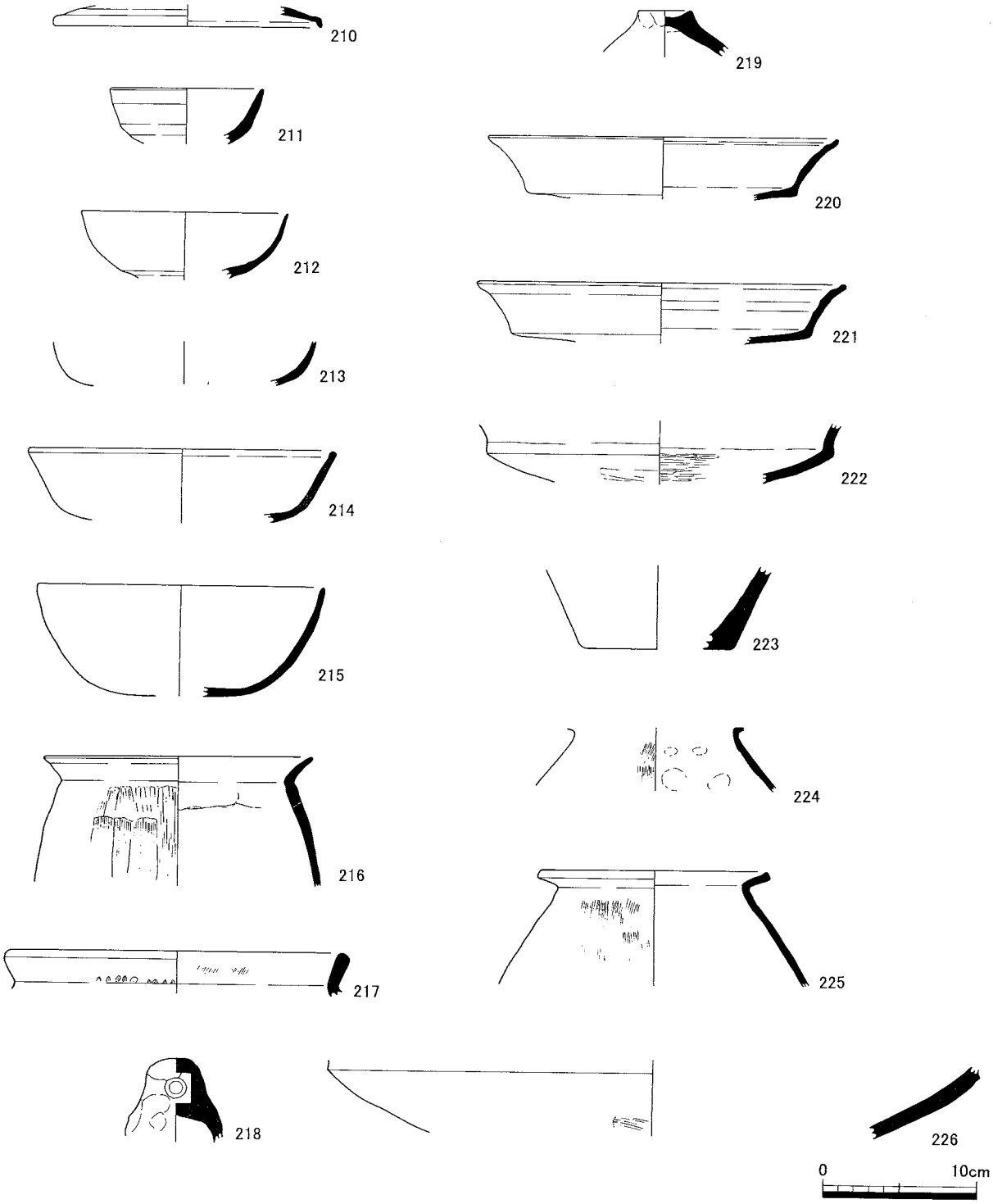
第51図　SX09出土遺物実測図



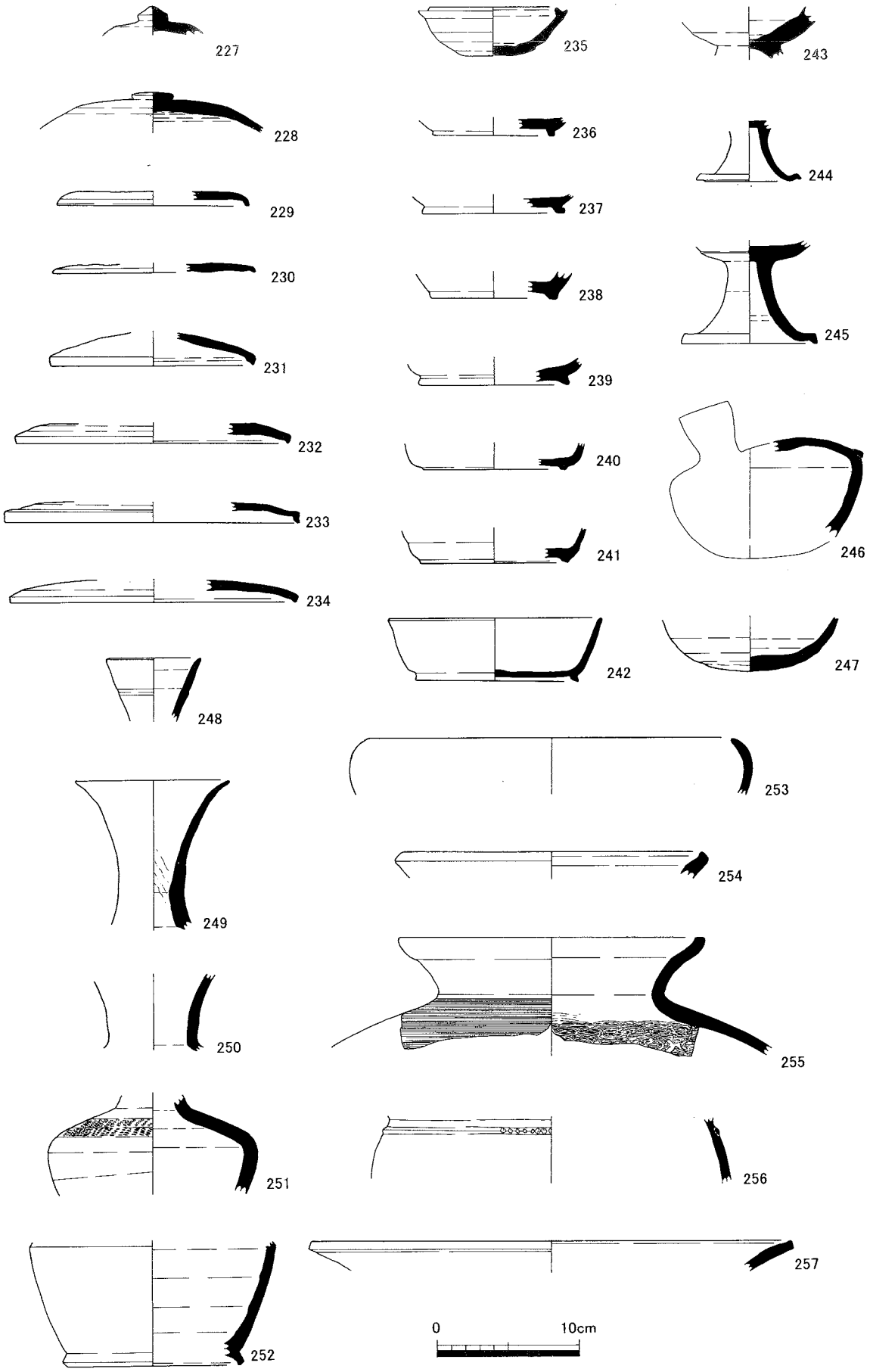
第52図　SX10断面図



第53図　SX10出土遺物実測図



第54図　SX11出土遺物実測図



第55図　南Ⅲ区黒色粘質土層出土遺物実測図

第５節　平安時代末期～鎌倉時代の遺構と遺物

掘立柱建物跡１棟，土坑１基，不明遺構４基，不定形小区画水田１面を検出した。第７節で説明するSD07も当該期に属する可能性がある。

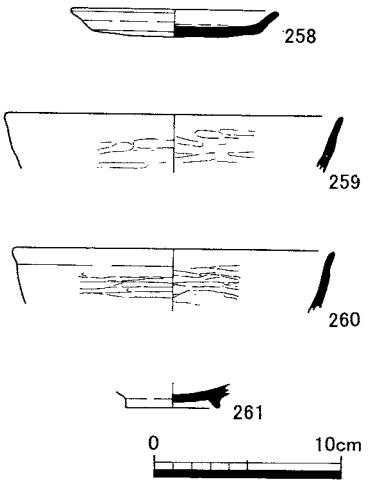
(1)掘立柱建物跡

ＳＢ０２（第８，57図）

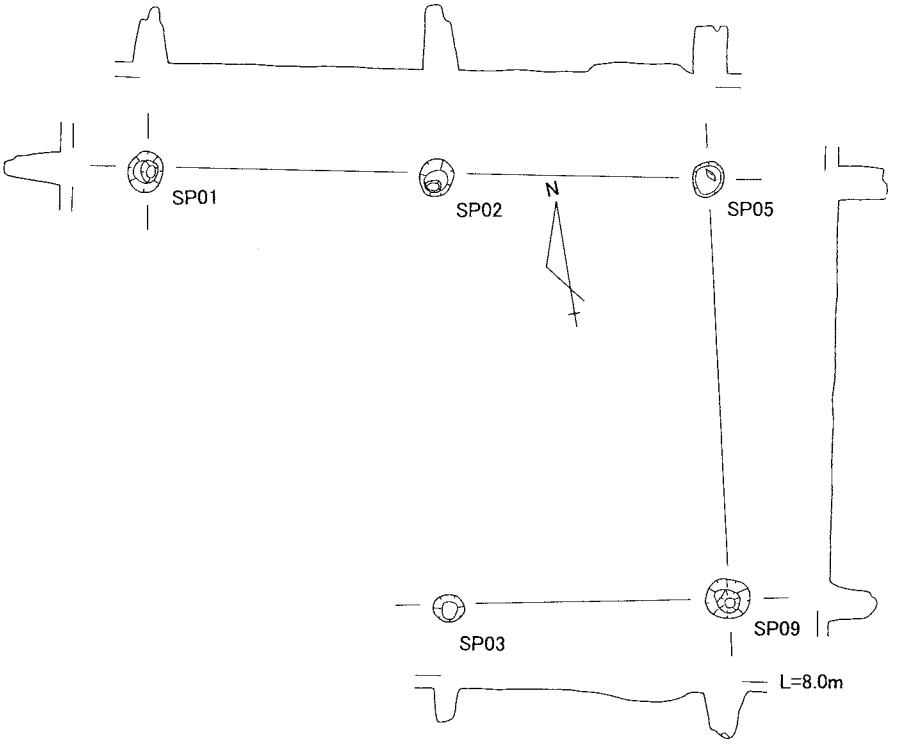
南Ⅲ区北西で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位（SP01･02･05）はＮ80°Ｗであり，桁行３間以上（4.5m以上），梁間１間（3.3m）の規模をもつ東西棟で，床面積は，14.85㎡以上を測る。建物跡西側が調査区範囲外に及ぶため全体の規模は明らかでなく，またSP01と対応する柱穴を１個欠損している。桁行の芯心間の距離は2.2～2.35mを測り，柱穴は直径0.22～0.34mの円形で，深さ0.28～0.45mを測る。柱穴の埋土は暗黄灰色シルト質細砂の一層である。

出土遺物には，瓦器椀(第56図260)，同皿(258)，土師器椀(261)などがある。瓦器椀は，口縁部に沈線をもたないことから和泉型に属し，篦磨きの省略具合から12世紀の年代が考えられる。瓦器皿，土師器椀も同時期のものである。

また，このSB02の東と西を囲む形でSD07が巡っており，SD07はSB02に付随する溝跡の可能性がある。さらに，SP05・SP09・SP03の外側には柱穴が近接しており，SB02が建替えられた可能性もある。



第56図　SB02出土遺物実測図



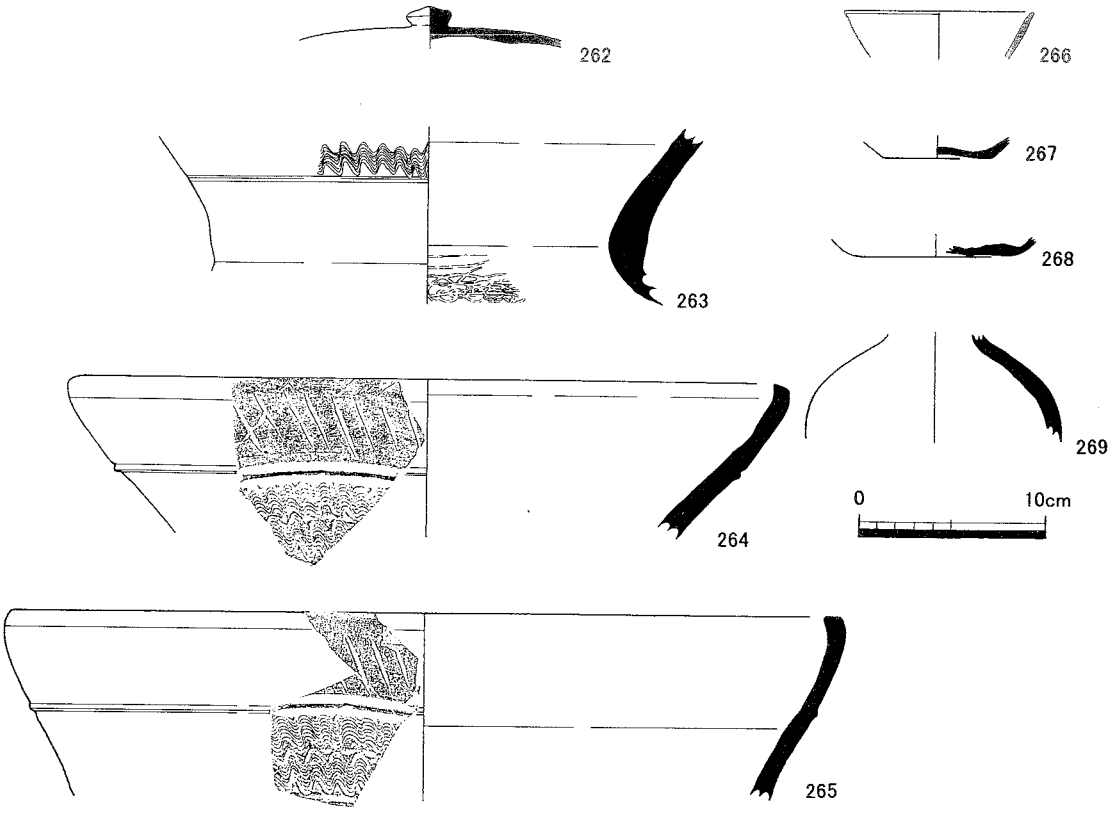
第57図　SB02平面・断面図

(2)土坑

ＳＫ１６（第11図）

南Ⅵ区南東で検出した土坑で，不整な楕円形を呈する。長径9.8m以上，短径5.5m，深さ0.2～0.4 mを測る。

出土遺物には，須恵器杯蓋(第58図262)，同甕(263～265)，土師器杯(266～268)・壺(269)がある。７世紀後半の須恵器破片が見られるが，土師器杯は13世紀のものであり，遺構の所属時期も13世紀と考えられる。



第58図　SK16出土遺物実測図

(3)不明遺構

ＳＸ０１（第７，60図）

南Ｉ区中央東で検出した不明遺構で，北東－南西にやや細長い不整な楕円形を呈する。長径4.1m，短径2.5m，深さ0.2mを測る。出土遺物はないが，SX01～04が隣接し，埋土が同じであることから，同じ時期のものと考えられる。

ＳＸ０２（第７，60図）

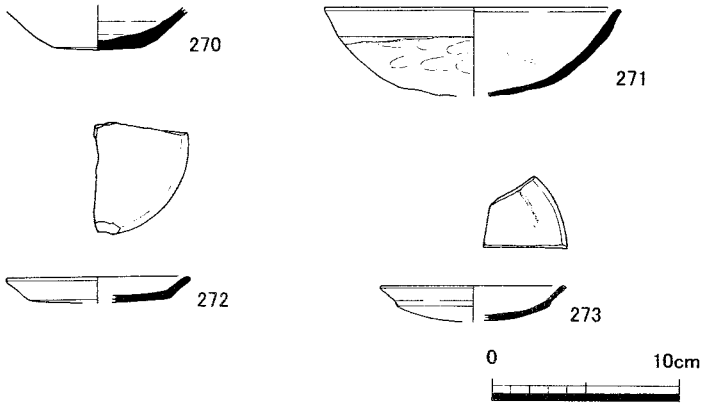
南Ｉ区中央東で検出した不明遺構で，不定形を呈する。南北4.4m，東西5.1m，深さ0.2mを測る。SD06･14との切り合い関係は不明である。出土遺物はないが，SX01～04が隣接し，埋土が同じであることから，同じ時期のものと考えられる。

ＳＸ０３（第７，60図）

南Ｉ区北東で検出した不明遺構で，不定形を呈する。南北４ｍ，東西2.6m，深さ0.2mを測る。SD06･12との切り合い関係は不明である。出土遺物は土師器小片のみであるが，SX01～04が隣接し，埋土が同じであることから，同じ時期のものと考えられる。

ＳＸ０４（第７，60図）

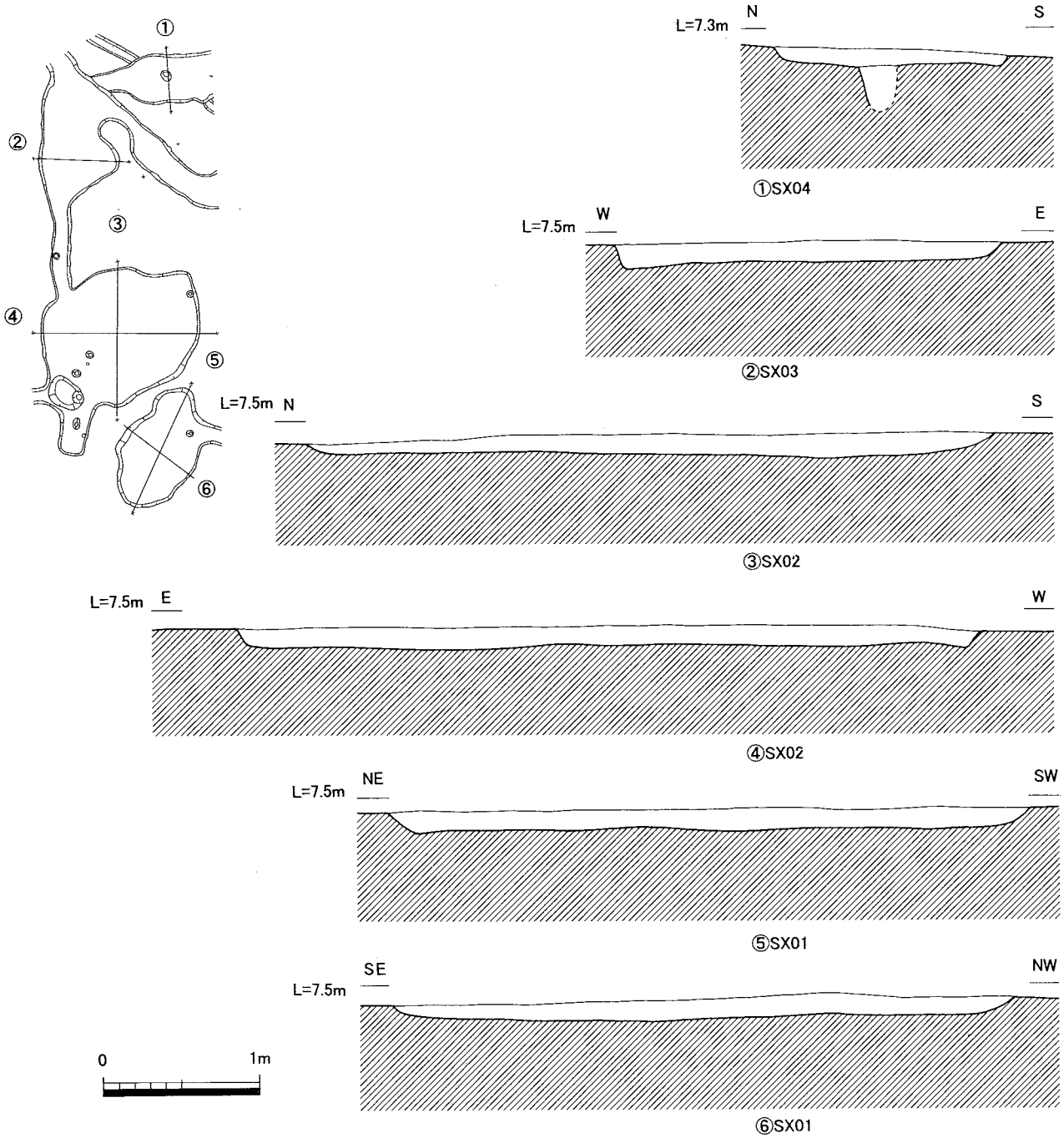
南Ｉ区北東で検出した不明遺構で，東西に細長い不定形を呈し，東端は調



第59図　SX04出土遺物実測図

査区外にのびる。南北1.6m，東西5.3m以上，深さ0.1mを測る。

出土遺物には，須恵器杯身(第59図270)，瓦器椀(271)，瓦器皿(272･273)がある。瓦器椀は，口縁部に沈線をもたないことから和泉型に属し，篦磨きの省略具合から12世紀の年代が考えられる。瓦器皿も同時期のものである。



第60図　SX01～04断面図

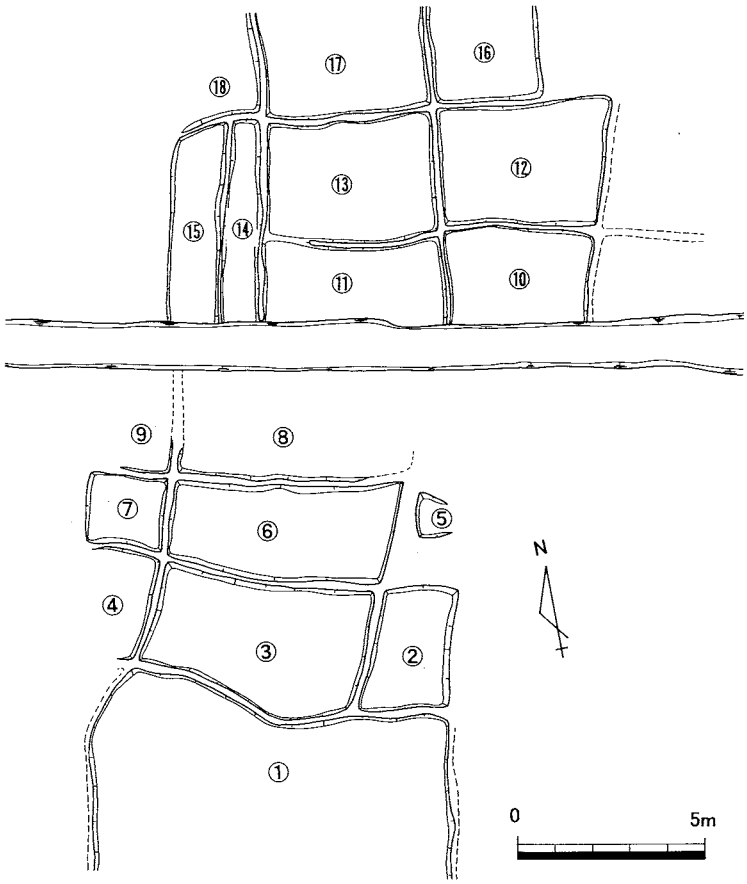
(4)水田

不定形小区画水田（第６，61図）

北Ⅲ区中央で検出した水田遺構である。水田は，南北では調査区外へと広がり，東西では後世の削平を受けて途中で消失している。地形的には，南から北に向かって下る緩斜面に形成されており，埋没旧中洲の北西端に位置する。検出した水田は標高6.87～7.13mに存在する。北Ⅲ区第５層上面において，畦畔を確認した。

水田を区画する畦畔の南北方向は，等高線にほぼ直交する形で設定されているが，同時にN 10° Eの方位を示していることから，地形による制約だけでなく，条里地割による規制も受けていたと考えられる。南北方向の畦畔に直交して東西方向の畦畔が存在している。区画内の比高差は約３cm程度である。畦畔の規模は幅0.3～0.4m，高さ４～９cmを測る。畦畔を途中で切る水口がないことから，給水方法は「畦越し」によると考えられる。

検出された水田の総区画数は18区画確認され，そのうちほぼ完全な区画は６区画である。ほぼ完全な区画の面積の平均は10.9㎡であり，最大のものは区画１の41.9㎡以上，最小のものは区画７の3.8㎡である。各水田区画における平均標高をみてみると最も高い標高が水田区画１・２の7.06m，最も低い標高が水田区画16・17の6.87mであり，区画１から区画18まで直線距離が22.5mで比高差が14cmであり，緩斜面を利用して水田耕作が行われていたと想定できる。



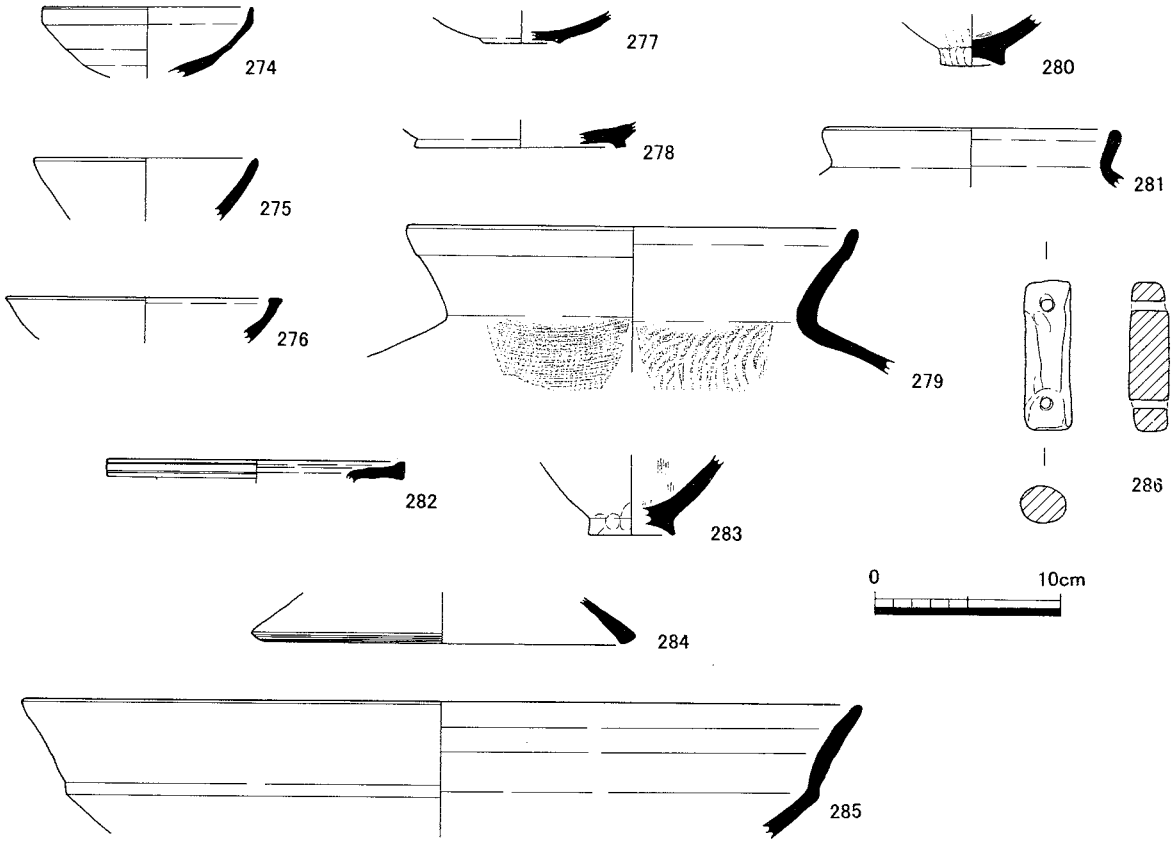
第61図　不定形小区画水田区画図

No.	面積(㎡)	標高(m)	南北(m)	東西(m)	比高差(m)
1	(41.9)	7.01～ 7.06	(5.5)	8.2	0.05
2	6.4	7.01～ 7.06	3.2	2.3	0.05
3	15.4	6.97～ 7.04	3.1	5.6	0.07
4	(4.9)	7.01～ 7.04	2.7	(1.8)	0.03
5	(0.8)	—	1.0	(0.9)	—
6	13.2	7.00～ 7.03	2.6	5.9	0.03
7	3.8	6.99～ 7.00	1.9	2.0	0.01
8	(16.7)	7.01～ 7.04	2.7	(6.2)	0.03
9	(3.5)	7.01～ 7.03	(1.3)	(2.7)	0.02
10	(9.8)	6.95～ 7.00	(2.5)	3.9	0.05
11	(10.6)	6.97～ 7.00	(2.3)	4.6	0.03
12	13.5	6.89～ 6.96	3.3	4.1	0.07
13	13.2	6.94～ 6.98	3.1	4.5	0.04
14	(4.8)	6.92～ 7.02	(0.9)	5.3	0.01
15	(6.5)	6.94～ 7.00	(5.2)	1.3	0.06
16	(7.6)	6.87～ 6.89	(2.7)	2.8	0.02
17	(12.0)	6.87～ 6.91	(2.8)	4.3	0.04
18	(4.5)	6.92～ 6.95	(3.2)	(2.1)	0.03

※( )内数値は，残存値を表す。　※各辺の数値は最大値を表す。

第４表　北Ⅲ区不定形小区画水田一覧表

出土遺物には，須恵器杯身(第62図275・276・278)，高坏(274)・甕(279)，土師器椀(277)・甕(281)，土錘(286)，弥生土器(280，282～285)がある。弥生土器，7～8世紀の須恵器，13世紀の土師器椀など幅広い時期の遺物が見られる。一方，不定形小区画水田については，高松平野では平安～鎌倉時代に見ることができ，もっとも時期の新しい土師器椀(277)に従って13世紀頃と考えられる。ただし，13世紀以前の遺物も一定量出土していることから，永続的に水田経営がなされていた可能性もある。



第62図　不定形小区画水田出土遺物実測図

第６節　江戸時代の遺構と遺物

溝３条，土坑３基，不明遺構６基を検出した。

(1)溝

ＳＤ４３（第11図）

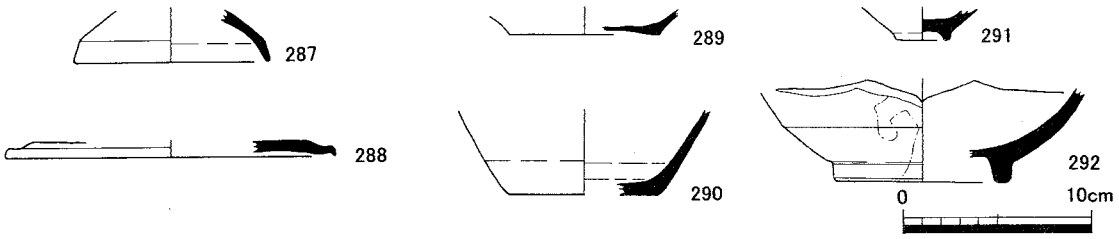
南Ⅵ区中央北寄りで検出した溝で，N80°Wで東西方向にのびるが，西端は調査区外にのび，東端はSD44と合流する。SD44と同一かもしれない。幅1.3～1.5m，深さ0.2～0.3m，検出長10.5mを測る。出土遺物はないが，埋土等から江戸時代頃のものと考えられる。

ＳＤ４４（第11図）

南Ⅵ区中央東寄りで検出した溝で，Ｎ６°Ｅで南北方向にのびるが，南端は直角に東に折れ調査区外にのびる。また，北端付近でSD43と合流する。幅0.6～1.1m，深さ0.2m，検出長18mを測る。出土遺物はないが，埋土等から江戸時代頃のものと考えられる。

ＳＤ４５（第11図）

南Ⅵ区西で検出した溝で，N85°Eで東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端は調査区内で消失している。幅4.2～4.7m，深さ0.2m，検出長10.1mを測る。出土遺物には，須恵器杯蓋(第63図287･288)，杯身(289)，壺(290)，白磁碗(291)，陶器鉢(292)がある。



第63図　SD45出土遺物実測図

(6)土坑

ＳＫ０１（第８図）

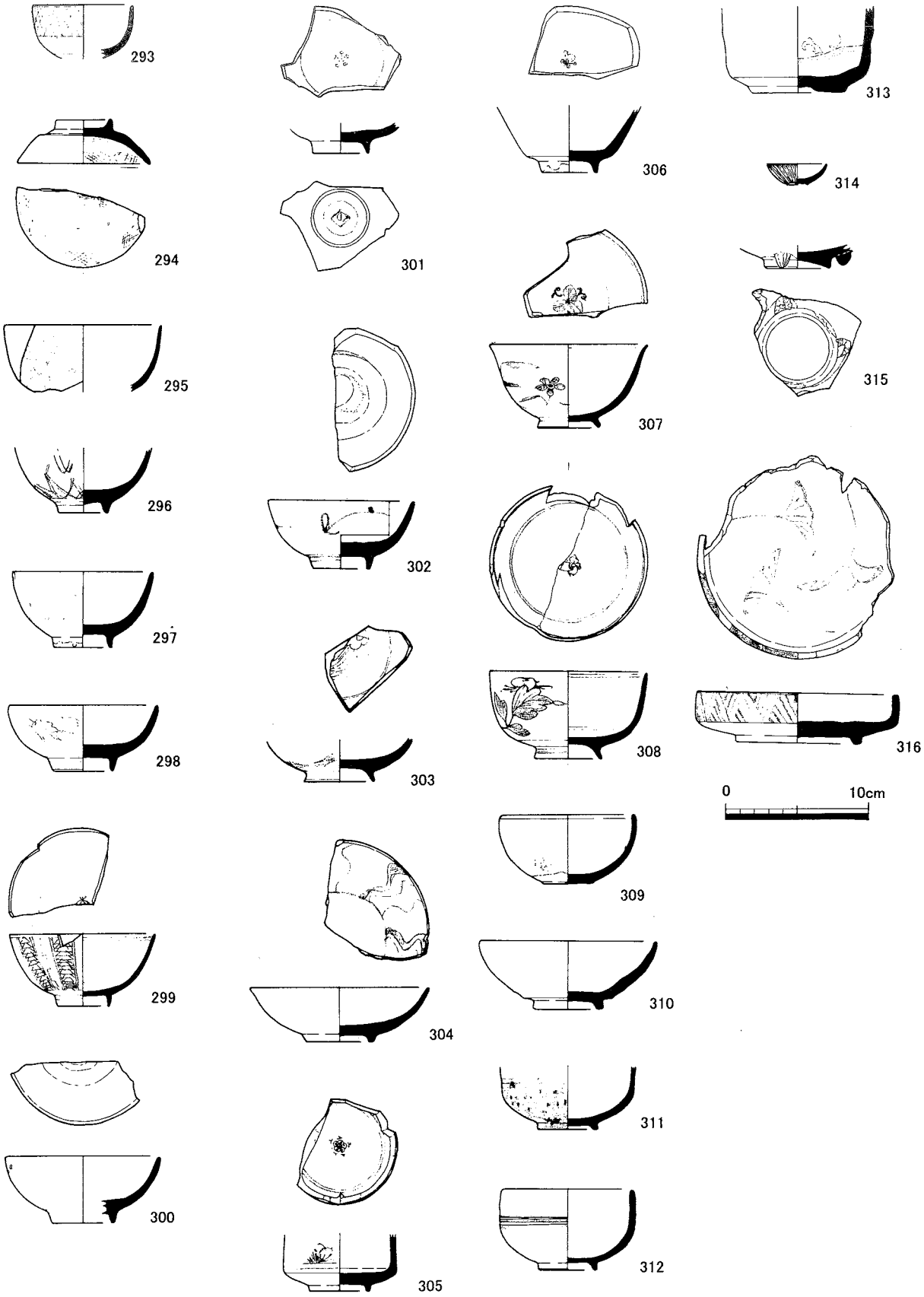
南Ⅲ区中央付近で検出した土坑で，不整な楕円形を呈し，長径2.1m，短径１m，深さ0.4mを測る。SD04を切っている。この土坑からは，数多くの陶磁器類が多量に出土した。出土遺物として，染付(第64図293～305)，肥前系染付碗(306～308)，陶器碗(309,310)，天目碗(311)，美濃焼碗(312)，青磁碗(313)，白磁紅皿(314)，白磁獣脚三足(315)，志野焼皿(316)，備前焼擂鉢(第65図317)，明石焼擂鉢(318)，唐津焼鉢(319)，刷毛目唐津(320)，唐津焼建水(321)，瀬戸美濃壺(322)，土師器茶釜(323)，土師器底部(324)，須恵器底部(326)，石(第66図327)があり，混入遺物として弥生土器壺(第65図325)がある。

ＳＫ０２（第８図）

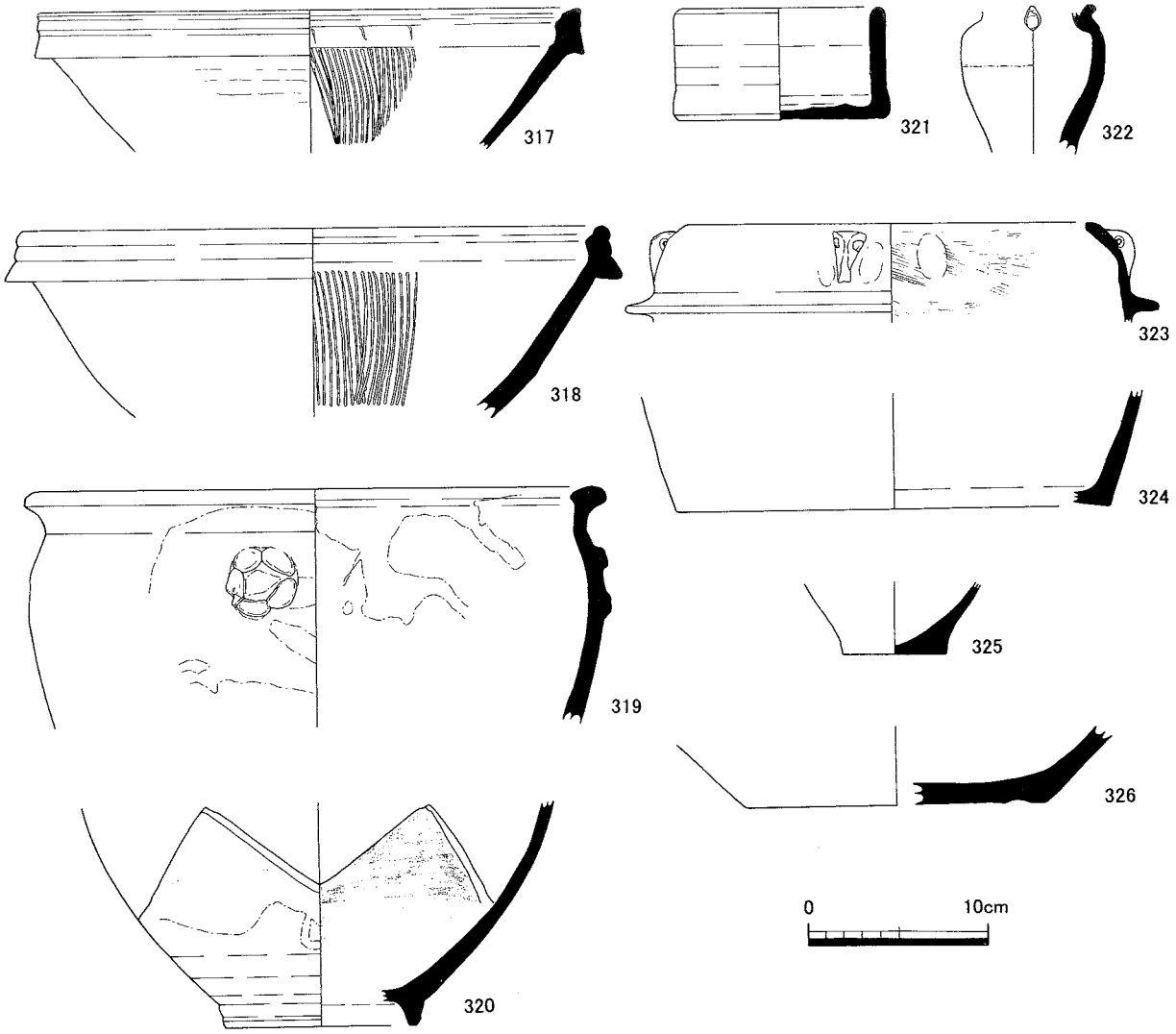
南Ⅲ区中央付近で検出した土坑で，不整な円形を呈し，直径1.8～２m，深さ0.4mを測る。SD04を切っている。出土遺物はないが，隣接するSK01･03と同じ埋土であることから，SK01･03と同じ時期と考えられる。

ＳＫ０３（第８図）

南Ⅲ区中央付近で検出した土坑で，不整な楕円形を呈し，長径2.4m，短径２m，深さ0.4mを測る。出土遺物として，須恵器杯蓋(第67図328)・杯身(329)，土師器甕(330)，染付湯飲碗(331)・碗(332)，土師質土器釜脚部(333)がある。



第64図　SK01出土遺物実測図①



第65図　SK01出土遺物実測図②

ＳＫ０４（第７図）

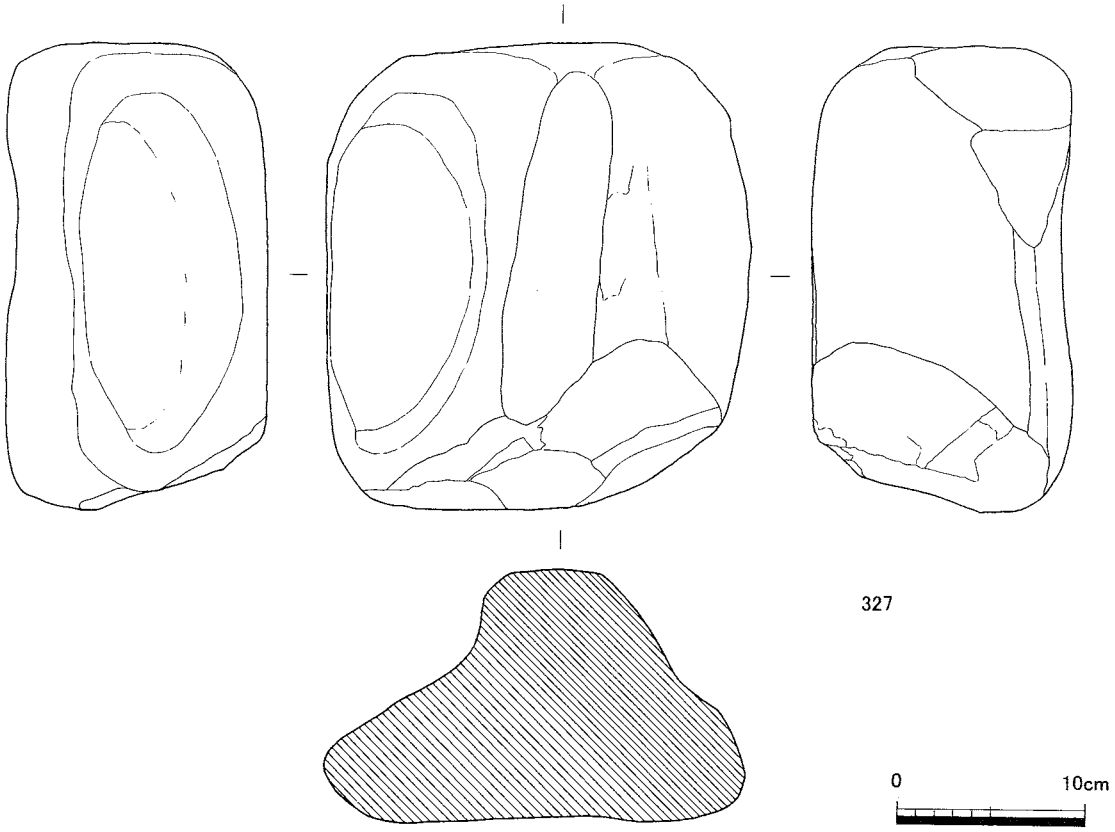
南Ⅰ区南端で検出した土坑で，不整な三角形を呈し，一辺4.2m，深さ0.2mを測る。SD06を切っている。出土遺物として，小片のため図化していないが，備前擂鉢片，陶器碗片があり，江戸時代頃のものと考えられる。

ＳＫ１２（第11図）

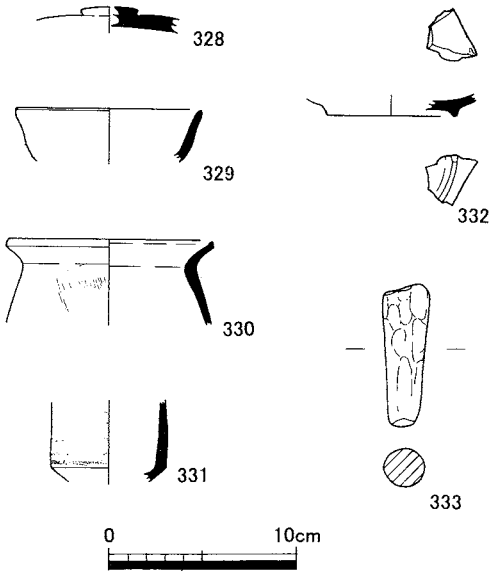
南Ⅵ区中央北寄りで検出した土坑で，不整な円形を呈し，直径1.6～２m，深さ0.4mを測る。SD38を切っている。出土遺物として，小片のため図化していないが，瓦片，須恵器片，土師器片がある。瓦片は，いぶし瓦で，江戸時代頃のものと考えられる。

ＳＫ１３（第11図）

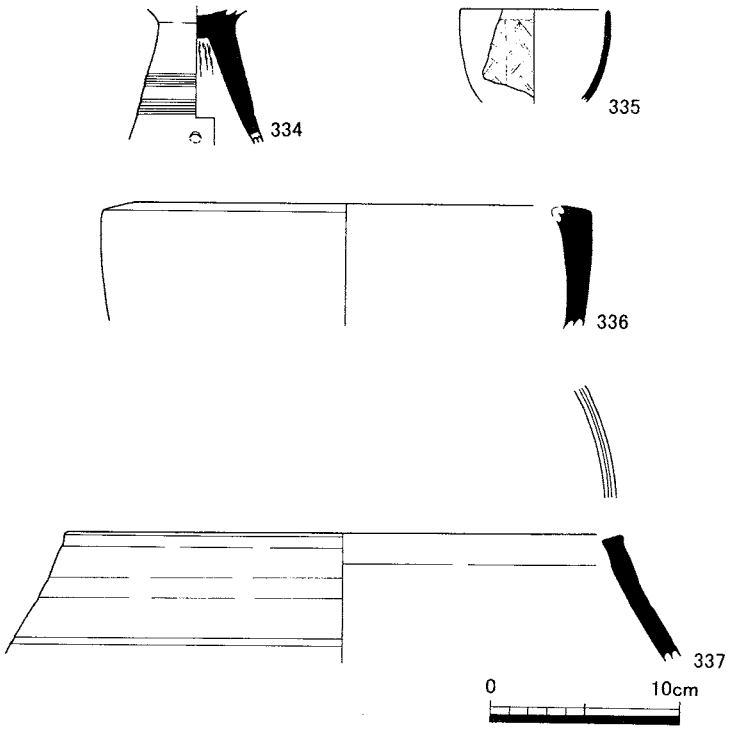
南Ⅵ区中央北寄りで検出した土坑で，不整な形を呈し，南北2.7m，東西2.2m，深さ0.5～0.7mを測る。SD38を切っている。出土遺物として，弥生土器高坏脚部(第68図334)，染付湯飲碗(335)，瓦質土器火鉢(336)，土師質土器壺(337)がある。



第66図　SK01出土遺物実測図③



第67図　SK03出土遺物実測図



第68図　SK13出土遺物実測図

第７節　その他の遺構と遺物

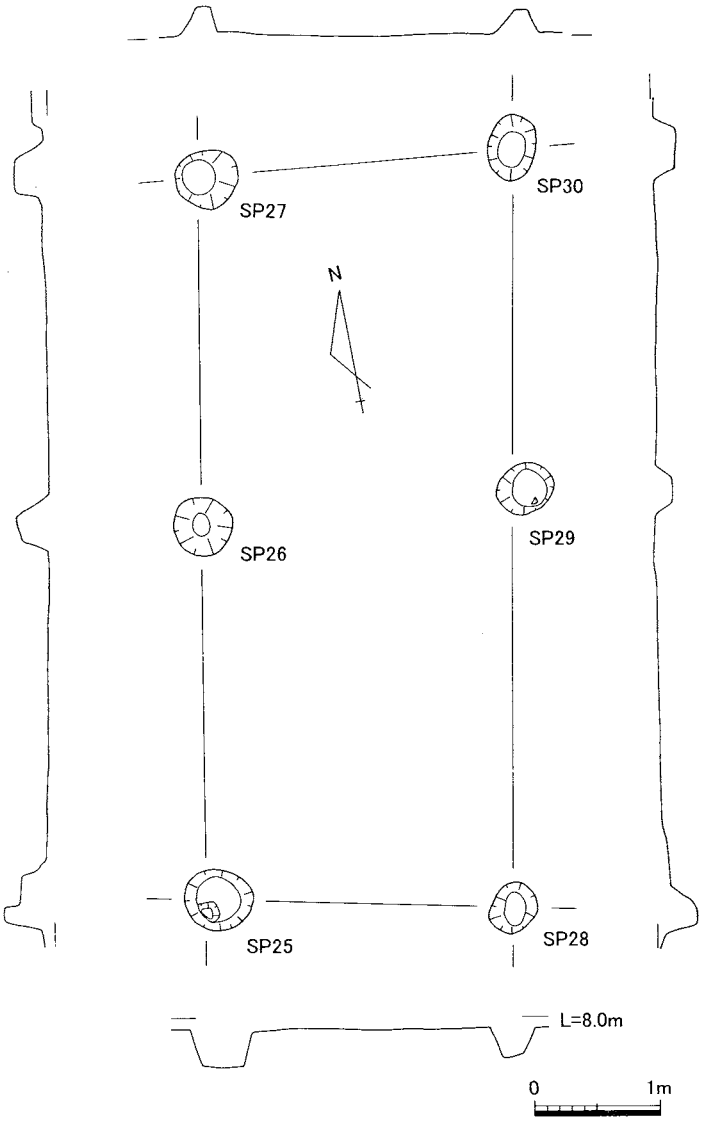
(1)掘立柱建物

ＳＢ０３（第８，69図）

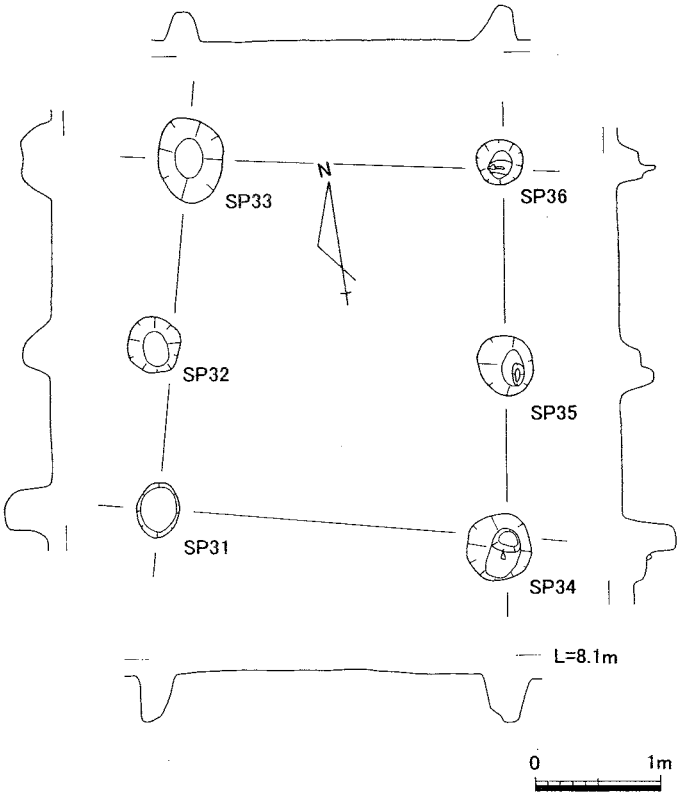
南Ⅲ区中央東端で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ10°Ｅであり，桁行２間（5.8～6m），梁間１間（2.5m）の規模をもつ南北棟で，床面積は，14.75㎡を測る。桁行の芯心間の距離は2.7～3.35mを測る。柱穴は，直径0.35～0.55mの不整円形で，深さ0.15～0.3mを測る。出土遺物はない。SB04と重複しているが，先後関係は不明である。

ＳＢ０４（第８，70図）

南Ⅲ区中央東端で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ11°Ｅであり，桁行２間（2.5～2.95m），梁間１間（2.5～2.8m）の規模をもつ南北棟で，床面積は，7.22㎡を測る。桁行の芯心間の距離は1.35～1.6mを測る。柱穴は，直径0.35～0.68mの不整円形で，深さ0.25～0.45mを測る。出土遺物には，土師器および弥生土器の小片がある。SB03と重複しているが，先後関係は不明である。



第69図　SB03平面・断面図

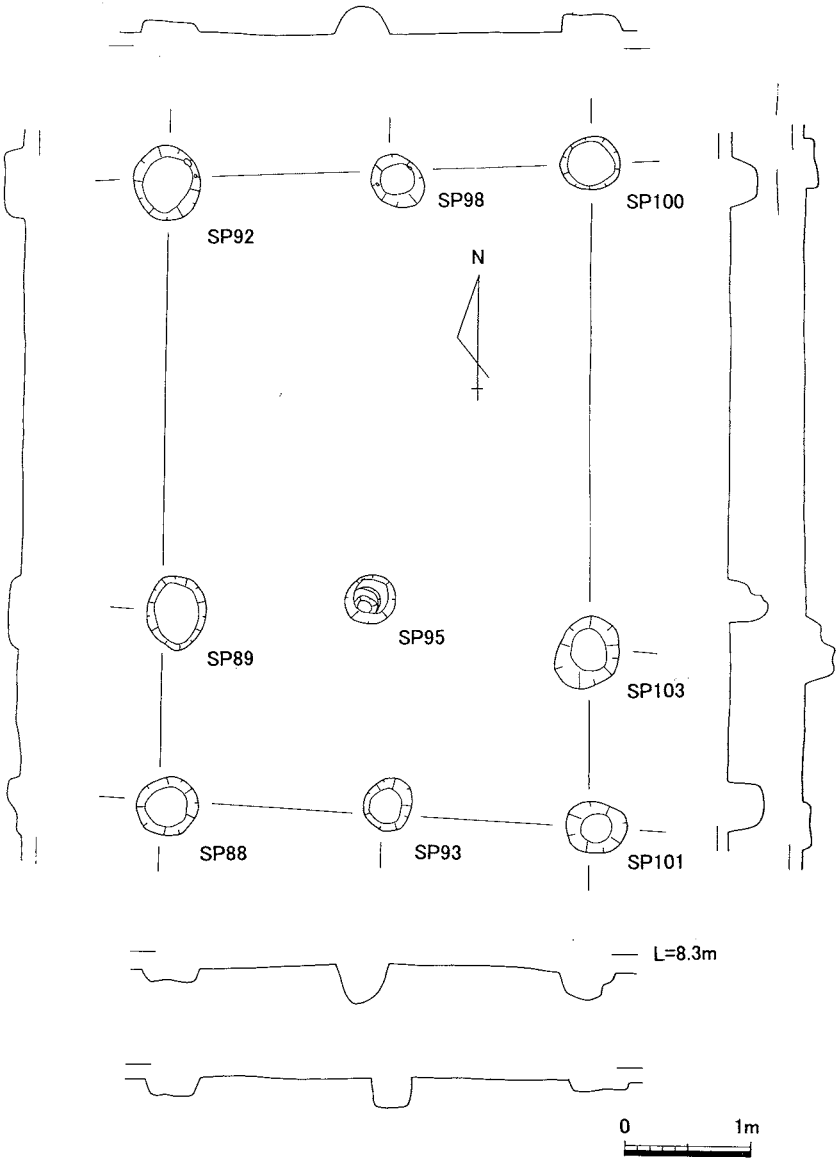


第70図　SB04平面・断面図

ＳＢ０５（第９，71図）

南Ⅳ区北西で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ１°Ｅであり，桁行２間（4.95～5.3ｍ），梁間１間（3.4ｍ）の規模をもつ南北棟で，床面積は，17.43㎡を測る。桁行の芯心間の距離は1.4～3.9ｍを測る。柱穴の配列からすると，SP92とSP89，SP100とSP103の間に柱穴が各１個ずつ存在すると考えられるが，当初から存在しなかったのか，削平を受けて消失したのかは判断できない。柱穴は，直径0.4～0.6ｍの不整円形で，深さ0.10～0.3ｍを測る。柱穴の埋土には２種があり，１黒褐色シルト質極細砂，２黒褐色粗砂礫である。

出土遺物には，須恵器および土師器の小片があるが，道路状遺構と方位が違い，建物跡の所属時期については断定できない。



第71図　SB05平面・断面図

ＳＢ１０（第４図）

北Ⅰ区北中央で検出した掘立柱建物跡である。主軸方位はＮ11°Ｅであり，桁行１間（2.8～3.0ｍ），梁間１間（2.2ｍ）の規模をもつ正方形の棟で，床面積は，6.38㎡を測る。南東の柱穴のみが他の柱穴と比較すると大きい。柱穴の平面はやや不整な円形であり，その規模は直径0.4～1.0ｍを測る。出土遺物はなく，時期決定はできない。

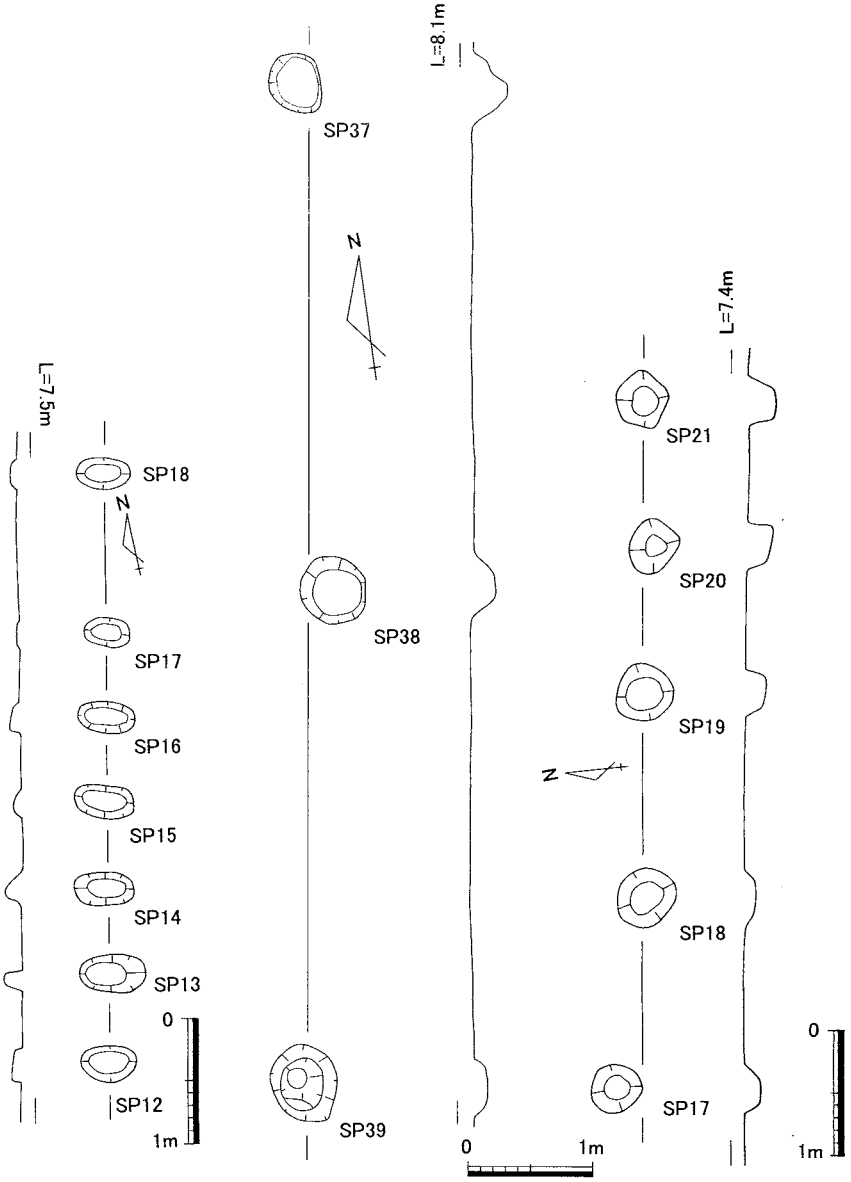
(2)柵列

ＳＡ０１（第７，72図）

南Ⅰ区北西で検出した南北方向の柵列で，現存７基の柱穴で構成されるが，北端のSP18は他の柱穴と離れており，SP17とSP18の間にもう１基柱穴が存在した可能性がある。主軸方位はＮ11°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は0.7～1.3ｍを測り，柵列の総長は現存4.7ｍとなる。柱穴は不整な楕円形であり，その規模は直径0.3～0.5ｍ，深さ0.1ｍを測る。道路状遺構SD03，SD04と方位をほぼ同じくするが，古代に属すると推定される柵列SA04と比べると柱穴の規模が小さいことから，中世以降の時期に属すると考えられる。

ＳＡ０２（第７図）

南Ⅰ区北西で検出した南北方向の柵列で，現存４基の柱穴で構成されるが，両端２基ずつしか柱穴は残っていない。主軸方位はＮ13°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は0.8mを測り，柵列の総長は現存6.9mとなる。柱穴は不整円形であり，その規模は直径0.3～0.5m，深さ0.1mを測る。道路状遺構SD03，SD04と方位をほぼ同じくするが，古代に属すると推定される柵列SA04と比べると柱穴の規模が小さいことから，SA01同様に中世以降の時期に属すると考えられる。



第72図 SA01平面・断面図　第73図 SA03平面・断面図　第74図 SA06平面・断面図

ＳＡ０３（第７・73図）

南Ⅲ区中央東端で検出した南北方向の柵列で，現存３基の柱穴で構成される。主軸方位はＮ８°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は3.9～４mを測り，柵列の総長は現存7.9mとなる。柱穴は不整円形であり，その規模は直径0.5～0.6m，深さ0.2mを測る。道路状遺構SD03・04や掘立柱建物跡SB03・04と方位をほぼ同じくし，古代に属する可能性もある。

ＳＡ０５（第11図）

南Ⅵ区北東で検出した南北方向の柵列で，現存５基の柱穴で構成されるが，北端は調査区外に及び，南端は他の遺構により破壊されている可能性もある。主軸方位はＮ14°Ｅである。柱穴の芯心間の距離は1.9～2.2mを測り，柵列の総長は現存8.3mとなる。柱穴は不整円形であり，その規模は直径0.2～0.3m，深さ0.1mを測る。出土遺物はなく時期は不明だが，古代に属すると推定される柵列SA04と比べると柱穴の規模が小さいことから，中世以降の時期に属すると考えられる。

ＳＡ０６（第４・74図）

北Ⅰ区で検出した東西方向の柵列で，５基の柱穴で構成される。主軸方位はＮ85°Ｅである。

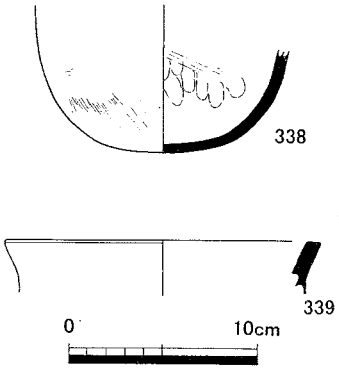
柱穴の芯心間の距離は1.1～1.5mを測り，柵列の総長は現存5.4mとなる。柱穴は不整円形であり，その規模は直径0.4～0.5m，深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物はなく時期は不明だが，古代に属すると推定される柵列SA04と比べると柱穴の規模が小さいことから，中世以降の時期に属すると考えられる。

(3)溝

ＳＤ０６（第７図）

南Ⅰ・Ⅱ区東で検出した溝で，Ｎ00°Ｅで南北方向にのび，調査区内で終焉している。SK04に切られるが，SD20とSX02･03との切り合い関係は不明である。幅0.6～１ｍ，深さ0.1ｍ，検出長42ｍを測る。傾斜は，地形から判断すると南から北に向かって緩やかに下っている。道路状遺構SD04と約３ｍの間隔をあけて併走している。

出土遺物には，土師器甕(第75図338･339)があり，道路状遺構と同じ時期の可能性がある。



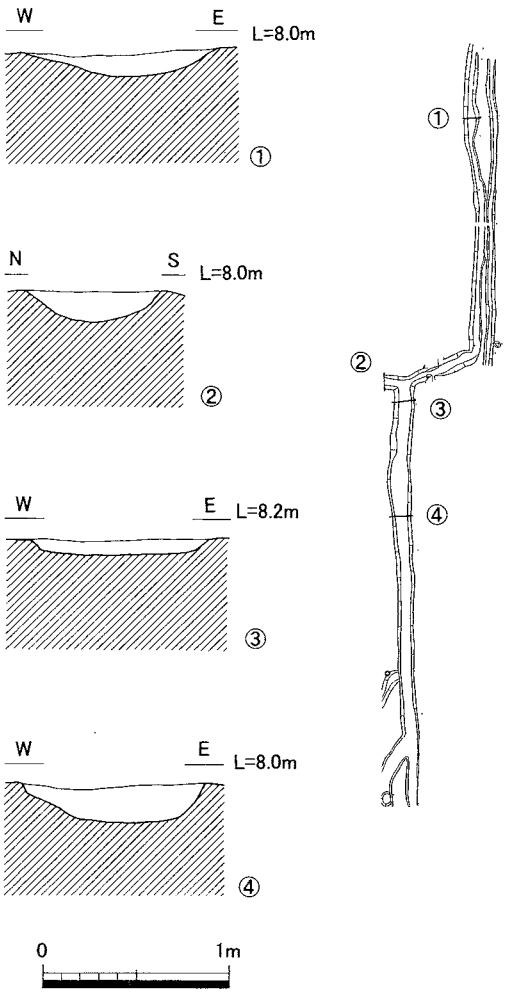
第75図 SD06出土遺物実測図

ＳＤ０７（第８･76図）

南Ⅲ区で検出した溝で，途中クランクするが，おおむねＮ７°Ｅで南北方向にのびる。南北端は調査区内で消失しているが，クランクした箇所から分岐する溝は調査区外にのびる。幅0.6～１ｍ，深さ0.1～0.2ｍ，検出長46ｍを測る。SD01･03を切っているが，SD10･22･23との切り合い関係は不明である。

また，SD01･03を横断する箇所で，両側面に板石を設置していた。これは，当時SD07を掘削した際に，SD01･03の埋土の締まりが弱かったため，板石を設置して溝肩の崩壊を防ぐ工夫をしたと想定される。

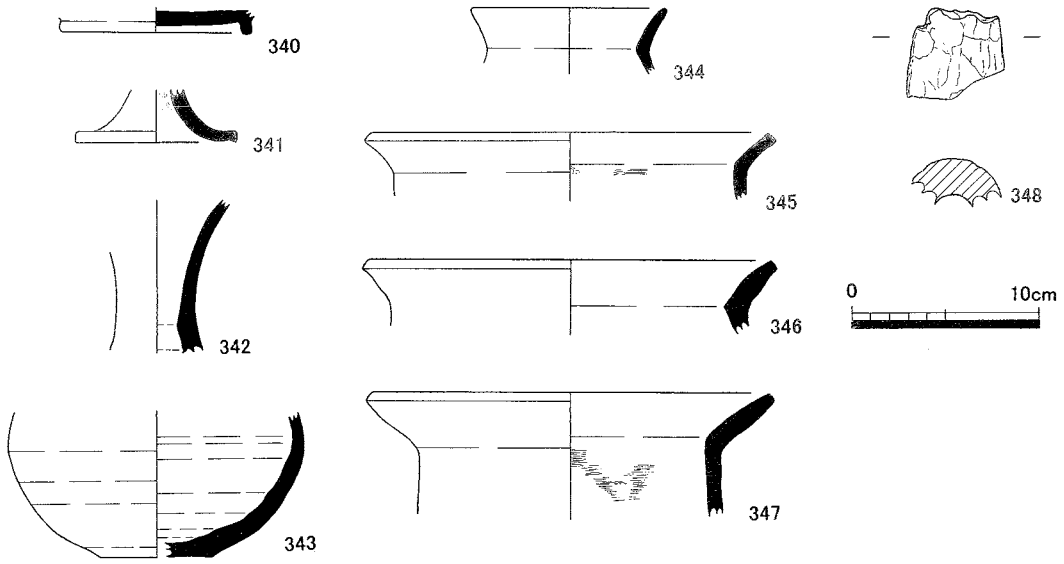
出土遺物には，須恵器杯身(第77図340)・高坏(341)・長頸壺(342)・壺(343)，土師器甕(344～347)・ふいご羽口(348)があり，道路状遺構と同じ時期の遺物が見られる。しかしながら,SD07がクランクしている理由として，SB02を避けるため，もしくはSB02を取り囲むためと考えられることから，SD07は掘立柱建物SB02に付随する溝の可能性を指摘できる。このことから，出土遺物は混入品であり，SB02と同じ時代の可能性がある。



第76図 SD07断面図

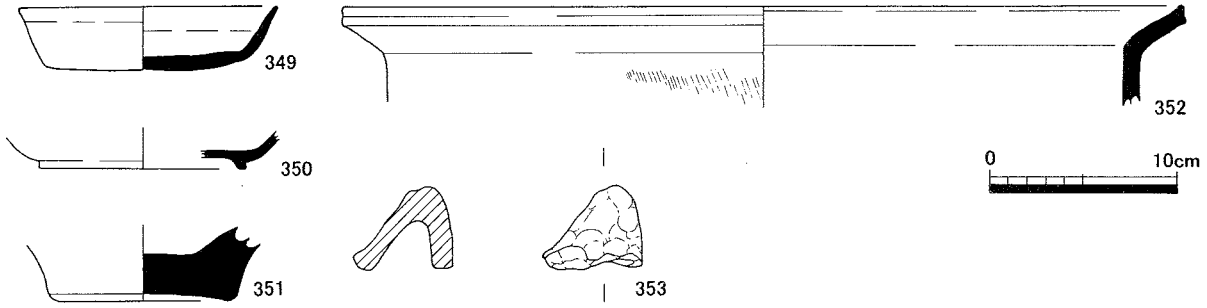
ＳＤ０８（第９，29図）

南Ⅳ区東で検出した溝で，蛇行しながら南北方向にのび，南北端は調査区外にのびるが，南Ⅲ・Ⅴ区では続きを確認していない。また，途中で長さ10ｍの間だけだが２つに分流しており，少なくとも１度の再掘削があったものと考えられる。SD28･34を切っているが，SD33･35との切り合い関係は不明である。幅0.5ｍ，深さ0.1～0.2ｍ，検出長59ｍを測る。横断面は，Ｕ字形を呈する。



第77図　SD07出土遺物実測図

出土遺物には，須恵器皿(第78図349)・坏身(350)，土師器甕(352)，弥生土器底部(351)・支脚(353)があり，道路状遺構と同じ時期の遺物が見られる。しかしながら，古代の遺構を切っていること，道路状遺構が直線にのびるように古代の遺構は規格的なのに対し，SD08は蛇行しており，古代以降の所属時期が考えられる。



第78図　SD08出土遺物実測図

ＳＤ１１（第７図）

南Ｉ区北端で検出した溝で，南東－北西方向に蛇行しており，東西端は調査区外にのびる。SD12，SX04に切られている。SD03との切り合い関係は不明。幅0.3～0.5m，深さ0.1～0.2m，検出長10mを測る。

ＳＤ１２（第７図）

南Ｉ区北東で検出した溝で，SD11同様に南東－北西方向にのびる。東端は調査区外にのび，西端の終端は不明瞭である。SD11を切っているが，SX03との切り合い関係は不明である。幅0.4～１m，深さ0.2m，検出長13.2mを測る。

ＳＤ１３（第７図）

南Ｉ区中央西で検出した溝で，緩く湾曲しながら東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端はSD04にあたって終焉しているが，SD03･04との切り合い関係は不明。幅0.3m，深さ0.1m，検出長5.8mを測る。

ＳＤ１４（第７図）

南Ｉ区中央で検出した溝で，緩く蛇行しながら東西方向にのびる。西端は調査区内で消失し，東端は調査区外にのびている。SD04，SX02との切り合い関係は不明。幅0.5～0.7m，深さ0.1m，検出長５mを測る。

ＳＤ１５（第７図）

南Ⅰ区南東で検出した溝で，緩く湾曲しながら東西方向にのびる。東端は調査区外にのび，西端はSD04にあたって終焉しているが，SD04･06との切り合い関係は不明。幅0.3m，深さ0.1m，検出長8.4mを測る。

ＳＤ１６（第７図）

南Ⅰ区南西で検出した溝で，東西方向に短くのびる。西端は調査区内で消失し，東端はSD03にあたって終焉しているが，SD03との切り合い関係は不明。幅0.5m，深さ0.1m，検出長1.4mを測る。

ＳＤ１７（第７，29図）

南Ⅱ区西で検出した溝で，N89°Eで東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端はSD03にあたって終焉しているが，SD03との切り合い関係は不明。幅0.8m，深さ0.1m，検出長3.4mを測る。横断面は，浅いU字形を呈する。

ＳＤ１８（第７，29図）

南Ⅱ区南西で検出した溝で，N83°Eで東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端はSD03にあたって終焉しているが，SD03との切り合い関係は不明。幅0.3m，深さ0.1m，検出長3.4mを測る。横断面は，U字形を呈する。

ＳＤ１９（第７図）

南Ⅱ区南端で検出した溝で，N18°Eで南北方向にのびる。南端は調査区外にのびるものの南Ⅲ区では検出しておらず，東端は調査区内で消失している。SD03との切り合い関係は不明。幅0.3m，深さ0.1m，検出長7.7mを測る。

ＳＤ２１（第８，29図）

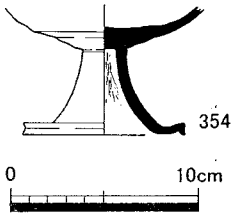
南Ⅲ区北西で検出した溝で，N78°Wで東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端SD01･03にあたって終焉しているが，SD01･03との切り合い関係は不明。幅0.4～0.5m，深さ0.1m，検出長3.8mを測る。横断面は，浅いU字形を呈する。出土遺物には土師器小片がある。さらに，このSD21はSD04･10とSD20の中間地点，すなわち１町を折半する位置にあることから，道路状遺構と同じ時期となる可能性がある。

ＳＤ２２（第８，29図）

南Ⅲ区中央西端で検出した溝で，蛇行しながら北東から南西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端はSD07にあたって終焉しているが，SD07との切り合い関係は不明。幅0.5～0.7m，深さ0.1～0.3m，検出長４mを測る。横断面は，浅いU字形を呈する。埋土は２層に分かれ，上層は暗褐色細砂，下層は黒褐色細砂である。

ＳＤ２３（第８，29図）

南Ⅲ区中央西寄りで検出した溝で，湾曲しながら北東から南西方向にのびる。東端はSD07にあたり，西端はSD10にあたって終焉しているが，SD07･10との切り合い関係は不明。延長上にSD24があり同一の溝と考えられるが，断定はできない。幅0.8m，深さ0.1m，検出長3.5mを測る。横断面は，浅いU字形を呈する。埋土は暗褐色細砂である。出土遺物には須恵器高坏(第79図354)がある



第79図 SD23出土遺物実測図

ＳＤ２４（第８，29図）

南Ⅲ区中央西寄りで検出した溝で，湾曲しながら北東から南西方向

にのびる。東端は調査区外にのび，西端はSD04にあたって終焉しているが，SD04との切り合い関係は不明。延長上にSD23があり同一の溝と考えられるが，断定はできない。幅0.5～0.7m，深さ0.1m，検出長10mを測る。横断面は，浅いU字形を呈する。埋土は暗褐色細砂である。

ＳＤ２５（第８図）

南Ⅲ区南側で検出した溝で，東西方向に短くのびる。西端は調査区内で消失し，東端はSD05にあたって終焉しているが，SD05との切り合い関係は不明。幅0.5～0.7m，深さ0.1m，検出長1.5mを測る。出土遺物には須恵器杯片，土師器小片がある。

ＳＤ２６（第９図）

南Ⅳ区北西で検出した溝で，蛇行しながら東西方向にのびる。西端は調査区内で消失し，東端はSD01･03にあたって終焉しているが，SD01･03との切り合い関係は不明。幅0.3m，深さ0.1m，検出長４mを測る。

ＳＤ２７（第９，29図）

南Ⅳ区北東端で検出した溝で，Ｎ８°Ｅで南北方向にのびる。北端は調査区外にのび，南端は調査区内で消失している。幅0.4m，深さ0.1m，検出長5.5mを測る。横断面は，U字形を呈する。

ＳＤ２８（第９，29図）

南Ⅳ区中央東端で検出した溝で，緩く湾曲しながら東西方向にのびる。東端は調査区外にのび，西端はSD02･05にあたって終焉している。SD08により切られているが，SD02との切り合い関係は不明。幅0.6m，深さ0.1m，検出長5.3mを測る。横断面は，浅いU字形を呈する。

ＳＤ３０（第９，29図）

南Ⅳ区中央南西で検出した溝で，蛇行しながら東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端はSD01･03にあたって終焉するが，SD01･03との切り合い関係は不明。延長上にSD35があるが，同一の溝とは断定できない。幅0.3～1.4m，深さ0.2m，検出長6.5mを測る。横断面は，浅いV字形を呈する。

ＳＤ３１（第９，29図）

南Ⅳ区中央南西で検出した溝で，緩く湾曲しながら東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端はSD01･03にあたって終焉するが，SD01･03との切り合い関係は不明。幅0.5m，深さ0.2m，検出長6.4mを測る。横断面は，逆台形を呈する。

ＳＤ３２（第９，29図）

南Ⅳ区中央南西で検出した溝で，N86°Wで東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端は調査区内で消失している。幅0.4m，深さ0.2m，検出長4.4mを測る。横断面は，V字形を呈する。

ＳＤ３３（第９，29図）

南Ⅳ区中央南端で検出した溝で，蛇行するがおおむねN68°Wで東西方向にのびる。両端とも調査区外にのびる。SD01･03，SD02･05との切り合い関係は不明。幅0.4～0.8m，深さ0.1～0.2m，検出長12.1mを測る。横断面は，逆台形を呈する。

ＳＤ３５（第９図）

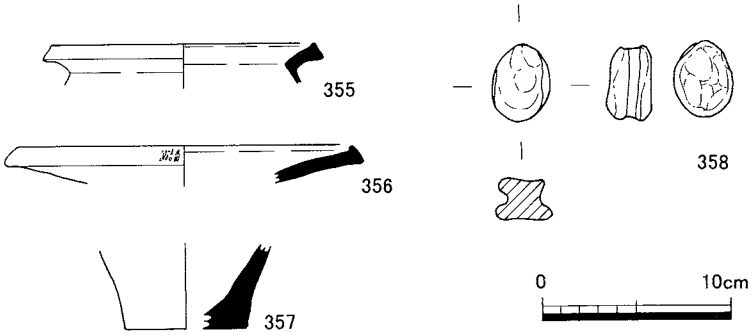
南Ⅳ区中央南東で検出した溝で，N79°Wで東西方向にのびる。東端は調査区外にのび，西端はSD02･05にあたって終焉するが，SD02･05との切り合い関係は不明。幅0.2～0.4m，深さ0.1m，検出長3.6mを測る。

ＳＤ３８（第10，11図）

南Ｖ～Ⅵ区にかけて検出した溝で，蛇行するがおおむねＮ10°Ｅで南北方向にのびる。北端はSD37に，南端はSD45にあたって終焉するが，SD37･43･45，SK13との切り合い関係は不明。道路状遺構SD05に隣接して併走している。幅0.4～0.6m，深さ0.1 m，検出長30mを測る。

ＳＤ３９（第10図）

南Ｖ区南東で検出した溝で，Ｎ19°Ｅで南北方向にのびる。両端とも調査区外にのびる。SD37との切り合い関係は不明。南Ｖ区とⅥ区の間で方向を変えSD42になる可能性もあるが，調査区外のため不明である。幅１～1.3m，深さ0.2 m，検出長12mを測る。出土遺物には，弥生土器甕(第80図355)・壺(356)・底部(357)，土師器土錘(358)がある。



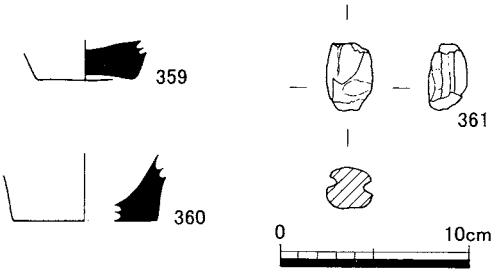
第80図　SD39出土遺物実測図

ＳＤ４０（第10図）

南Ｖ区南東で検出した溝で，Ｎ17°Ｅで南北方向にのびる。両端とも調査区外にのびる。SD37との切り合い関係は不明。幅0.8m，深さ0.1 m，検出長12mを測る。

ＳＤ４１（第11，29図）

南Ⅵ区北西で検出した溝で，蛇行しながら南北方向にのびる。北端は調査区外にのび，南端はSD43にあたって終焉しているが，SD43との切り合い関係は不明。SD42を切っている。幅0.4～0.8m，深さ0.1 m，検出長2.8mを測る。出土遺物には，弥生土器底部(第81図359･360)，土師器土錘(361)がある。



第81図　SD41出土遺物実測図

ＳＤ４２（第11，29図）

南Ⅵ区北西で検出した溝で，Ｎ46°Ｅで北東から南西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端はSD05にあたって終焉しているが，SD05との切り合い関係は不明。SD03を切っており，SD41に切られている。南Ｖ区とⅥ区の間で方向を変えSD39になる可能性もあるが，調査区外のため不明である。幅１m，深さ0.2 m，検出長12mを測る。

ＳＤ４６（第11，29図）

南Ⅵ区西で検出した溝で，Ｎ81°Ｅで東西方向にのびる。西端は調査区外にのび，東端はSD49にあたって終焉しているが，SD49との切り合い関係は不明。SD03を切っている。幅0.3～0.5m，深さ0.1 m，検出長６mを測る。横断面は，浅いＵ字形を呈する。

ＳＤ４７（第10図）

南Ｖ区北東で検出した溝で，Ｎ３°Ｗで南北方向にのびる。両端は調査区内で消失している。幅0.5m，深さ0.2 m，検出長4.2mを測る。

ＳＤ４８（第10図）

南Ｖ区中央で検出した溝で，東西方向に短くのびる。東端はSD05，西端はSD03によって終焉しており，両溝を結ぶ役割を果たしていた可能性もあるが断定できない。幅0.8m，深さ0.2 m，

検出長１ｍを測る。

ＳＤ５３（第４図）

北Ｉ区南西で検出した溝で，直径約８ｍの弧を描いている。南端は調査区外にのび，西端は調査区内で消失している。幅0.4m，深さ0.1 m，検出長13.2mを測る。

この溝については，南東側にある柱穴群を削平された竪穴住居の柱穴と仮定すると，竪穴住居に伴う周溝となる可能性もあるが断定はできない。竪穴住居の周溝だと仮定すると，付近から出土している弥生土器より，弥生時代後期に属すると推定される。

ＳＤ５４（第４図）

北Ｉ区南西で検出した溝で，東西方向にのびる。両端とも調査区内で消失している。幅0.4～0.8m，深さ0.1～0.2 m，検出長４ｍを測る。

ＳＤ５５（第４図）

北Ｉ区南西で検出した溝で，南北方向にのびる。両端とも調査区内で消失している。幅0.5m，深さ0.2 m，検出長２ｍを測る。

ＳＤ５６（第４図）

北Ｉ区北端中央で検出した溝で，Ｎ９°30′Ｅで南北方向にのびる。北端は幅を広げながら調査区外にのび，南端はSD52によって終焉しているが，切り合い関係は不明である。幅0.8～2.3 m，深さ0.1 m，検出長5.7mを測る。

ＳＤ５７（第４図）

北Ｉ区南端中央で検出した溝で，Ｎ49°Ｅで北東～南西方向にのびる。北端は調査区内で消失しており，南端は調査区外にのびる。幅0.3～0.5m，深さ0.1 m，検出長5.5mを測る。

ＳＤ５８（第４図）

北Ｉ区西端の旧河道内で検出した溝で，蛇行しながら南西～北東方向にのびる。両端とも調査区外にのびる。傾斜は南から北に向かって緩やかに下っている。幅0.7～2.4m，深さ0.1～0.3 m，検出長14.7mを測る。

ＳＤ５９（第６図）

北Ⅲ区西端で検出した溝で，おおむねＮ10°Ｅで南北方向に約23mのびるが，両端とも直角に折れて西に向かっている。両端とも調査区外にのびるため，全体の形状は把握できない。幅約0.4～0.7m，深さ0.1 m，検出長13mを測る。

(4)土坑

ＳＫ０５（第８･82図）

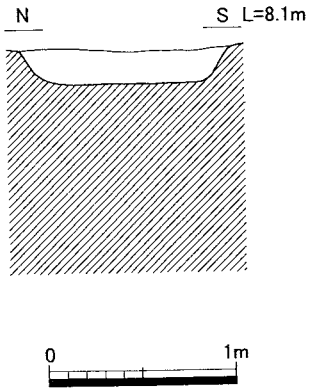
南Ⅲ区南東で検出した土坑で，ほぼ長方形を呈し，長辺1.1m以上，短辺1.2m，深さ0.2mを測る。SD05を切っている。

ＳＫ０７（第10図）

南Ｖ区北東端で検出した土坑で，不整な円形を呈し，直径1.2m以上，深さ0.3mを測る。SK08に切られる。

ＳＫ０８（第10図）

南Ｖ区北東端で検出した土坑で，不整な円形を呈し，直径1.9m，深さ0.3mを測る。SK07を切っている。



第82図 SK05断面図

ＳＫ０９（第10図）

南Ⅴ区北東で検出した土坑で，不整な三角形を呈し，一辺1.2m，深さ0.2mを測る。

ＳＫ１０（第10図）

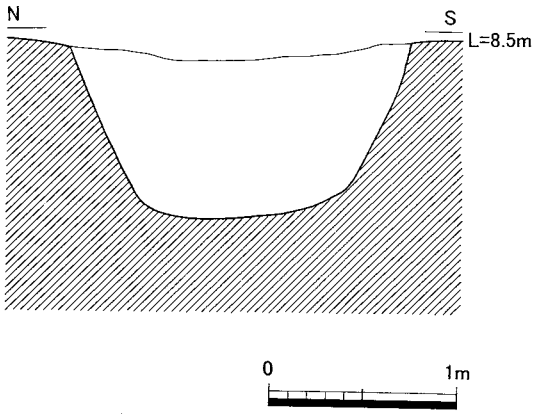
南Ⅴ区中央で検出した土坑で，不整な円形を呈し，直径1.4m，深さ0.2mを測る。

ＳＫ１４（第11図）

南Ⅵ区中央で検出した土坑で，不整な円形を呈し，直径1.2～1.6m，深さ0.2mを測る。SD38を切っている。

ＳＫ１５（第11，83図）

南Ⅵ区中央で検出した土坑で，瓢箪形を呈し，長径2.1m，短径1.2m，深さ0.3～0.4mを測る。横断面は，おおむね逆台形を呈する。



第83図 SK15断面図

(5)不明遺構

ＳＸ０６（第８，84図）

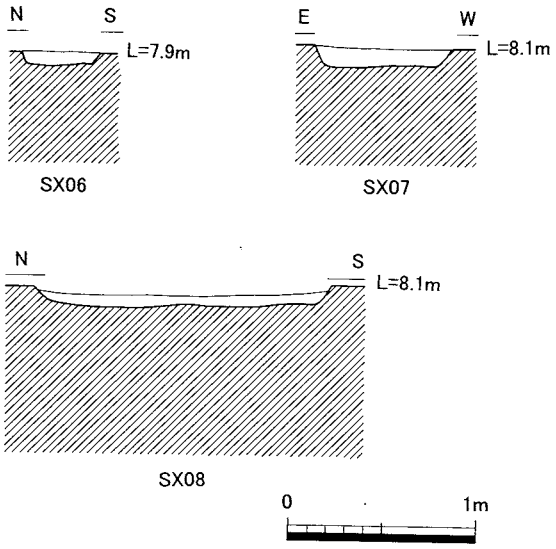
南Ⅲ区南西で検出した不明遺構で，東西に細長い溝状を呈する。西端は調査区外にのびる。南北0.6m，東西3.2m以上，深さ0.1mを測る。横断面は，逆台形を呈する。

ＳＸ０７（第８，84図）

南Ⅲ区南西で検出した不明遺構で，南北に細長い溝状を呈する。南北3.6m，東西0.9m，深さ0.1～0.2mを測る。横断面は，逆台形を呈する。

ＳＸ０８（第８，84図）

南Ⅲ区南西で検出した不明遺構で，南北に細長い不定形を呈する。南北1.5m，東西0.5m，深さ0.1mを測る。縦断面は，逆台形を呈する。



第84図 SX06～08断面図

ＳＸ１２（第５図）

北Ⅱ区西端で検出した不明遺構で，南北に細長い不定形を呈するが，遺構の大半は調査区外にあると想定した場合，ほぼ円形を呈する遺構と推定される。南北4.7m，東西1.3m以上，深さ0.1mを測る。隣接するSX11とほぼ同規模の遺構に復原が可能である。

ＳＸ１３（第４図）

北Ⅰ区西で検出した不明遺構で，不整な円形を呈する。南北４m，東西3.9m以上，深さ0.1～0.3mを測る。北Ⅱ区のSX11と同様の状況を示す。

ＳＸ１４（第４図）

北Ⅰ区西で検出した不明遺構で，東西に長い長方形を呈する。長辺3.9m，短辺2.4～3.4m，深さ0.1mを測る。

ＳＸ１５（第４図）

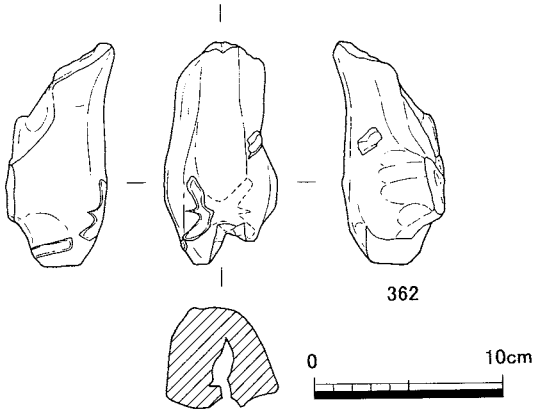
北Ⅰ区北中央で検出した不明遺構で，不整な円形を呈する。南北2.6m，東西２m，深さ0.1mを測る。

ＳＸ１６（第４図）

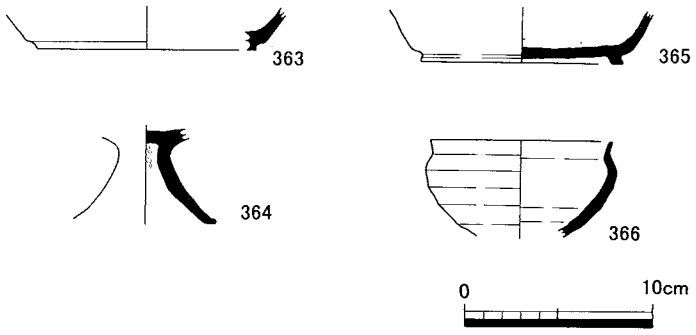
北Ｉ区北中央で検出した不明遺構で，不整な円形を呈する。南北４ｍ，東西3.8ｍ，深さ0.1ｍを測る。

(6)遺構面検出遺物

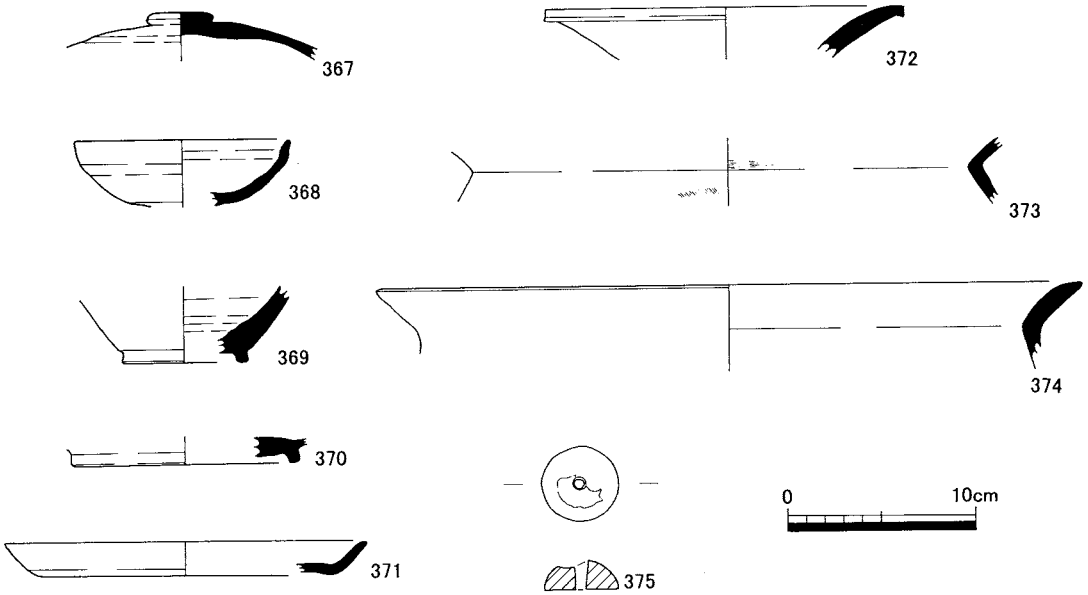
各調査区で遺構面を精査中，遺構から遊離した状態で出土した遺物を図示した。この中で特筆されるのは，土馬(第85図362)と滑石製紡錘車(第87図375)である。土馬は，土師質で，頭部・脚部が欠損した胴部破片である。尻には尻繋，腹には鐙を表したと考えられる粘土紐を張り付けている。一方，滑石製紡錘車は無文で，縦断面は半円形に近い。



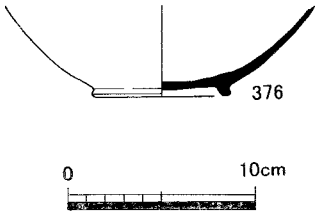
第85図　南調査区遺構面出土遺物実測図



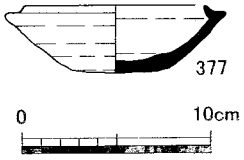
第86図　南Ⅲ区遺構面出土遺物実測図



第87図　南Ⅳ区遺構面出土遺物実測図



第88図　南Ⅵ区遺構面出土遺物実測図



第89図　南Ⅱ区遺構面出土遺物実測図

第４章　まとめ

第１節　遺構の変遷

調査区内の遺構は，遺構の切合関係や出土遺物からおおむね４時期に分けることができ，第３章で時期別に遺構と出土遺物の詳細については報告したとおりである。ここでは，時期別に遺構相互の関係を確認し，遺跡の内容を明らかにしていく。

弥生時代　この時代の遺構は北Ｉ区のみ認められ，SD51･52の溝２条のみである(第90図)。出土遺物は，SD51からは前期と後期の土器が，SD52からは前期の土器が出土している。他に不明遺構としたSX11･12･13は，当該期の竪穴住居跡の可能性を含むものがあるが，後世の遺物の混入が著しく断定できなかった。また，土器・石器が北区だけでなく，南区にも広く散布しており，当該期の遺構が北Ｉ区だけでなく南区にも存在していた可能性がある。

飛鳥～奈良時代　もっとも遺構数が多いのがこの時代であるが，その中にあってSD01～05で構成される道路状遺構は，特筆される遺構である。２本の直線溝が並行して南北に調査区を約267mにわたって縦断しており，２本の溝と溝の間の距離は2.3～2.5mを測る。この並行する２本の溝を側溝ととらえた場合，轍などは未検出だが，道路と考慮するのがもっとも適当であろう。さらに，SD03･04･05とSD09･10の溝によって道路の交差点を形成していることも注目すべきである。このSD09･10をはじめ，SD29･34，SD36･37，SD20といった東西方向の溝も，約52～58mの間隔をもって，道路状遺構と交差しており，規格性が認められる。出土遺物の年代は７世紀後半～８世紀後半であり，とくに７世紀後半でも古い時期のものが比較的多いことから，７世紀後半には掘削され，８世紀後半まで機能していたと考えられる。

この道路状遺構と方位をほぼ同じくする掘立柱建物SB01･06･07･09･11や柵列SA04が存在し，道路状遺構に沿って建てられている。道路状遺構は，当該遺跡が立地する南北に細長い微高地のほぼ中央を南北に貫いていることから，道路状遺構を中心として方位を同じくする掘立柱建物群が並んでいる集落が存在していたと考えられる(第91図)。

一方，道路状遺構はＮ９°Ｅの方位をもつが，これは現在も高松平野に見られる条里地割と同じ方位であり，次節で詳細に述べるが，古代条里制施工との関係が指摘できる。

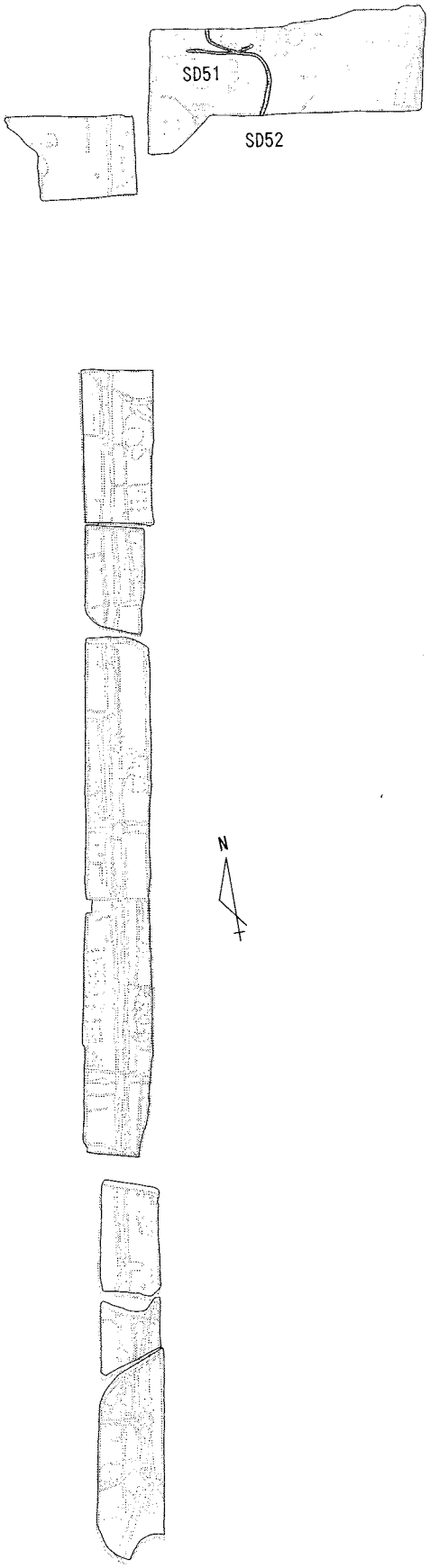
平安時代末期～鎌倉時代　掘立柱建物１棟と不定形小区画水田が代表的遺構にあげられ，小規模ながら集落が存在していたと考えられる(第92図)。時期不明としたSD07も当該期に属する可能性があり，掘立柱建物SB02を一部囲んでいることから土地を区画する溝とも考えられる。

江戸時代　溝と土坑のみが検出されており，この時期の集落は調査範囲内には存在していなかったと考えられる(第93図)。ただし，土坑SK01では陶磁器がまとまって一括廃棄されて出土しており，付近に集落が存在した可能性がある。

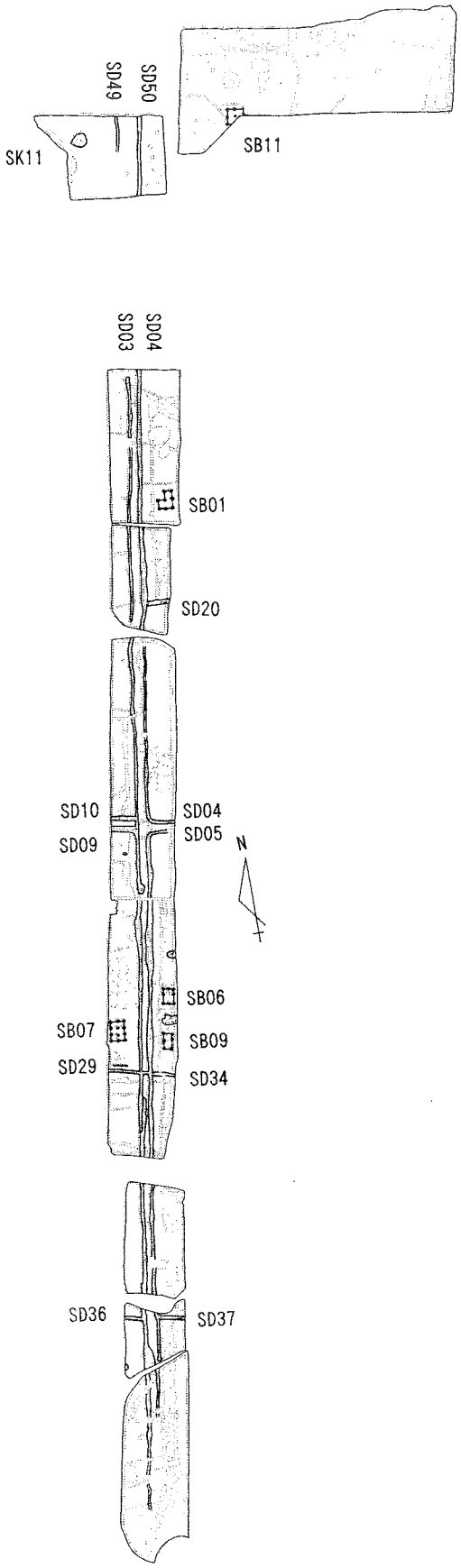
第２節　道路状遺構と条里地割

松縄下所遺跡で確認された道路状遺構については，発掘当時から条里地割の起源つまり条里制の施工を解明する重要な遺構として注目されていた。それは，従来，高松平野の条里制の施工が８世紀初頭頃と考えられていたが，条里地割と同方位を示す松縄下所遺跡の道路状遺構が７世紀後半の掘削時期が考えられるからである。

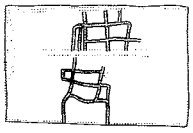
まず高松平野の条里制について見ていきたい。高松平野は，古代の行政区画で表すと，東半分が山田郡，西半分が香川郡に該当する。今も平野に残る条里地割を概観する(第94図)と，山



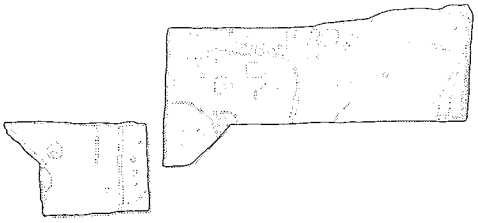
第90図　遺構変遷図(弥生時代)

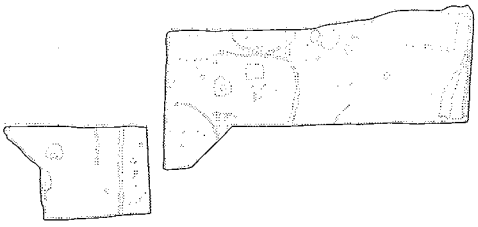


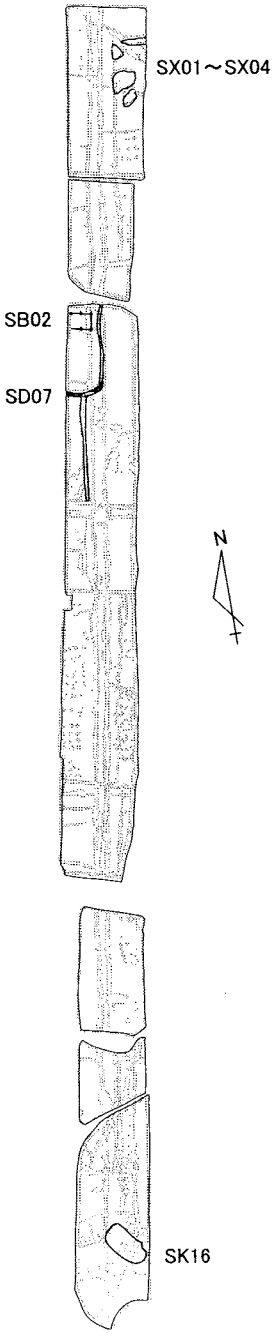
第91図　遺構変遷図(飛鳥～奈良時代)

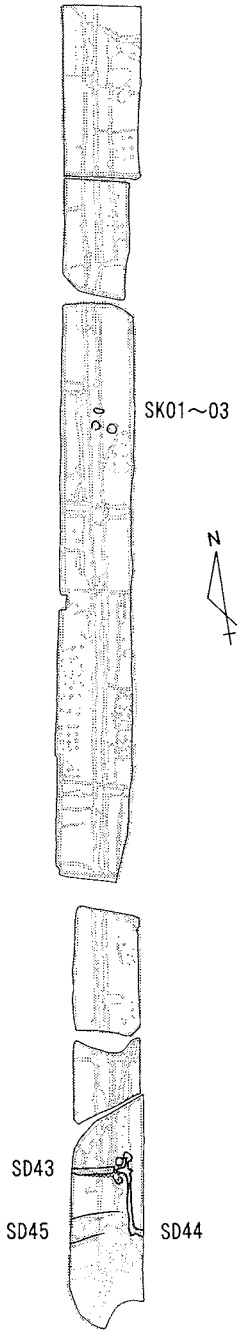


不定形小区画水田









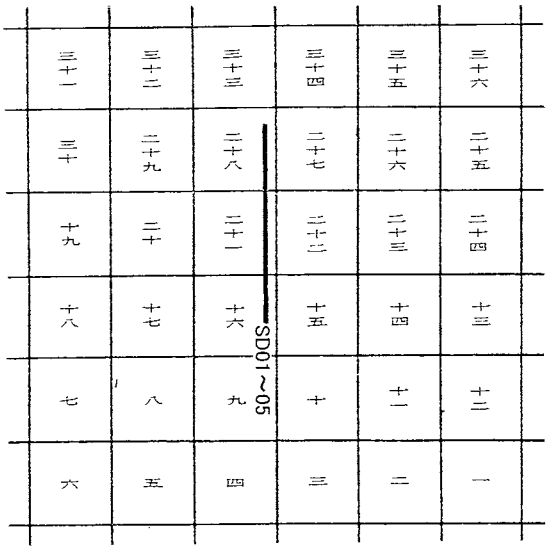
第92図　遺構変遷図(平安時代末期～鎌倉時代)

第93図　遺構変遷図(江戸時代)

第94図　高松平野の条里プラン(金田1999)

田郡では東へ９～11度，香川郡では東へ10度前後傾いていることがわかるが，この条里地割については金田章裕氏の研究が詳しい(金田1988)。金田氏は，南海道は平野を東西に横切るが，これに接する部分の条里地割の南北幅が東西幅に比べ約10m広いこと，さらに低い丘陵端を切り込んだ切り通し状の遺構が存在することから，条里地割は道路敷に相当すると推定される一定幅を除いて施工されたとみている。従って，直線状の南海道が創設されてから条里地割が施工されたと考えられている。この南海道は，高松平野では白山南麓と六ツ目山北側の肩状地点（傾斜変換点）を直線で結んで測設されたものであり，六ツ目山と伽藍山の間の峠を越えて南海道は国分寺町の小盆地に抜ける。さて，南海道創設の後，南海道と直角に交差する形で山田郡・香川郡の郡境が設定され，さらに１町(約109m)四方の条里プランが設定されたとみられる。ただし，山田郡のうち今の古高松周辺では，東へ５度傾いている異方向条里が存在していることも指摘されている(藤好1996)。一方，本市教委が実施した弘福寺領讃岐国山田郡田図の調査では，田図の比定地を探っただけでなく，条里地割の解明にもメスを入れることとなり，南海道の位置をも考古学的に確定した。同じ頃，平野中央部で実施された開発行為に伴う発掘調査

の成果と合わせて，高松平野の条里施工は，平野全域を一度に実施したのではなく，微高地など施工しやすい場所から順次行われたことが明らかになった。旧河道など中近世になるまで埋没が進まない場所では，条里地割の出現は中近世に至るまで遅れるようである。



第95図　道路状遺構(SD01～05)と条里地割
（金田1988を一部改変）

さて，松縄下所遺跡は条里呼称に従えば香川郡１条17里に位置する。松縄下所遺跡で検出した南北約267ｍの道路状遺構(SD01～05)は，15･16坪，21･22坪，27･28坪の坪界線より西へ約14ｍに位置し，坪界線と平行してのびており条里地割と方位が一致する(第95図)。一方，南北の道路状遺構と直交する東西の溝(SD09･10･20･29･34･36･37)も，約52～58ｍの間隔をもって，おおむね東西の坪界線と中間線に重複している。これら道路状遺構が，従来考えられていた条里施工時期より遡る７世紀後半に掘削された可能性が指摘できるということは，条里地割の基準となった南海道や山田・香川郡境も７世紀後半にまで遡ることを示唆している(註1)。高松平野以外においても，条里制の施工開始時期が７世紀にまで遡ることが指摘されている(註2)。

しかしながら，南北方向の道路状遺構が坪並の中に割り込んだ形で施工されていること，道路状遺構の南端が旧河道によって切断されていることなど，条里地割と一部合わない点や道路の機能をもつには不十分な点もある。このことは，条里制施工開始時期の様相を表しているとも考えられ，今後の発掘調査による資料の蓄積により解決されるべき問題である(註3)。

註

1)同じ平野中央にある空港跡地遺跡のSD45も，条里地割と符合し，７～８世紀前半の時期が考えられている。
2)高松平野の西隣である丸亀平野においても森下英治氏によって研究がなされている(森下1997)。氏によれば，発掘した遺跡の検討を通して，丸亀平野の条里地割の施工開始時期は７世紀末～８世紀初頭と考えられ，平野を一元的に区画しようとする企画の設定は７世紀後半まで遡る可能性が指摘されている。
3)石上英一氏は，南海道から高津にいたる幹線道路としての役割を想定し，現在高松市上福岡町に所在する波指神社の存在を重視している。(石上1992)。

参考文献

石上英一1992「高松平野の古代社会」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会
金田章裕1988「条里と村落生活」『香川県史１　原始・古代』香川県編，四国新聞社
金田章裕1999「高松平野における条里地割の形成」『讃岐国弘福寺領の調査Ⅱ』高松市教育委員会
高橋　学1992「高松平野の地形環境」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会
田辺昭三1981『須恵器大成』角川書店
中村　浩1978『陶邑Ⅲ』大阪府教育委員会
藤好史郎1996「高松市新田町小山・南谷遺跡の発掘調査」『条里制研究12』
森下英治1997「丸亀平野条里型地割の考古学的検討」『研究紀要Ｖ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
香川県教育委員会1993『空港跡地遺跡発掘調査概報　平成４年度』

松縄下所遺跡出土土器観察表

※法量の()は，残存値を表す。

第5表　SD51出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
1	弥生土器 壺	14.6		(2.1)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで	外面:10YR6/3にぶい黄橙 内面:10YR6/3にぶい黄橙	2mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	口縁端部:凹線2条
2	弥生土器 壺			(6.7)	頸部外面:篦削り 頸部内面:なで，指頭圧痕	外面:10YR8/3浅黄橙 内面:2.5Y8/2灰白	2mm以下の長石・石英を含む	頸部外面:貼付突帯文
3	弥生土器 甕			(11.4)	体部外面:刷毛目	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	体部外面:篦描沈線5条と竹管文
4	弥生土器 甕	17.0		(10.6)	口縁部外面:横なで 体部外面:刷毛目	外面:5YR8/2灰白 内面:2.5Y7/2灰黄	3mm以下の長石・石英を含む	
5	弥生土器 甕	24.6		(2.3)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで	外面:10YR6/3にぶい黄橙 内面:10YR6/2灰黄褐	1mm以下の長石・石英・角閃石を含む	口縁端部:凹線3条
6	弥生土器 甕	24.0		(5.6)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで	外面:2.5Y8/3淡黄 内面:10YR6/4にぶい黄橙	1mm以下の長石・石英・角閃石を含む	口縁端部:凹線3条
7	弥生土器 鉢	40.0		(6.0)	体部内面:なで，刷毛目	外面:10YR6/3にぶい黄橙 内面:10YR6/4にぶい黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	
8	弥生土器 壺		7.8	(5.5)	底部外面:篦磨き 底部内面:篦磨き	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/1灰白	3mm以下の長石・石英を含む	
9	弥生土器 底部		27.0	(5.4)	底部内面:なで	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/3にぶい黄橙	3mm以下の長石・石英を含む	
10	弥生土器 底部		6.2	(5.5)	底部外面:刷毛目	外面:2.5YR7/4淡赤橙 内面:10YR8/1灰白	2mm以下の長石・石英を含む	
11	弥生土器 底部		6.8	(6.2)	底部外面:刷毛目，指頭圧痕 底部内面:刷毛目	外面:5YR7/4にぶい橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	
12	弥生土器 底部		7.6	(4.3)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:5YR6/6橙 内面:7.5YR7/2明褐灰	2mm以下の長石・石英を含む	
13	弥生土器 底部		6.6	(5.0)	底部外面:篦磨き 底部内面:篦磨き	外面:2.5Y8/1灰白 内面:N5/灰	2mm以下の長石・石英を含む	
14	弥生土器 底部		7.6	(4.0)	底部内面:刷毛目	外面:2.5Y8/1灰白 内面:2.5Y8/1灰白	3mm以下の長石・石英を含む	

第6表　SD52出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
15	弥生土器 甕			(7.0)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:2.5Y8/1灰白 内面:10YR8/1灰白	2mm以下の長石・石英を含む	体部外面:篦描沈線5条と外面黒斑
16	弥生土器 甕	14.6		(6.7)	体部外面:指頭圧痕 体部内面:なで，指頭圧痕	外面:5YR6/6橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	3mm以下の長石・石英を含む	口縁端部:刻目文 体部外面:篦描沈線2条と竹管

第7表　北Ⅰ区遺構面出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
17	弥生土器 蓋	2.6		(4.5)	外面:指頭圧痕 内面:しぼり目	外面:7.5YR7/4にぶい橙 内面:10YR7/1灰白	2mm以下の長石・石英を含む	
18	弥生土器 甕	16.0		(2.5)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで	外面:7.5YR6/3にぶい褐 内面:7.5YR6/4にぶい橙	1mm以下の長石・石英・雲母を含む	
19	弥生土器 甕	28.6		(6.0)		外面:7.5YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白		体部外面:篦描沈線7条
20	弥生土器 甕	27.0		(5.5)	体部外面:刷毛目 体部内面:なで，指頭圧痕	外面:10YR8/2灰白 内面:N3/暗灰	4mm以下の長石・石英を含む	
21	弥生土器 甕	31.2		(9.5)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:なで 体部外面:刷毛目	外面:10YR8/2灰白 内面:5Y3/1オリーブ黒	4mm以下の長石・石英を含む	

第8表　SD01出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
27	須恵器 杯蓋	17.6		(1.5)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	2mm以下の砂粒を含む	
28	須恵器 杯身		11.2	(1.2)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N4/灰 内面:N5/灰	1mm以下の砂粒を含む	堅緻
29	須恵器 壷		10.8	(2.1)	底部外面:なで 底部内面:回転なで 体部外面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N7/灰白	3mm以下の砂粒を含む	
30	須恵器 甕	16.4		(3.9)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	1mm以下の砂粒を含む	
31	須恵器 甕	22.0		(2.3)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N7/灰白	1mm以下の砂粒を含む	堅緻
32	土師器 壷	21.4		(2.0)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR6/4にぶい橙 内面:7.5YR6/4にぶい橙	4mm以下の長石・石英を多く含む	
33	須恵器 甕	18.0		(5.0)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで 体部外面:叩き痕 体部内面:当て痕	外面:7.5Y8/灰白 内面:7.5Y8/灰白	2mm以下の砂粒を含む	
34	土師器 甕	23.2		(3.7)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR8/2灰白 内面:7.5YR8/2灰白	6mm以下の長石・石英を含む	
35	須恵器 長頸壷			(5.5)	頸部外面:回転なで 頸部内面:回転なで	外面:7.5Y6/1灰 内面:10Y6/1灰	2mm以下の砂粒を含む	
36	須恵器 平瓶	7.6		(4.9)	頸部外面:回転なで 頸部内面:回転なで	外面:2.5Y6/1黄灰 内面:2.5Y5/1黄灰	2mm以下の砂粒を含む	
37	須恵器 甕			(2.8)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:10Y7/1灰白 内面:10Y7/1灰白	2mm以下の砂粒を含む	口縁部外面:波状文5条が2列
38	須恵器 短頸壷			(6.2)	体部外面上半:かき目 体部外面下半:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N6/灰	2mm以下の砂粒を含む	堅緻
39	須恵器 長頸壷			(7.5)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N7/灰白	2mm以下の砂粒を含む	堅緻
40	土師器 把手			(3.8)	外面:なで 内面:なで，指頭圧痕	外面:2.5Y8/3淡黄 内面:2.5Y8/3淡黄	5mm以下の長石・石英を含む	
41	土師器 甕	32.8		(7.4)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:10YR8/3浅黄橙 内面:10YR8/3浅黄橙	3mm以下の長石・石英を多く含む	
42	土師器 甕	39.2		(4.3)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで，指頭圧痕	外面:7.5YR8/3浅黄橙 内面:7.5YR8/1灰白		

第9表　SD02出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
43	須恵器 杯蓋			(1.2)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N5/灰	1mm以下の砂粒を含む	
44	須恵器 杯蓋	12.6		(2.9)	外面:なで 内面:なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	2mm以下の砂粒を含む	堅緻
45	須恵器 杯身	8.0		(3.6)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:10YR6/1褐灰 内面:10YR6/1褐灰	1mm以下の砂粒を含む	堅緻
46	須恵器 杯身	10.2		(1.5)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	1mm以下の砂粒を含む	堅緻
47	須恵器 杯身	12.0		(2.0)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N5/灰	2mm以下の砂粒を含む	堅緻
48	須恵器 皿	21.0		3.1	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:7.5Y7/1灰白 内面:7.5Y6/1灰	1mm以下の砂粒を含む	
49	須恵器 壷		16.0	(4.2)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで			
50	須恵器 杯身		10.4	(1.7)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内面:2.5Y7/3浅黄	2mm以下の長石・石英を含む	
51	土師器 杯	15.4		(3.0)	外面:なで 内面:なで	外面:7.5YR7/6橙 内面:7.5YR7/6橙	2mm以下の長石・石英を含む	
52	須恵器 甕	24.8		(4.8)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:7.5Y6/2灰白 内面:7.5Y7/1灰白	2mm以下の砂粒を含む	外面:自然釉
53	須恵器 甕	22.8		(6.2)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:7.5Y5/1灰 内面:7.5Y6/1灰	3mm以下の砂粒を含む	外面:凹線1条/自然釉
54	土師器 把手			(7.3)	外面:なで 内面:なで	外面:7.5Y8/2灰白 内面:7.5Y8/2灰白	5mm以下の長石・石英を含む	

第10表　SD03出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
55	須恵器 杯蓋			(1.2)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
56	須恵器 杯蓋			(1.3)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
57	須恵器 杯蓋	12.4		(2.6)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:10Y8/1灰白 内面:10Y8/1灰白	密	
58	須恵器 杯蓋	16.0		(1.2)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:2.5GY7/1灰白 内面:N7/灰白	密	
59	須恵器 杯蓋	16.4		(1.3)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:5Y7/1灰白 内面:5Y7/1灰白	密	
60	須恵器 杯蓋	15.6		(1.5)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:5Y6/1灰 内面:5Y6/1灰	密	堅緻
61	須恵器 杯蓋	18.2		(1.4)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
62	須恵器 杯身	11.2		(1.3)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:2.5GY7/1灰白 内面:N7/灰白	密	外面:自然釉
63	須恵器 杯身	9.2		(2.3)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
64	須恵器 杯身		9.4	(1.1)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
65	須恵器 杯身		10.2	(1.4)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
66	須恵器 杯身		10.7	(1.2)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N7/灰白	密	
67	須恵器 杯身		10.0	(2.3)	外面:回転なで 内面:回転なで 底部外面:横なで	外面:N5/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
68	須恵器 杯身	15.6	10.8	4.7	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
69	須恵器 杯身	10.6		(2.6)	体部外面:横なで 体部内面:横なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
70	須恵器 杯身	10.6	2.0	4.0	体部外面:横なで 体部内面:横なで 底部外面:回転篦削り	外面:N7/灰白 内面:N8/灰白	密	
71	須恵器 杯身	11.0		(3.2)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N6/灰白	密	堅緻
72	須恵器 高杯	12.0		(3.6)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
73	須恵器 高杯			(2.2)	外面:横なで 内面:横なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
74	須恵器 高杯			(4.3)	外面:横なで 内面:横なで	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内面:N7/灰白	密	
75	須恵器 高杯			(6.2)	外面:なで 内面:なで,しぼり目	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
76	須恵器 高杯	11.4	9.0	7.6	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:10YR7/1灰白 内面:10YR7/1灰白	密	堅緻 外面:黒斑
77	須恵器 高杯		14.0	(1.1)	脚部外面:なで 脚部内面:なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
78	須恵器 高杯		9.4	(4.4)	脚部外面:なで 脚部内面:なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
79	須恵器 高杯		9.2	(5.2)	脚部外面:なで 脚部内面:なで,しぼり目	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
80	須恵器 高杯		9.0	(4.6)	脚部外面:なで 脚部内面:なで,しぼり目	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
81	須恵器 高杯		8.9	(6.8)	脚部外面:なで 脚部内面:なで,しぼり目	外面:7.5Y7/1灰白 内面:N8/灰白	密	外面:自然釉 内面:自然釉
82	須恵器 杯身	14.6		(4.8)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:5Y8/1灰白 内面:5Y8/1灰白	密	
83	須恵器 杯身			(1.0)	外面:なで 内面:なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
84	須恵器 杯身		5.0	(1.8)	外面:なで 内面:なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
85	須恵器 壷		9.0	(3.0)	外面:なで 内面:なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	

第10表　SD03出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
86	須恵器 壺		16.0	(1.9)	外面:なで 内面:なで	外面:7.5Y6/1灰 内面:7.5Y7/1灰白	密	
87	須恵器 平瓶			(2.1)	外面:なで 内面:なで	外面:7.5Y6/1灰 内面:7.5Y6/1灰	密	堅緻 円板充填
88	須恵器 提瓶	6.0		(5.6)	頸部外面:なで 頸部内面:なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
89	須恵器 短頸壺	13.6		(4.3)	頸部外面:なで, かき目 頸部内面:なで	外面:N6/灰 内面:N7/灰	密	頸部内面:自然釉 堅緻
90	須恵器 壺			(6.2)	頸部外面:なで 頸部内面:なで, しぼり目	外面:N7/灰白 内面:N6/灰	密	
91	須恵器 甕	35.0		(23.8)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで 体部外面:たたき目 体部内面:たたき	外面:2.5Y7/1灰白 内面:N7/灰白		口縁部:刻目文 波状文5条3列 沈線3条
92	須恵器 横瓶	14.0		(12.6)	体部外面:たたき目 体部内面:当て痕	外面:N5/灰 内面:N7/灰	密	堅緻
93	土師器 杯	14.5		5.3	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで 体部外面上面:篦削り後なで 体部外面下面:指頭圧痕なで 体部内面:なで	外面:7.5YR8/4浅黄橙 内面:10YR8/4浅黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	
94	土師器 杯			(4.0)	外面:なで 内面:なで	外面:10YR8/3浅黄橙 内面:10YR8/3浅黄橙	1mm以下の長石を含む	
95	土師器 椀	15.4		(5.1)	外面:なで 内面:なで	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	3mm以下の長石・石英を含む	
96	土錘	2.4		6.4	外面:なで	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	3mm以下の長石・石英を含む	
97	土師器 甕	16.8		(3.3)	口縁部外面:なで, 刷毛目 口縁部内面:なで, 篦削り	外面:5YR5/3にぶい赤褐 内面:10YR6/2灰黄褐	2mm以下の長石・石英を含む	
98	土師器 甕	23.2		(4.2)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:5Y8/4浅黄橙 内面:5Y8/3浅黄橙	3mm以下の長石・石英を含む	
99	弥生土器 壺			(2.7)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR7/4にぶい橙 内面:7.5YR7/4にぶい橙	3mm以下の長石・石英を含む	
100	土師器 甕	20.4		(4.0)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:10Y6/6赤橙 内面:2.5Y8/1灰白	1mm以下の長石・石英を含む	
101	土師器 甕	23.8		(4.8)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:2.5Y8/2灰白 内面:2.5Y8/2灰白	4mm以下の長石・石英を含む	
102	土師器 甕	21.0		(2.2)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:2.5Y8/2灰白 内面:2.5Y8/2灰白	3mm以下の長石・石英を含む	
103	土師器 鉢	46.6		(5.2)	口縁部外面:磨滅のため調整不明 口縁部内面:磨滅のため調整不明	外面:7.5YR8/2灰白 内面:7.5YR7/3にぶい橙	1mm以下の長石・石英を含む	
104	弥生土器 甕	17.0		(1.7)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:10YR7/4にぶい黄橙 内面:10YR7/4にぶい黄橙	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
105	弥生土器 底部		5.5	(3.5)	体部外面:指頭圧痕, 刷毛目 体部内面:刷毛目	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR6/3にぶい黄橙	6mm以下の長石・石英を含む	底部:穿孔2穴
106	弥生土器 底部		2.9	(3.9)	体部外面:横なで, 指頭圧痕 体部内面:横なで	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内面:5YR7/3にぶい橙	5mm以下の長石・石英を含む	
107	弥生土器 底部		10.0	(4.5)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:2.5Y7/2灰黄 内面:2.5Y7/2灰黄	4mm以下の長石・石英を含む	
108	弥生土器 底部		6.0	(4.9)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:10YR7/3にぶい黄橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	3mm以下の長石・石英を含む	

第11表　SD05出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
109	須恵器 杯身	9.2		2.9	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:7/灰白 内面:8/灰白	密	
110	須恵器 杯身	10.0		3.8	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	
111	須恵器 杯身	13.8		(2.5)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:7.5Y6/1灰 内面:7.5Y6/1灰	密	
112	須恵器 杯身	9.0		(2.5)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	
113	須恵器 杯身	10.6		(2.4)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:7.5Y7/1灰白 内面:7.5Y7/1灰白	密	
114	須恵器 杯身	10.6		(3.3)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
115	須恵器 杯身	10.4		3.7	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N5/灰	密	堅緻
116	須恵器 杯身	11.0		4.7	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:5Y8/1灰白	密	
117	須恵器 杯身	11.1		(3.4)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:7.5Y8/1灰白 内面:7.5Y8/1灰白	密	
118	須恵器 杯身	11.8		(3.4)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
119	須恵器 杯身	14.0		(3.5)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
120	須恵器 杯身	17.0		(4.2)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:10Y7/灰白	密	堅緻
121	須恵器 杯身	18.0		(2.0)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
122	須恵器 杯身	9.0		(1.1)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:7.5GY6/1オリーブ灰	密	
123	須恵器 杯身	9.6		(1.2)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:5Y7/1灰白 内面:5Y7/1灰白	密	堅緻
124	須恵器 杯身	11.4		(0.8)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
125	須恵器 壺	9.8		(3.2)	体部外面:なで, 自然釉 体部内面:なで, 自然釉	外面:N6/灰 内面:N7/灰白	密	堅緻
126	須恵器 高杯		8.4	(5.6)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで, しぼり目	外面:7.5Y7/1灰白 内面:7.5Y7/1灰白	密	
127	須恵器 高杯		8.4	(5.8)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで, しぼり目	外面:10YR7/1灰白 内面:10YR7/1灰白	密	

第11表　SD05出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
128	須恵器 高杯		9.2	(4.9)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで,しぼり目	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
129	須恵器 高杯		9.0	(4.9)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで,しぼり目	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
130	須恵器 高杯			(3.8)	胴部外面:なで,自然釉 胴部内面:なで	外面:N7/灰白 内面:N8/灰白	密	堅緻
131	須恵器 高杯		7.4	(4.7)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで,しぼり目	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
132	須恵器 高杯			(5.5)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで,しぼり目	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
133	須恵器 高杯			(5.6)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで,しぼり目	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
134	須恵器 高杯		14.2	(1.3)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N7/灰白	密	堅緻
135	須恵器 高杯		7.6	(3.0)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:7.5Y6/1灰 内面:10Y7/1灰白	密	堅緻
136	須恵器 高杯		9.6	(5.7)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:N3/暗灰 内面:5Y6/1灰	密	堅緻
137	須恵器 甕	14.6		(6.0)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:2.5GY7/1明オリーブ灰 内面:5GY6/1オリーブ灰	密	堅緻
138	須恵器 壺			(7.7)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:5PB4/1暗青灰 内面:N5/灰	密	堅緻
139	須恵器 横瓶			(7.7)	体部外面:たたき目(平行たたき) 体部内面:たたき目(同心円文)	外面:N6/灰 内面:N7/灰	密	
140	須恵器 底部			(3.8)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:6/灰 内面:7/灰	密	
141	土師器 製塩土器	12.0		(4.6)	体部外面:板なで 体部内面:なで	外面:2.5YR6/6橙 内面:2.5YR6/4にぶい橙	密	
142	土師器 壺			(4.0)	体部外面:なで,刷毛目 体部内面:なで	外面:10YR8/4浅黄橙 内面:2.5Y8/3浅黄	3mm以下の長石・石英	
143	土師器 甕	14.0		(4.0)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:5YR6/6橙 内面:5YR6/6橙	3mm以下の長石・石英を含む	
144	土師器 甕	14.2		(3.8)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:2.5YR6/6橙 内面:10YR5/2灰黄褐	2mm以下の長石・石英を含む	
145	土師器 甕	26.8		(3.5)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR8/3浅黄橙 内面:7.5YR8/3浅黄橙	5mm以下の長石・石英を含む	
146	土師器 甕	32.0		(6.8)	口縁部外面:刷毛目,指頭圧痕 口縁部内面:横なで	外面:5YR6/8橙 内面:5YR6/8橙		
147	土師器 甕	30.0		14.0	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで 体部外面:刷毛目 体部内面:刷毛目,指頭圧痕	外面:7.5YR8/4浅黄橙 内面:7.5YR7/6橙	5mm以下の長石・石英を含む	
148	土師器 甕	44.6		(6.5)	口縁部外面:なで,刷毛目 口縁部内面:なで,刷毛目	外面:7.5YR8/2灰白 内面:7.5YR8/1灰白	3mm以下の長石・石英を含む	
149	土師器 把手				外面:なで,指頭圧痕 内面:なで	外面:7.5YR橙 内面:7.5YR橙	3mm以下の長石・石英を含む	

第12表　SD09出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
150	須恵器 杯身			(2.9)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N7/灰白	密	
151	須恵器 杯身	16.6	12.0	7.0	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:10Y6/1灰 内面:10Y6/1灰	密	
152	須恵器 高杯		9.2	(4.3)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで,しぼり目	外面:2.5Y8/1灰白 内面:2.5Y8/1灰白	密	
153	須恵器 高杯			(4.0)		外面:N6/灰 内面:N8/灰白	密	
154	須恵器 長頸壺			(8.6)	頸部外面:回転なで 頸部内面:回転なで,しぼり目	外面:2.5Y7/1灰白 内面:2.5Y7/1灰白	密	
155	須恵器 長頸壺			(5.7)	胴部外面:回転なで 胴部内面:回転なで	外面:5Y8/1灰白 内面:5Y7/1灰白	密	
156	須恵器 横瓶		12.0	(25.8)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:10Y8/1灰白	1mm以下の石英を少量含む	体部外面:格子目たたき 体部内面:青海波
157	土師器 甕	22.0		(3.0)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR6/4にぶい橙 内面:7.5YR6/4にぶい橙	7mm以下の長石・石英を含む	
158	土師器 甕	26.0		(4.1)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:2.5Y7/3浅黄 内面:2.5Y7/3浅黄	4mm以下の長石・石英を含む	
159	土師器 甕			(7.2)	体部外面:なで,かき目 体部内面:なで	外面:7.5YR6/3にぶい褐 内面:7.5YR6/3にぶい褐	3mm以下の長石・石英を含む	
160	土師器 竈			(6.7)	外面:なで,刷毛目 内面:なで	外面:5YR8/4淡橙 内面:7.5YR8/2灰白	4mm以下の長石・石英を含む	
161	土師器 竈	(幅) 7.4		(15.5)	外面:刷毛目 内面:なで	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内面:7.5YR6/3にぶい橙	2mm以下の長石・石英・角閃石・雲母を含	

第13表　SD10出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
162	須恵器 杯身			(2.3)	体部外面上面:回転なで 体部外面下面:回転篦削り 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	堅緻
163	須恵器 円面硯	9.0		(1.5)	外面:なで 内面:なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
164	須恵器 高杯			(3.9)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
165	須恵器 高杯		7.6	(5.2)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで,しぼり目	外面:2.5GY7/1明オリーブ灰 内面:N7/灰白		
166	土師器 杯	17.2		(2.0)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:5YR6/6橙 内面:5YR7/4にぶい橙	2mm以下の長石・石英・角閃石・雲母を含	

第14表　SD34出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
167	須恵器 杯身	10.4		3.5	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
168	須恵器 杯身		13.6	(2.4)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:7.5Y6/1灰 内面:7.5Y7/1灰	密	
169	土師器 杯	12.8		(4.0)	外面:なで, 内面:なで	外面:2.5Y8/2灰白 内面:2.5Y8/2灰白	2mm以下の長石・石英を含む	
170	土師器 甕	16.2		(2.1)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR8/4浅黄橙 内面:7.5YR8/3浅黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	
171	土師器 甕	15.4		(2.5)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:10YR4/1褐灰 内面:10YR4/1褐灰	2mm以下の長石・石英を含む	
172	土師器 把手	(外径) 縦8.0×横0.5	(孔径) 0.5		外面:なで 内面:なで	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	

第15表　SB06出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
173	須恵器 杯身	12.8		3.8	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
174	土師器 甕			(5.5)	体部外面:なで, 刷毛目 体部内面:なで, 粗い刷毛目	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	3mm以下の長石・石英を含む	
175	土師器			(8.0)	体部外面:粗い刷毛目, 指頭圧痕 体部内面:粗い刷毛目	外面:2.5Y8/2灰白 内面:2.5Y8/2灰白	2mm以下の長石・石英を含む	体部外面:煤付着

第16表　SB07出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
176	土師器 杯	10.8		(2.3)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/4にぶい黄橙	1mm以下の長石を含む	
177	土師器 甕	17.2		(1.4)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:5YR6/8橙 内面:2.5YR5/8明赤褐	4mm以下の長石・石英を含む	
178	土師器 甕	20.0		(3.8)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR7/6橙 内面:7.5YR8/4浅黄橙	4mm以下の長石・石英を含む	
179	土師器 製塩土器	14.0		(3.0)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:2.5YR6/6橙 内面:2.5YR5/6明赤褐	1mm以下の長石・石英を含む	
180	須恵器 壷	18.0		(2.0)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	

第17表　SB09出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
181	土師器 杯	16.8		(2.0)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:7.5YR7/4にぶい橙 内面:7.5YR7/4にぶい橙	1mm以下の長石を含む	

第18表　南Ⅳ区SP01出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
182	須恵器 杯身	11.3		(3.5)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR7/3にぶい黄橙	密	
183	須恵器 杯身	10.8		(4.0)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/1灰白 内面:N7/1灰白	密	

第19表　南Ⅳ区SP28・34出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
184	須恵器 杯身	13.0		(3.3)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:7.5Y6/1灰白 内面:7.5Y6/1灰白	密	堅緻
185	須恵器 杯身	11.6		(1.6)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N6/灰	密	堅緻
186	須恵器 高杯		11.6	(1.7)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	

第20表　南Ⅳ区ピット出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
187	須恵器 杯身		6.0	(0.8)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	SP18
188	須恵器 杯身	11.0		(1.8)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	SP80
189	須恵器 杯身	13.6		(3.7)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N6/灰	密	堅緻, SP75
190	須恵器 杯身		8.4	(1.3)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	SP105
191	須恵器 杯蓋		18.0	(1.3)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	SP83
192	土師器 壷	9.4		(2.9)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	SP81
193	土師器 甕	19.6		(4.2)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:2.5YR7/4淡赤橙 内面:5YR8/3淡橙	2mm以下の長石・石英を含む	SP18

第21表　南Ⅲ区ピット出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
194	須恵器 杯身	10.0		(1.4)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N6/灰	密	堅緻SP20
195	須恵器 杯身		4.8	(1.4)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:7.5Y6/2灰オリーブ 内面:7.5Y7/1灰白	密	堅緻, SP45 外面:自然釉
196	土師器 甕	16.0		(4.8)	口縁部外面:なで, 刷毛目 体部内面:なで, 刷毛目	外面:5YR5/8明赤褐 内面:5YR5/2灰褐	5mm以下の長石・石英・角閃石・雲母を含	SP08
197	土師器 甕	23.2		(3.0)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR7/2にぶい黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	口縁部外面:煤付着 SP08
198	土師器 把手	(長さ) 6.0	(太さ) 2.5	(5.5)	外面下面:なで 内面:なで	外面:7.5YR8/2灰白 内面:7.5YR7/6橙	2mm以下の長石・石英を含む	SP11

第22表　SK06出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
199	須恵器 高杯		10.4	(0.9)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:5N7/1灰白 内面:5N7/1灰白	密	脚部外面:自然釉

第23表　SK11出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
200	土師器 甕	21.2		(11.5)	体部外面:刷毛目 口縁部内面:刷毛目 体部内面:指頭圧痕	外面:5YR7/4にぶい橙 内面:5YR7/6橙	2mm以下の長石・石英を含む	

第24表　SX05出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
201	土師器 甕	26.0		(6.6)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR5/8明褐 内面:7.5YR5/8明褐	5mm以下の長石・石英を含む	
202	土錘	(外径) 縦6.5×横3.3	(孔径) 1×0.9	(厚さ) 3.6	外面:なで, 指頭圧痕	外面:10YR6/4にぶい黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	

第25表　SX09出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
203	弥生土器 底部		9.5	(3.9)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:10Y8/灰白 内面:10Y8/灰白	4mm以下の長石・石英を含む	
204	土師器 口縁部	30.0		(2.9)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:5YR5/8明赤褐 内面:5YR5/8明赤褐	3mm以下の長石・石英を含む	

第26表　SX10出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
205	須恵器 杯身		11.4	(13.6)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR6/4にぶい黄橙	密	
206	須恵器 高杯			(6.2)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで, しぼり目	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
207	土師器 甕	19.4		(3.2)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:2.5YR7/4淡赤橙 内面:7.5YR8/3浅黄橙	6mm以下の長石・石英を含む	
208	土師器 甕	15.6		(2.2)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:10YR5/2灰黄橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	3mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
209	土師器 甕			(9.3)	体部外面:刷毛目 体部内面:なで, 指頭圧痕	外面:10R5/6赤 内面:10YR7/2にぶい黄橙	5mm以下の長石・石英・雲母を含む	

第27表　SX11出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
210	須恵器 杯蓋	17.4		(1.3)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
211	須恵器 杯身	10.0		(3.5)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
212	須恵器 杯身	13.4		(4.3)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N8/灰白	密	
213	須恵器 杯身			(2.8)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:7.5YR8/3浅黄橙 内面:7.5YR8/4浅黄橙	1mm以下の長石・角閃石を含む	
214	土師器 杯	20.0		(4.7)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで	外面:7.5YR8/2灰白 内面:2.5YR7/4淡赤橙	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
215	土師器 杯	18.4		(7.2)	体部外面:横なで 体部内面:横なで	外面:5YR8/4淡橙 内面:5YR8/2灰白	1mm以下の石英を含む	
216	土師器 甕	17.4		(8.2)	体部外面:横なで, 刷毛目 体部内面:横なで, 指頭圧痕	外面:2.5YR7/6橙 内面:7.5YR6/1褐灰	2mm以下の長石・石英・角閃石を含む	
217	須恵器 甕	22.4		(2.8)	口縁部外面:たたき 口縁部内面:刷毛目	外面:2.5Y8/2灰白 内面:2.5Y8/1灰白		
218	土師器 蛸壺			(5.0)	外面:指頭圧痕 内面:指頭圧痕	外面:7.5YR7/2明褐灰 内面:5YR6/3にぶい橙	2mm以下の長石・石英を含む	
219	弥生土器 蓋	3.5		(2.6)	外面:なで, 指頭圧痕	外面:7.5YR7/6橙 内面:7.5Y8/3浅黄橙	1mm以下の長石を含む	
220	弥生土器 高杯	22.8		(4.0)	杯部外面:横なで 杯部内面:横なで	外面:5YR6/6橙 内面:5YR5/6明赤褐	2mm以下の長石・石英を含む	
221	弥生土器 高杯	24.0		(3.8)	杯部外面:横なで 杯部内面:横なで	外面:5YR6/6橙 内面:5YR6/6橙	2mm以下の長石・石英を含む	
222	弥生土器 高杯			(4.0)	杯部外面:箆削り 杯部内面:横なで, 箆磨き	外面:7.6Y6/4にぶい橙 内面:7.5Y6/4にぶい橙	1mm以下の長石・石英を含む	
223	弥生土器 底部		9.5	(5.4)		外面:7.5YR6/8橙 内面:7.5Y6/4にぶい橙	2mm以下の長石・石英を含む	
224	弥生土器 甕			(4.2)	体部外面:刷毛目 体部内面:指頭圧痕	外面:7.5YR6/4にぶい橙 内面:7.5YR6/4にぶい橙	1mm以下の長石・石英を含む	
225	弥生土器 甕	15.0		(7.3)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで 体部外面:刷毛目	外面:10YR5/3にぶい黄褐 外面:7.5Y7/2明褐灰	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
226	弥生土器 鉢			(4.8)	体部外面:横なで, 箆磨き 体部内面:横なで	外面:7.5YR5/2灰褐 内面:7.5YR6/4にぶい橙	1mm以下の長石を含む	

第28表　南Ⅲ区黒色粘質土包含層出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
227	須恵器 杯蓋			(2.0)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
228	須恵器 杯蓋			(2.9)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N6/灰	密	堅緻
229	須恵器 杯蓋	13.6		(1.0)	外面:なで 内面:なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
230	須恵器 杯蓋	14.4		(0.7)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:7.5Y6/1灰 内面:7.5Y6/1灰	密	堅緻
231	須恵器 杯蓋	14.0		(2.4)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:10Y5/1灰	密	堅緻

第28表　南Ⅲ区黒色粘質土包含層出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
232	須恵器 杯蓋	19.0		(1.4)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N5/灰	密	堅緻
233	須恵器 杯蓋	20.8		(1.5)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
234	須恵器 杯蓋	20.0		(1.6)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
235	須恵器 杯身		9.5	3.4	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N6/灰白 内面:N6/灰白	密	堅緻
236	須恵器 杯身		8.6	(1.4)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N7/灰白	密	堅緻
237	須恵器 杯身		5.2	(1.2)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
238	須恵器 杯身		8.8	(1.9)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N5/灰	密	堅緻
239	須恵器 杯身		10.6	(1.5)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:7.5Y8/1灰白 内面:7.5Y8/1灰白	密	
240	須恵器 杯身		10.0	(1.8)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
241	須恵器 杯身		10.4	(1.4)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:7.5Y7/1灰白 内面:7.5Y8/1灰白	密	
242	須恵器 杯身	15.0	11.0	4.4	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
243	須恵器 高杯			(3.7)	口縁部外面:回転篦削り 口縁部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
244	須恵器 高杯		7.4	(4.2)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	内面:自然釉
245	須恵器 高坏		9.6	(7.2)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N7/灰白	密	
246	須恵器 平瓶			(13.0)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
247	須恵器 壷			(3.7)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
248	須恵器 長頸壷	6.6		(4.4)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N7/灰白	密	堅緻
249	須恵器 長頸壷	10.3		(10.5)	外面:回転なで 内面:回転なで,しぼり目	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	堅緻
250	須恵器 長頸壷			(5.2)	頸部外面:回転なで 頸部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N6/灰	密	
251	須恵器 長頸壷			(7.0)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	体部外面:刺突文
252	須恵器 台付長頸壷		12.0	(8.7)	胴部外面:削り後なで 胴部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
253	須恵器 鉢	25.5		(3.8)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
254	須恵器 甕	21.2		(1.8)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
255	須恵器 甕	21.4		(8.7)	体部外面:かき目 体部内面:たたき	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
256	弥生土器 甕			(4.5)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR7/3にぶい黄橙	3mm以下の長石・石英を含む	体部外面:刻目文
257	弥生土器 壷	34.0		(2.0)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:5YR6/4にぶい橙 内面:7.5YR6/2灰褐	5mm以下の長石・石英を含む	

第29表　SB02出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
258	瓦器 皿	11.0		2.0	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N6/灰	密	
259	須恵器 杯身	18.0		(2.9)	体部外面:回転なで,篦磨き 体部内面:回転なで,篦磨き	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
260	瓦器 椀	17.0		(3.0)	体部外面:なで,篦磨き 体部内面:なで,篦磨き	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	1mm以下の砂粒を含む	
261	土師器 椀		5.0	(1.2)	外面:なで 内面:なで	外面:10YR7/3にぶい黄橙 内面:10YR6/3にぶい黄橙	1mm以下の長石を含む	黒色土器 A類？

第30表　SK16出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
262	須恵器 杯蓋	14.0		(2.2)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:2.5GY7/1明オリーブ灰 内面:N8/灰白	密	
263	須恵器 甕			(9.3)	頸部外面:回転なで 頸部内面:回転なで 体部内面:当て痕	外面:5BG4/1明青灰 内面:10BG5/1青灰	密	頸部外面:波状文8条 堅緻
264	須恵器 甕	38.2		(8.3)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N4/灰 内面:N6/灰	密	口縁部外面:刻目文 波状文8条2列/堅緻
265	須恵器 甕	44.4		(9.8)	口縁部外面:回転なで 口縁部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:7.5Y6/1灰	密	口縁部外面:刻目文 波状文8条2列/堅緻
266	土師器 杯	10.0		(2.5)	外面:なで 内面:なで	外面:5YR7/6橙 内面:5YR7/6橙	2mm以下の長石・石英を含む	
267	土師器 杯		6.0	(1.1)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:7.5YR7/6橙 内面:2.5Y8/2灰白	2mm以下の長石・石英を含む	
268	土師器 杯		8.0	(1.0)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内面:7.5YR7/3にぶい橙	2mm以下の長石・石英を含む	
269	土師器 壷			(5.6)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:10YR6/4にぶい黄橙 内面:10YR7/3にぶい黄橙	1mm以下の長石・角閃石を含む	

第31表　SX04出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
270	須恵器 杯身		5.0	(2.3)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで 底部外面:篦削り	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	

第31表　SX04出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
271	瓦器 椀	15.7		(4.7)	体部外面:横なで，指頭圧痕 体部内面:横なで，篦磨き，暗文	外面:N8/灰白 内面:N7/灰白	密	
272	瓦器 皿	8.6		1.4	体部外面:横なで， 体部内面:横なで，篦磨き，暗文	外面:N5/灰 内面:N5/灰	密	
273	瓦器 皿	9.8		1.9	体部外面:横なで， 体部内面:横なで，篦磨き，暗文	外面:N5/灰 内面:N5/灰	密	

第32表　北Ⅲ区水田出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
274	須恵器 高坏	11.2		(3.7)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
275	須恵器 杯身	12.0		(3.3)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N7/灰白	密	堅緻
276	須恵器 杯身	14.6		(2.3)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
277	土師器 椀		4.0	(1.7)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:7.5YR8/1灰白 内面:N8/灰白	1mm以下の長石・石英を含む	
278	須恵器 杯身		11.2	(1.3)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
279	須恵器 甕	23.8		(7.6)	体部外面:なで，たたき 体部内面:なで，当て痕	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	
280	弥生土器 鉢		3.4	(2.7)	底部外面:篦削り，指頭圧痕 底部内面:なで	外面:5YR7/4にぶい橙 内面:5YR8/3淡橙	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	外面:しみ痕あり
281	土師器 甕	15.4		(3.5)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで	外面:7.5Y8/1灰白 内面:10YR8/2灰白	2mm以下の長石・石英を含む	
282	弥生土器 壷	15.8		(1.0)	口縁部外面:凹線2条 口縁部内面:なで	外面:7.5YR6/4にぶい橙 内面:5YR5/6赤褐	2mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
283	弥生土器 鉢		4.6	(4.2)	底部外面:指頭圧痕 底部内面:刷毛目	外面:5YR8/4淡橙 内面:5YR7/4にぶい橙	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
284	弥生土器 高杯		20.4	(2.5)	脚部外面:横なで，凹線2条 脚部内面:横なで	外面:7.5YR5/3にぶい褐 内面:7.5YR5/2灰褐	1mm以下の長石・石英・角閃石・雲母を含	
285	弥生土器 高杯	44.4		(7.1)	口縁部外面:横なで	外面:7.5YR6/3にぶい褐 内面:7.5YR6/4にぶい橙	1mm以下の長石・石英・雲母を含む	
286	土師質土器 土錘	(外径) 縦8.0×横0.5	(孔径) 0.5		外面:なで	外面:2.5YR8/3淡黄 内面:2.5YR8/3淡黄	1mm以下の長石・石英・角閃石・雲母を含	両端に1ヶ所ずつ穿孔

第33表　SD45出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
287	須恵器 杯蓋	10.4		(2.8)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N8/灰白	密	
288	須恵器 杯蓋	17.4		(8.5)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N7/灰	密	
289	須恵器 杯身		8.0	(1.3)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:5Y7/1灰白 内面:5Y7/1灰白	密	
290	須恵器 壷		8.0	(4.4)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
291	白磁 碗		2.8	(1.2)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:5GY8/1灰白	精良	
292	陶器 鉢		9.2	(4.6)	外面:なで 内面:なで，かき目，こげ茶釉薬斜	外面:5YR5/3赤褐 内面:10YR3/2黒褐	密	唐津産

第34表　SK01出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
293	染付 盃	7.0		(3.7)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:5Y8/1灰白 釉:5Y8/1灰白	精良	
294	染付 碗蓋	9.1	4.2	3.1	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:7.5Y8/1灰白 釉:2.5GY8/1灰白	精良	口縁部内面:2条圏線その間に斜格子文
295	染付 碗	11.0		(4.5)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:2.5Y8/1灰白 釉:10Y8/1灰白	精良	外面:呉須で濃淡青色で絵付け
296	染付 碗		3.4	(4.6)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:10Y8/1灰白	精良	外面:二重編目文様
297	染付 碗	9.8	4.1	5.4	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:5Y8/1灰白 釉:7.5Y7/1灰白	精良	外面:二重編目文様
298	染付 碗	10.4	4.2	4.6	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:7.5Y7/1灰白 釉:10Y8/1灰白	精良	
299	染付 碗	10.2	3.6	5.0	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:5GY8/1灰白	精良	呉須
300	染付 碗	10.8	4.4	4.7	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:10Y8/1灰白	精良	内面:蛇の目釉はぎ 呉須発色(良)濃淡青2色
301	染付 碗		4.0	(1.8)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:5GY8/1灰白	精良	
302	染付 碗	10.6	4.0	4.7	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:7.5Y8/1灰白	精良	内面:蛇/目状の釉切れ砂が付 重焼痕呉須の発色は青色淡青
303	染付 碗		5.0	(3.0)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:5GY8/1灰白	精良	呉須絵付 外面:2条圏線
304	染付 碗	12.6	4.8	3.8	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:10YR8/1灰白 釉:7.5GY8/1明緑灰	精良	呉須の染付
305	染付 碗		4.2	(3.9)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:5GY8/1灰白	精良	呉須の染付
306	肥前系 染付碗		4.0	(4.5)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:7.5GY8/1灰白	精良	内面底部:圏線2条/呉須発色濃青色
307	肥前系 染付碗	11.0	4.2	5.8	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:5GY8/1灰白	精良	呉須　内三葉 唐草？
308	肥前系 染付碗	11.0	4.6	6.1	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:5Y8/1灰白 釉:7.5GY8/1明緑灰	精良	呉須の染付
309	陶器 碗	9.2	3.7	4.8	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:5Y8/1灰白 釉:5Y8/1灰白	密	
310	陶器 碗	12.2	4.8	4.8	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:5Y8/1灰白 釉:10Y4/2オリーブ灰	密	

第34表　SK01出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
311	天目碗		4.2	(4.4)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:2.5Y8/灰白 釉:5Y7/2灰白,7.5YR4/3褐	密	釉のかけ分け(茶，灰白)
312	美濃焼 碗	9.0	4.0	5.7	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:5Y8/1灰白 釉:7.5Y7/1灰白 10YR2/2黒褐	密	釉のかけ分け
313	青磁 碗		6.3	(5.9)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:N8/灰白 釉:2GY7/1明オリーブ灰	精良	外面:釉薬あり 内面:蛇の目釉(剥ぎあり)
314	白磁 紅皿	4.3	1.6	(1.5)	外面:施釉 内面:施釉	素地:N8/灰白 釉:N8/灰白	精良	外面:菊花文(形押し) 高台露胎
315	白磁 獣脚三足		4.6	(1.7)	外面:なで，施釉 内面:なで	素地:2.5Y7/1灰白 釉:5Y7/1灰白	精良	
316	志野焼 皿	14.0	8.4	3.5	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:7.5Y8/灰白 釉:5Y8/2灰白	密	
317	備前焼 擂鉢	29.7		(7.4)	口縁部外面:篦削り後横なで 口縁部内面:すり目	外面:5YR3/4明赤褐 内面:5YR4/3にぶい赤褐	密	
318	明石焼 擂鉢	32.0		(10.5)	口縁部外面:なで，篦削り 口縁部内面:なで，すり目	外面:10R4/6赤 内面:10R4/6赤	密	
319	唐津焼 鉢	32.2		(13.0)	体部外面:なで，施釉 体部内面:なで，施釉	素地:10YR6/4にぶい赤橙 釉:7.5YR5/2灰褐	密	
320	刷毛目唐津 鉢		10.5	(12.3)	体部外面:なで，施釉 体部内面:なで，施釉	外面:10YR6/1褐灰 内面:10YR6/1褐灰	密	
321	唐津焼 建水	11.0	11.6	6.1	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:10R4/8赤 内面:10R4/8赤	密	
322	瀬戸美濃 壷			(8.2)	口縁部外面:なで，施釉 口縁部内面:なで，施釉	素地:2.5Y8/1灰白 釉:5Y7/2灰白，7.5YR4/3褐	密	釉のかけ分け
323	土師器 茶釜	22.8		(5.5)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで，指頭圧痕	外面:2.5Y6/1黄灰 内面:7.5YR6/4にぶい橙	1mm以下の長石を含む	
324	土師器 底部		24.0	(6.4)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:7.5YR7/4にぶい橙 内面:7.5YR7/3にぶい橙	3mm以下の長石・石英・角閃石・雲母を含	
325	弥生土器 壷		5.8	(3.7)	底部外面:磨滅の為調整不明 底部内面:磨滅の為調整不明	外面:7.5YR5/3にぶい褐 内面:7.5YR5/3にぶい褐	4mm以下の長石・石英を含む	
326	陶器 底部		16.6	(4.2)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:5YR5/2灰褐 内面:7.5YR5/3にぶい褐	密	堅緻

第35表　SK03出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
328	須恵器 杯蓋			(1.4)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
329	須恵器 杯身	10.0		(2.8)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N8/灰白 内面:N8/灰白	密	
330	土師器 甕	11.0		(4.5)	口縁部外面:横なで 口縁部内面:横なで 体部外面:刷毛目	外面:5YR6/6橙 内面:5YR7/1明褐灰	1mm以下の長石・石英・を含む	
331	染付 湯飲碗			(4.3)	外面:なで 内面:なで	素地:2.5Y7/1灰白 釉:2.5Y7/1灰白	精良	体部外面:しま文様
332	染付 碗	7.0		(1.2)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:2.5Y8/1灰白 釉:7.5GY8/1明緑灰	精良	底部外面:圏線2条
333	土師質土器 釜脚部				外面:なで	外面:7.5YR5/4にぶい褐 内面:7.5YR5/4にぶい褐	2mm以下の長石・石英を含む	

第36表　SK13出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
334	弥生土器 高杯			(7.0)	脚部内面:しぼり目	外面:2.5YR5/4にぶい赤褐 内面:N6/灰	2mm以下の長石・石英を含む	脚部外面:
335	染付 湯飲碗	8.0		(4.9)	外面:なで，施釉 内面:なで，施釉	素地:7.5Y8/1灰白 釉:5GY8/1灰白	精良	
336	瓦質土器 火鉢	26.0		(6.5)	体部外面:なで 体部内面:なで	外面:2.5Y4/1黄灰 内面:2.5Y4/1黄灰	3mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
337	土師質土器 壷	29.4		(6.7)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR5/3にぶい褐 内面:7.5YR5/3にぶい褐	2mm以下の長石・角閃石を含む	

第37表　SD06出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
328	土師器 甕			(5.5)	体部外面:刷毛目 体部内面:指頭圧痕	外面:5YR7/3にぶい橙 内面:2.5Y6/2灰黄	4mm以下の長石・石英を含む	外面:黒斑
329	土師器 甕	16.8		(2.8)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:5YR5/4にぶい赤褐 内面:5YR5/4にぶい赤褐	4mm以下の長石・石英を含む	

第38表　SD07出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
340	須恵器 杯身		10.2	(1.2)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:7.5Y8/灰白 内面:N8/灰白	密	
341	須恵器 高杯		8.5	(2.3)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
342	須恵器 長頸壷			(8.1)	頸部外面:回転なで 頸部内面:回転なで	外面:5Y7/1灰白 内面:5Y7/1灰白	密	
343	須恵器 壷		6.0	(7.7)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
344	土師器 甕	10.4		(3.4)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:5YR5/4にぶい赤褐 内面:10YR5/3にぶい黄橙	6mm以下の長石・石英を含む	
345	土師器 甕	11.0		(3.3)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:2.5YR5/6明赤褐 内面:2.5Y5/1赤灰	3mm以下の長石・石英を含む	
346	土師器 甕	21.2		(3.9)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:2.5Y7/3浅黄 内面:2.5Y7/3浅黄	3mm以下の長石・石英を含む	
347	土師器 甕	21.6		(6.5)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで，指頭圧痕	外面:5YR6/4にぶい橙 内面:5YR6/4にぶい橙	7mm以下の長石・石英を含む	
348	土師器 ふいご羽口			(4.8)		外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	1mm以下の長石を含む	

第39表　SD08出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
349	須恵器 皿	13.4		3.5	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
350	須恵器 杯身		11.2	(2.0)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:10Y6/1灰 内面:10Y6/1灰	密	
351	弥生土器 底部		10.0	(3.9)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:10YR7/3にぶい黄橙 内面:10YR4/1褐灰	6mm以下の長石・石英を含む	
352	土師器 甕	44.6		(5.3)	口縁部外面:なで, 刷毛目 口縁部内面:なで	外面:5YR5/2灰褐 内面:10YR6/2灰黄褐	2mm以下の長石・石英・角閃石・雲母を含	
353	弥生土器 支脚			(4.2)		外面:2.5YR7/4淡赤橙 内面:7.5YR8/2灰白	2mm以下の長石・石英を含む	

第40表　SD23出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
354	須恵器 高杯		8.8	(6.6)	外面:回転なで 内面:回転なで, しぼり目	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	

第41表　SD39出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
355	弥生土器 甕	14.8		(2.2)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR5/2灰褐 内面:7.5YR5/2灰褐	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
356	弥生土器 壷	18.0		(2.0)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR6/4にぶい褐 内面:7.5YR6/3にぶい褐	1mm以下の長石・石英を含む	口縁端部:刻目文 口縁部外面:疑凹線
357	弥生土器 底部		6.5	(4.3)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:2.5YR6/6橙 内面:2.5YR6/6橙	3mm以下の長石・石英を含む	
358	土師器 土錘	(外径) 4×3.1		(高さ) 2.3	外面:なで, 指頭圧痕	外面:5YR7/6橙	2mm以下の長石・石英を含む	

第42表　SD41出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
359	弥生土器 底部		5.4	(1.5)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:2.5YR5/8明赤褐 内面:10R4/1褐灰	3mm以下の長石・石英を含む	
360	弥生土器 底部		7.7	(2.3)	底部外面:なで 底部内面:なで	外面:5YR6/4にぶい橙 内面:2.5Y7/1灰白	6mm以下の長石・石英を含む	
361	土師器 土錘	(外径)		(高さ)	外面:なで	外面:7.5YR8/2灰白	2mm以下の長石を含む	

第43表　南調査区遺構面出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
362	土馬			(5.4)	外面:なで	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	3mm以下の長石・石英を含む	

第44表　南Ⅲ区遺構面出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
363	須恵器 杯身		11.8	(1.8)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:10Y5/1灰 内面:10Y6/1灰	密	堅緻
364	須恵器 杯身			(2.8)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N6/灰	密	堅緻
365	須恵器 高杯			(5.0)	脚部外面:回転なで 脚部内面:回転なで, しぼり目	外面:N3/暗灰 内面:N7/灰白	密	
366	須恵器 壷	9.8		(5.0)	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで 底部外面:削り	外面:7.5Y7/1灰白 内面:7.5Y7/1灰白	密	

第45表　南Ⅳ区遺構面出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
367	須恵器 杯蓋			(2.5)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N5/灰	密	
368	須恵器 高杯	11.6		(4.4)	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	
369	須恵器 壷		6.8	(3.4)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N6/灰 内面:N5/灰	密	堅緻
370	須恵器 杯身		12.2	(1.3)	底部外面:回転なで 底部内面:回転なで	外面:N5/灰 内面:N5/灰	密	堅緻
371	須恵器 皿	19.4	15.6	2.8	体部外面:回転なで 体部内面:回転なで	外面:10Y6/1灰 内面:10Y6/1灰	密	堅緻
372	弥生土器 壷	19.0		(2.7)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:7.5YR7/4にぶい橙 内面:10YR8/2灰白	3mm以下の長石・石英を含む	
373	土師質土器 甕			(3.5)	口縁部外面:なで, 刷毛目 口縁部内面:なで, 刷毛目	外面:7.5YR8/4浅黄橙 内面:7.5YR8/3浅黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	
374	土師質土器 甕	37.4		(4.5)	口縁部外面:なで 口縁部内面:なで	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/2にぶい黄橙	2mm以下の長石・石英を含む	
375	滑石製紡錘車	(直径) 4.0		(高さ) 1.6	外面:なで	外面:7.5Y6/1灰 内面:7.5Y6/1灰		

第46表　南Ⅵ区遺構面出土土器観察表

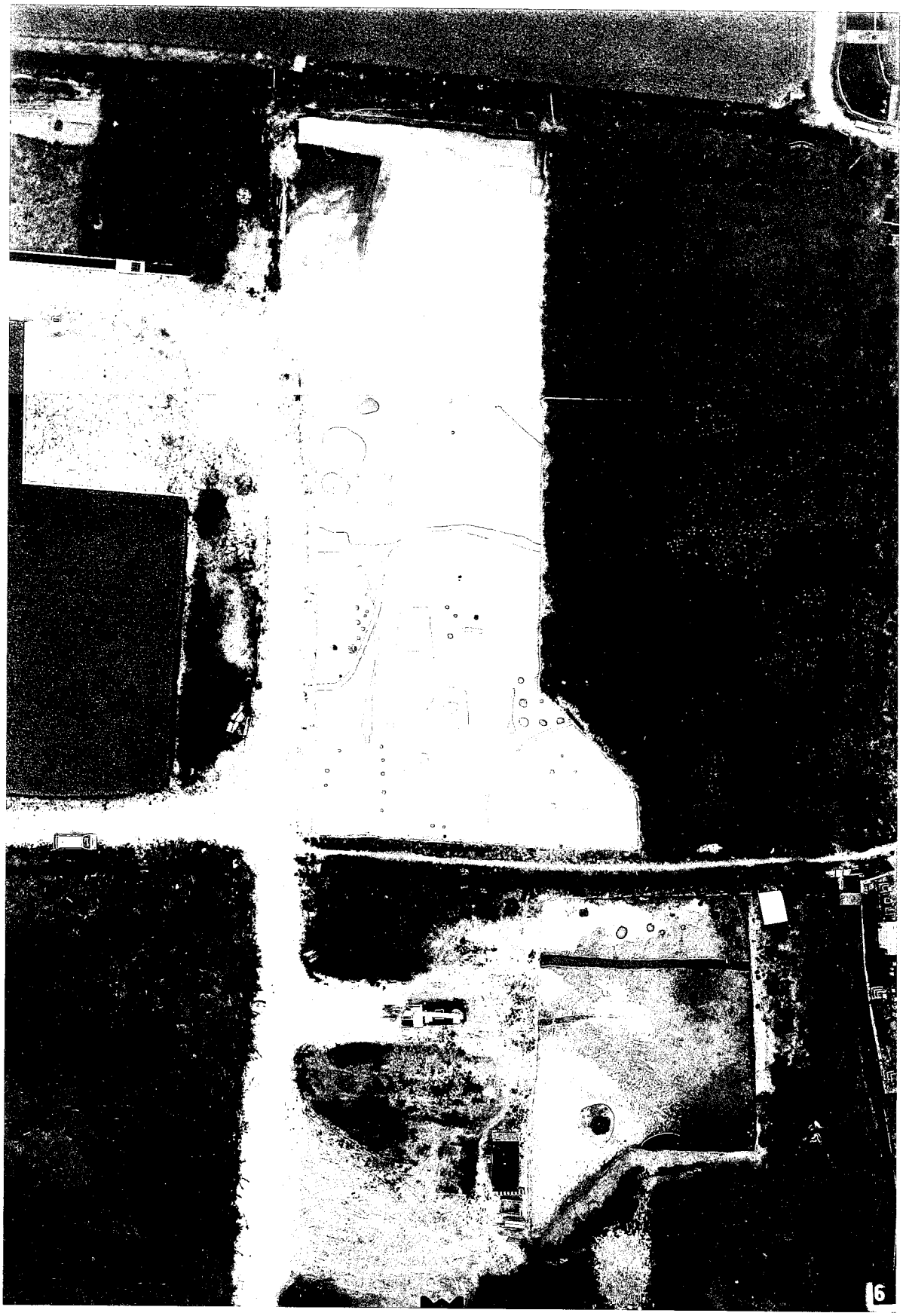
挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
376	土師器 椀		7.2	(4.9)	外面:なで 内面:なで	外面:5YR6/6橙 内面:5YR6/1褐灰	1mm以下の長石を含む	

第47表　南Ⅱ区遺構面出土土器観察表

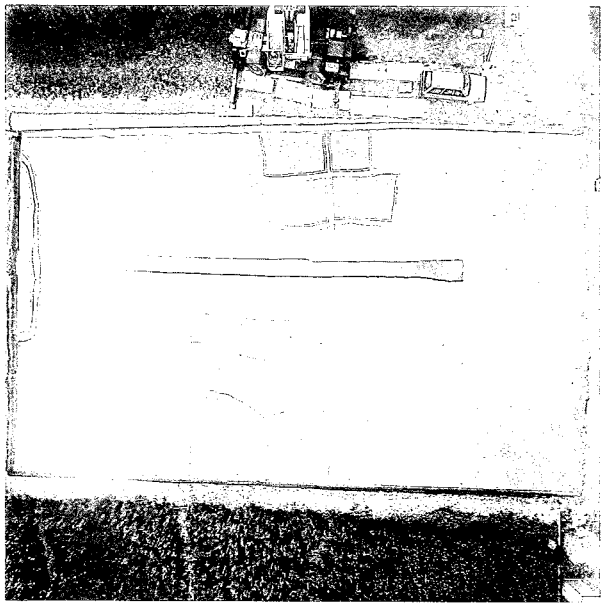
挿図番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
377	須恵器 杯身	9.8		3.6	外面:回転なで 内面:回転なで	外面:N7/灰白 内面:N7/灰白	密	

写 真 図 版

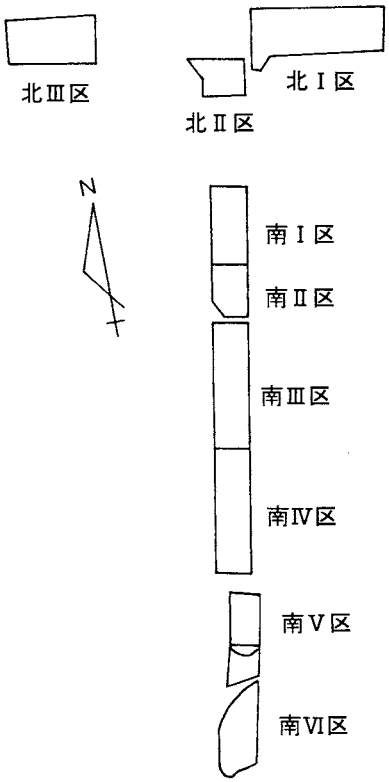
図版1

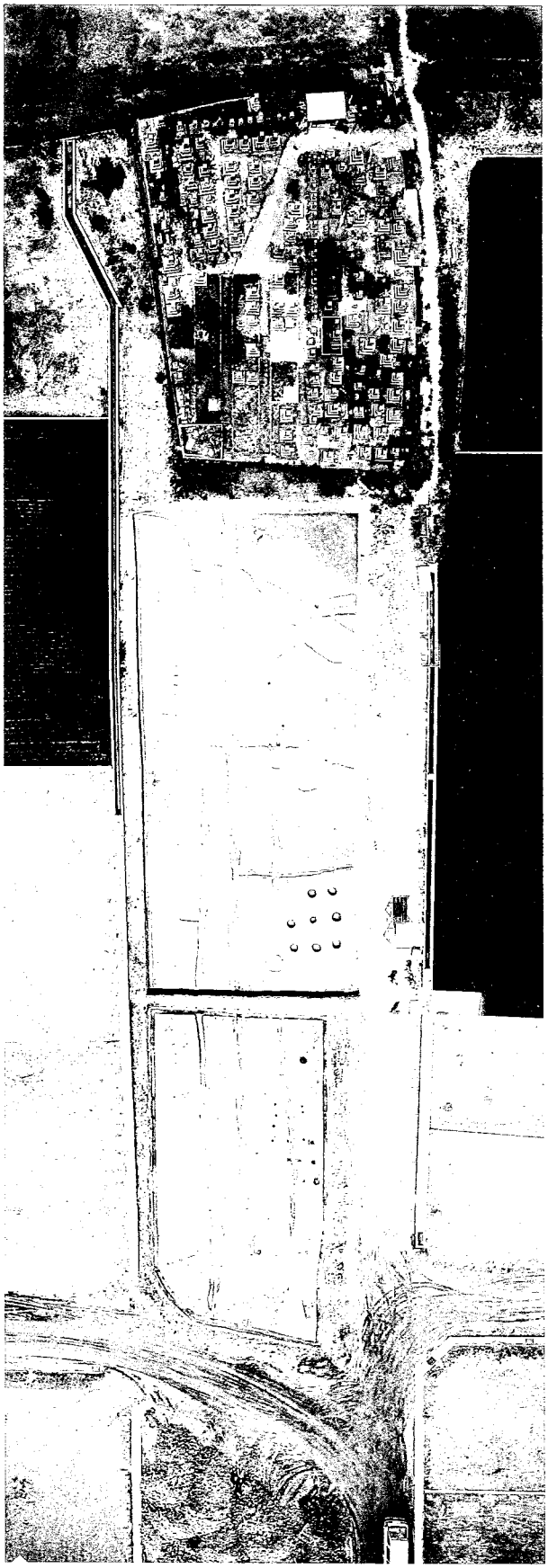


北Ⅰ・Ⅱ区空中写真（縮尺約1/500, 左が略北）



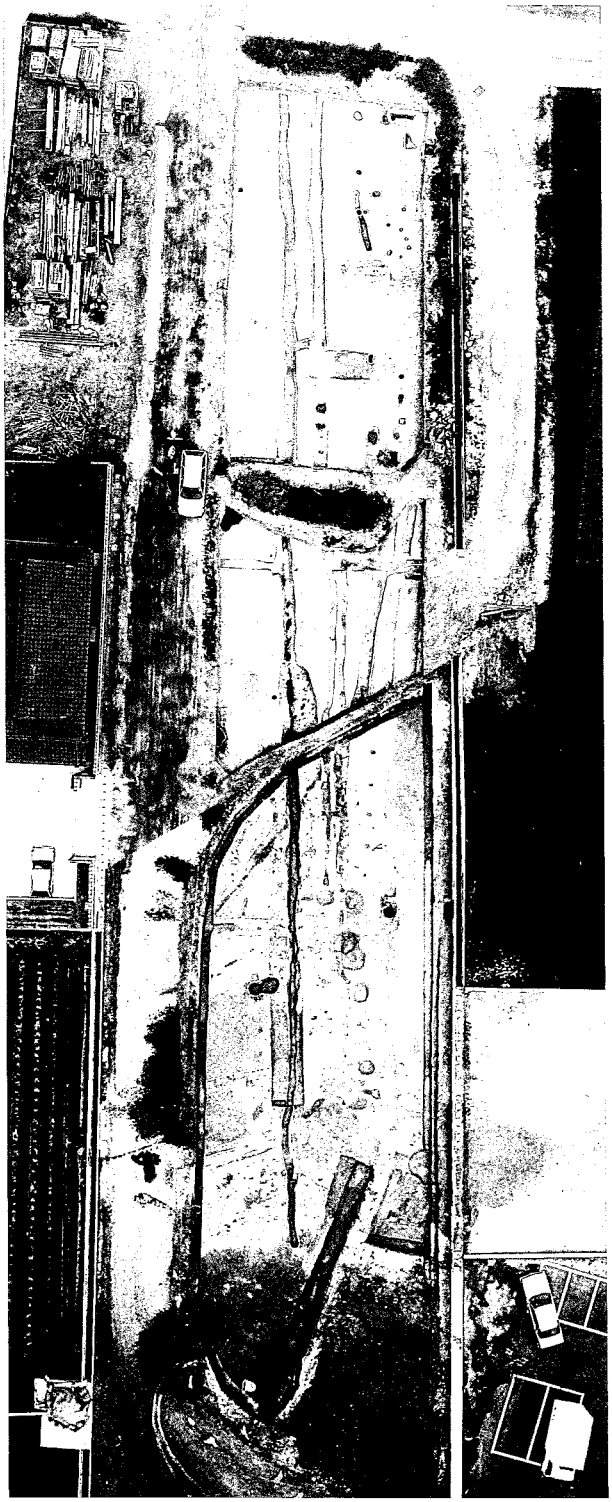
1　北Ⅲ区空中写真（縮尺約1/500, 上が略北）



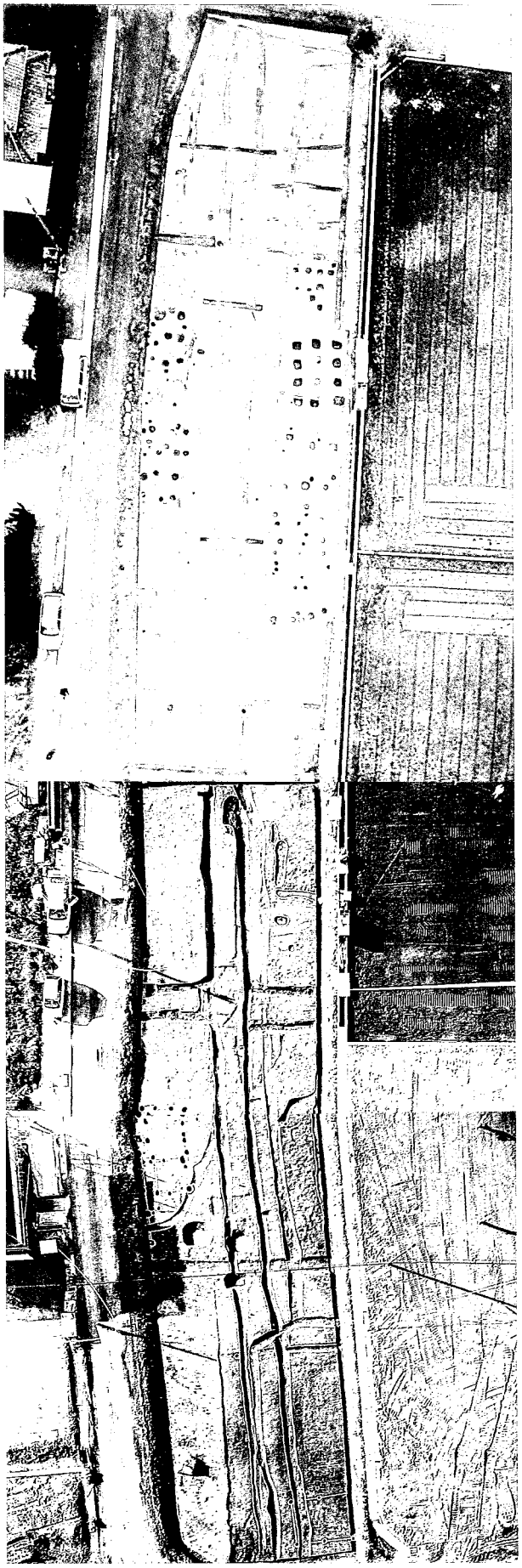


2　南Ⅰ・Ⅱ区空中写真（縮尺約1/500, 上が略北）

図版3

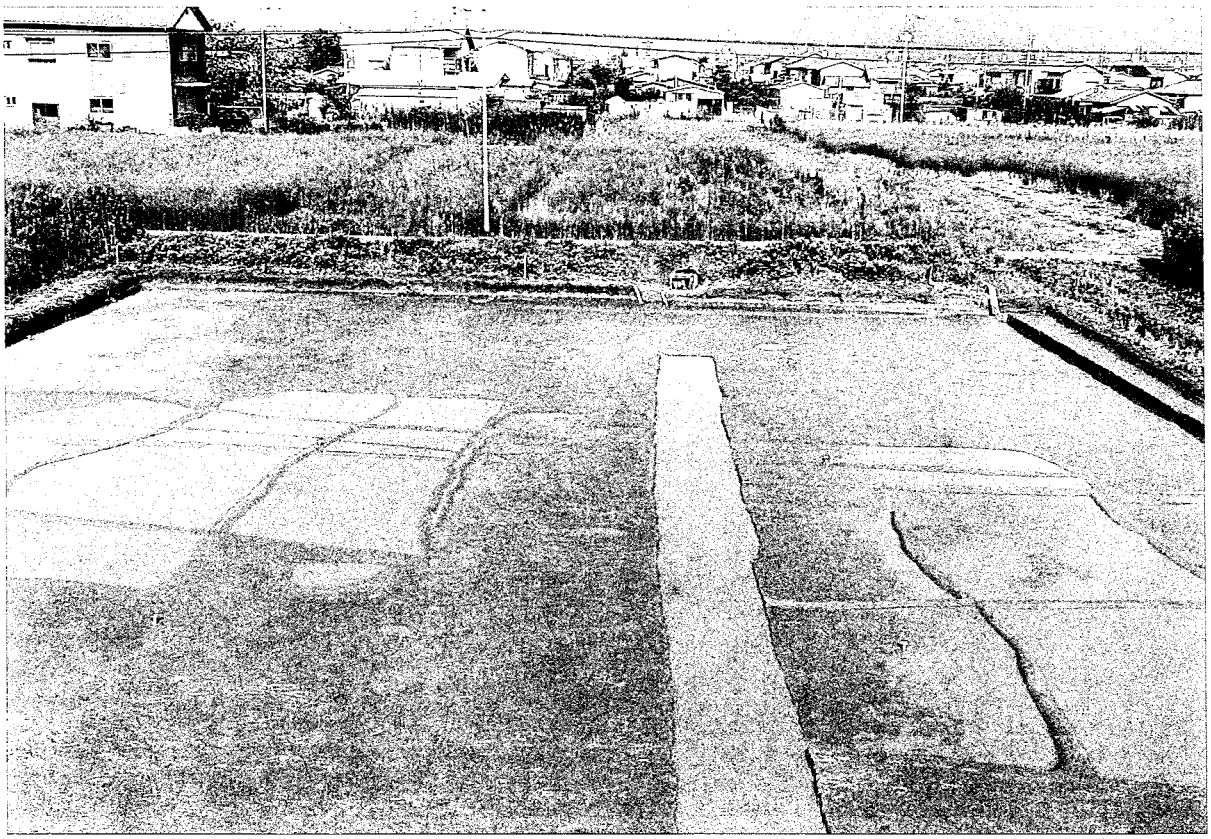


▲2　南Ⅴ・Ⅵ区空中写真（縮尺約 1/500, 上が略北）



◀1　南Ⅲ・Ⅳ区空中写真（縮尺約 1/500, 上が略北）

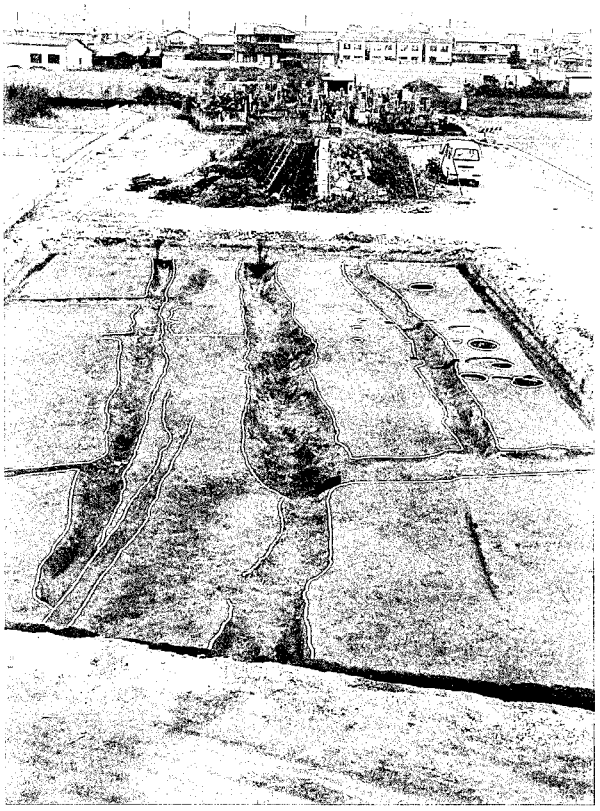
1　北Ⅰ区全景（西から）



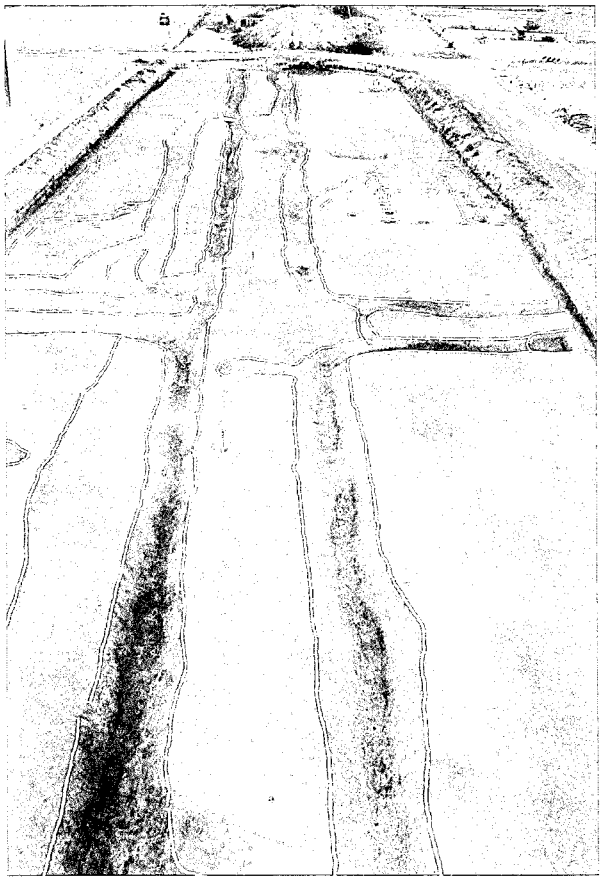
2　北Ⅲ区全景（東から）

図版5

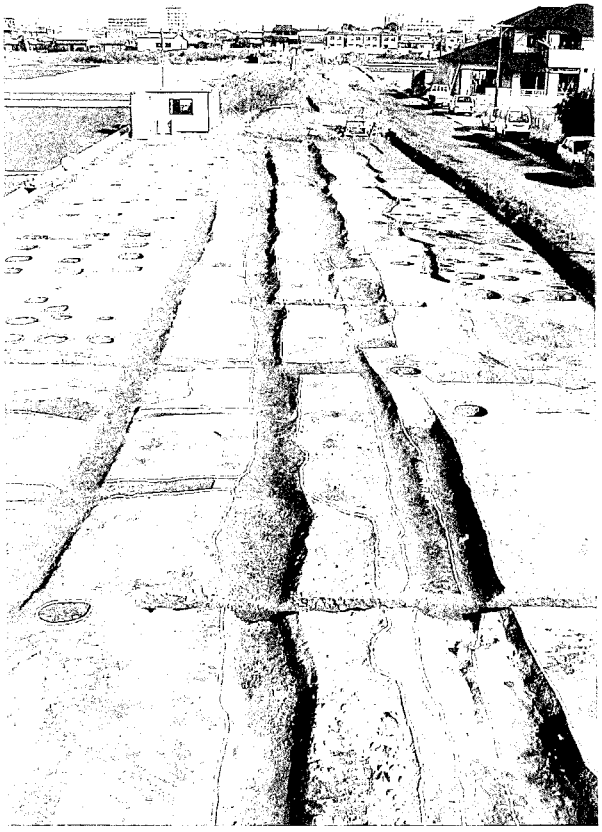
1　南Ⅰ区全景（南から）



2　南Ⅱ区全景（南から）

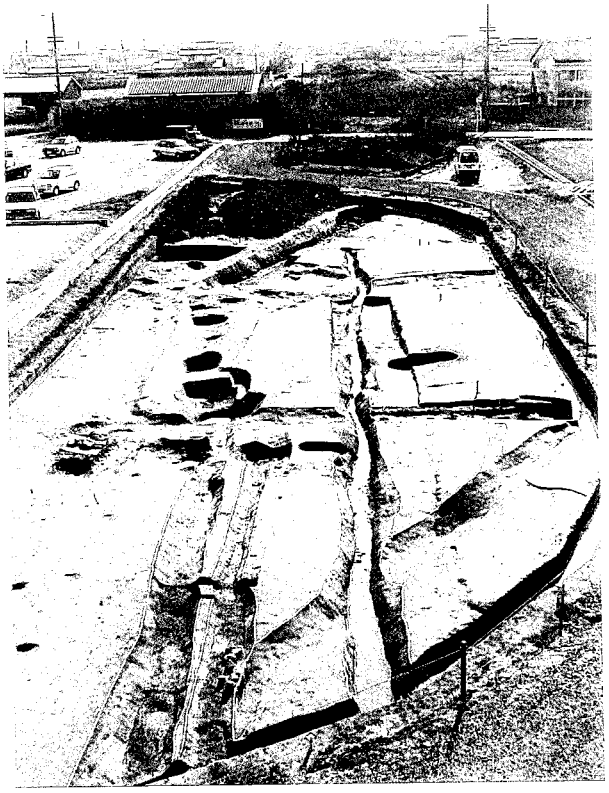


3　南Ⅲ区全景（南から）

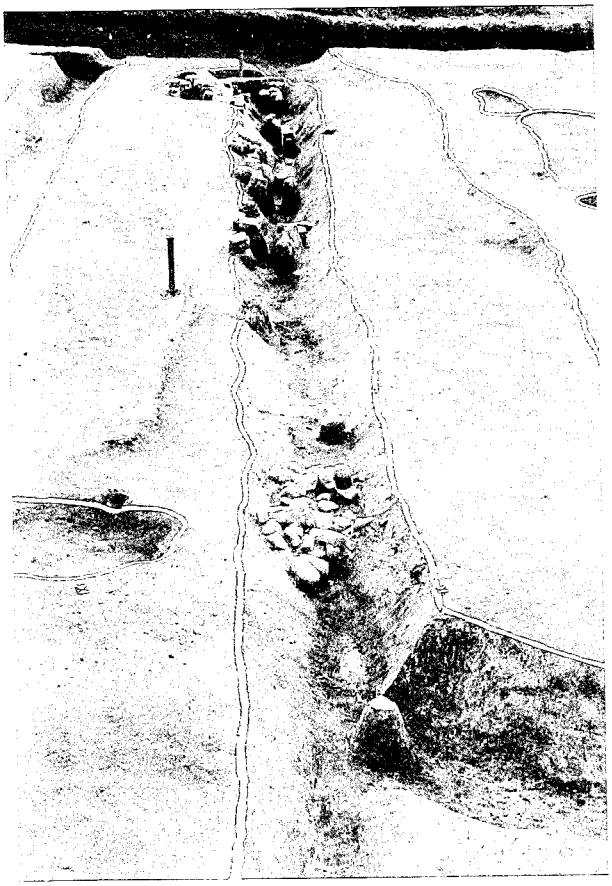


4　南Ⅳ区全景（南から）

1　南Ⅴ区全景（南から）



2　南Ⅵ区全景（北から）

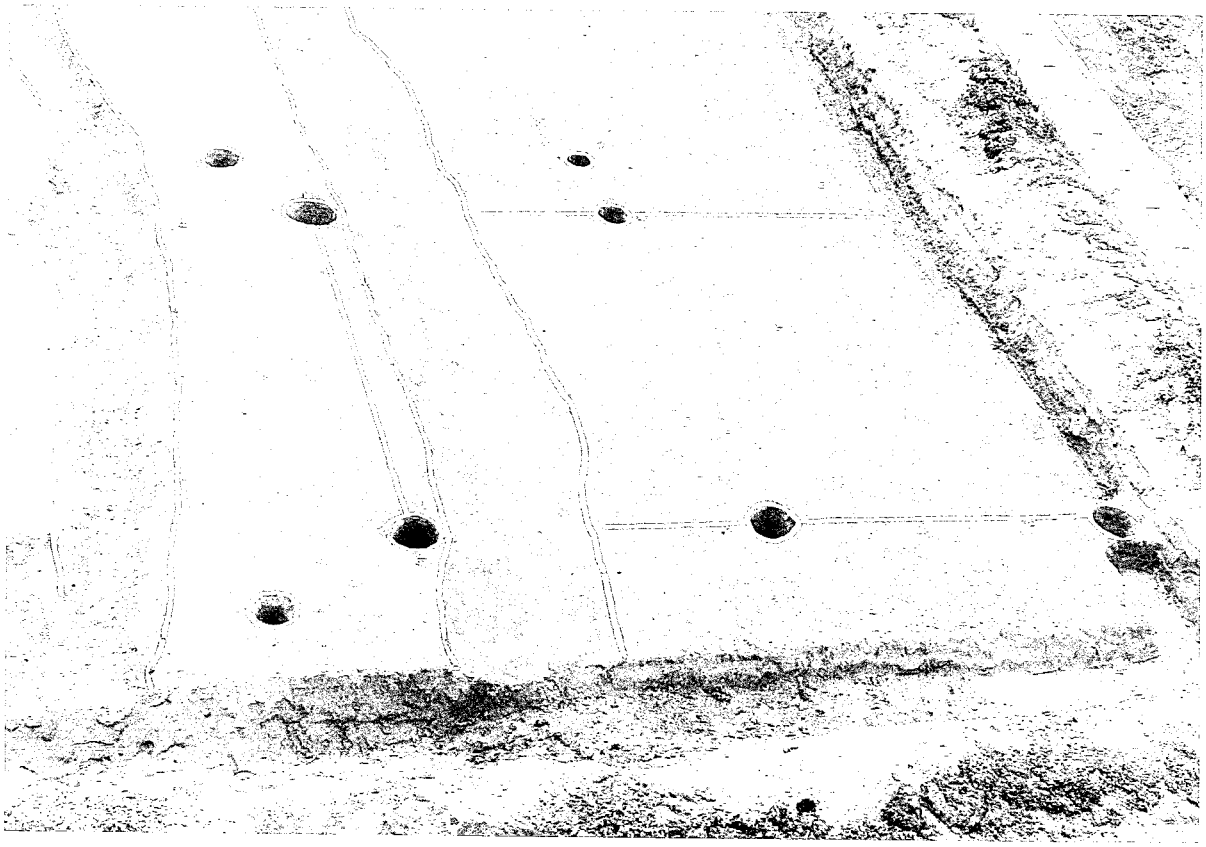


3　南Ⅲ区 SD03 礫群検出状況（北から）

4　南Ⅲ区 SD03 ～ 05・09・10 交差点全景（東から）

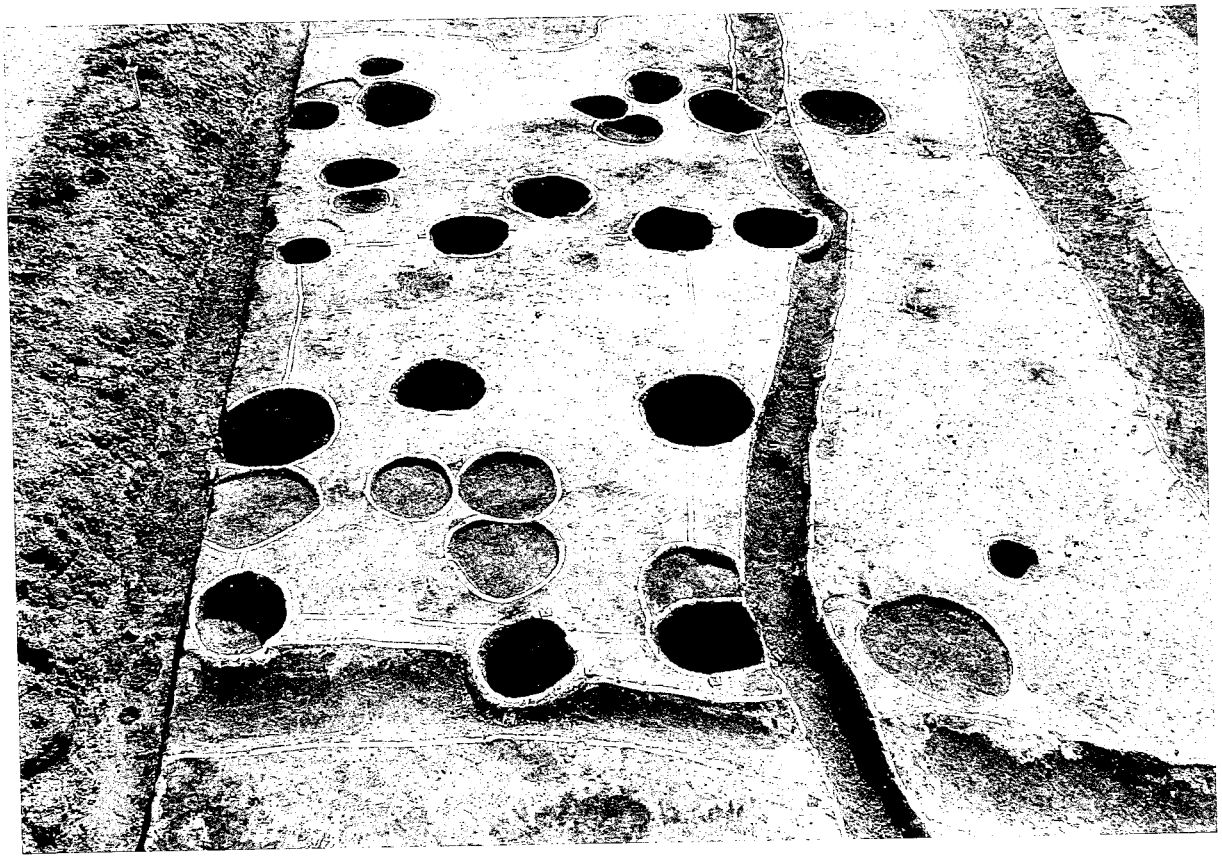
図版7

1　南Ⅰ区 SB01 全景（南から）



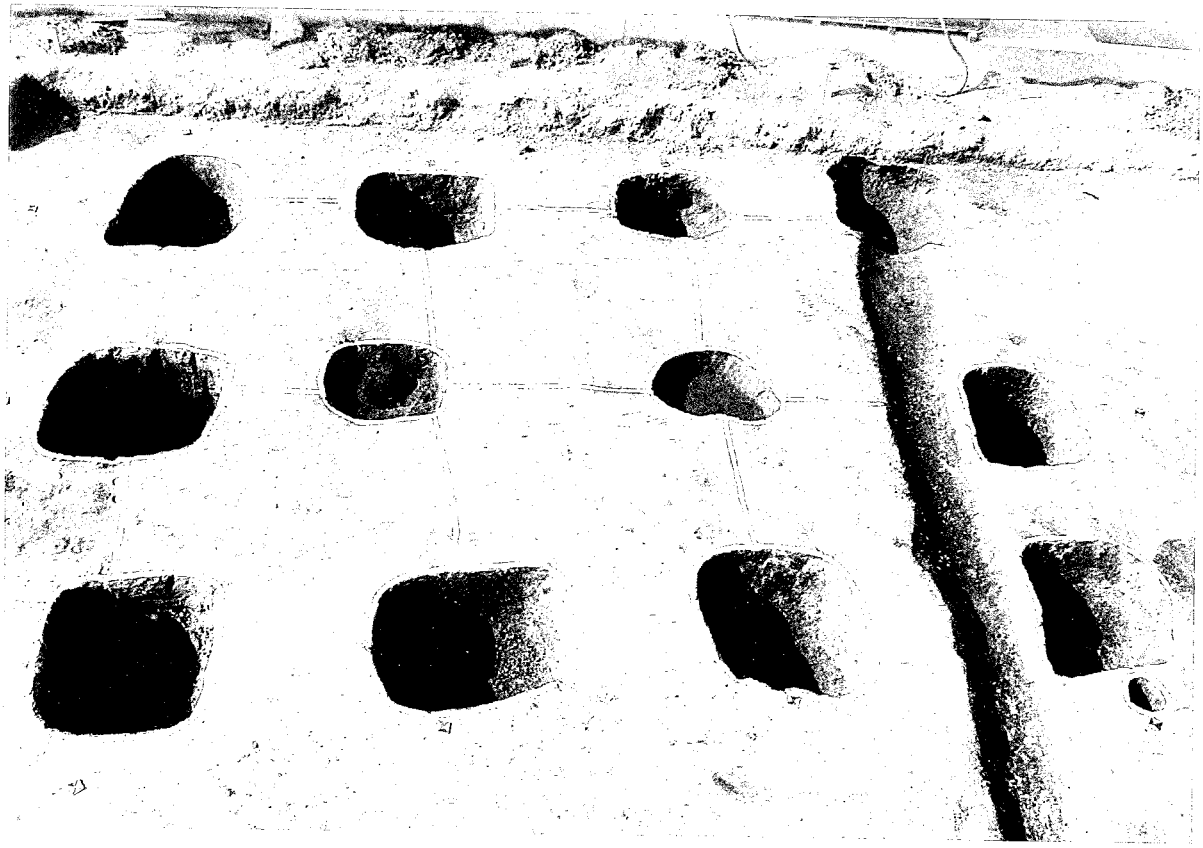
2　南Ⅲ区 SB02 全景（北から）

1　南Ⅲ区 SB03・04 全景（北から）

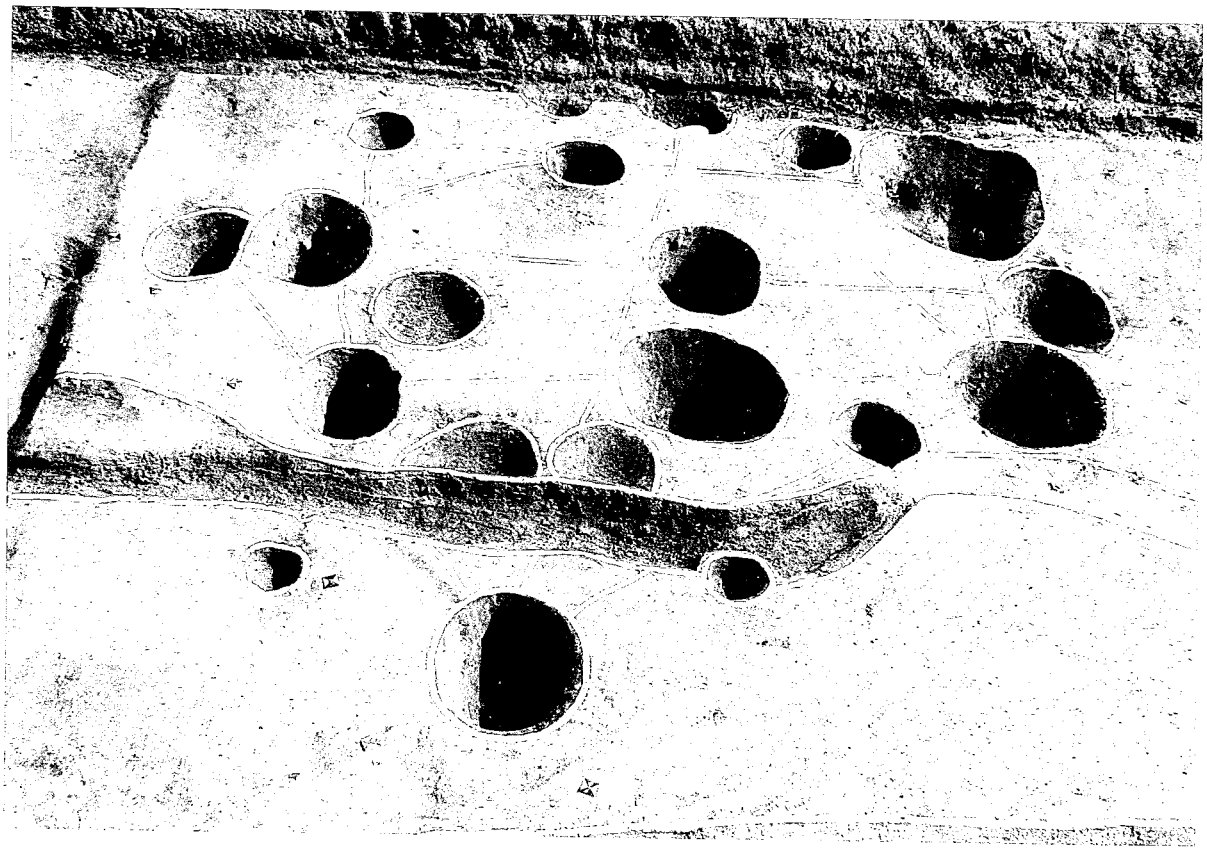


2　南Ⅳ区 SB06 全景（北から）

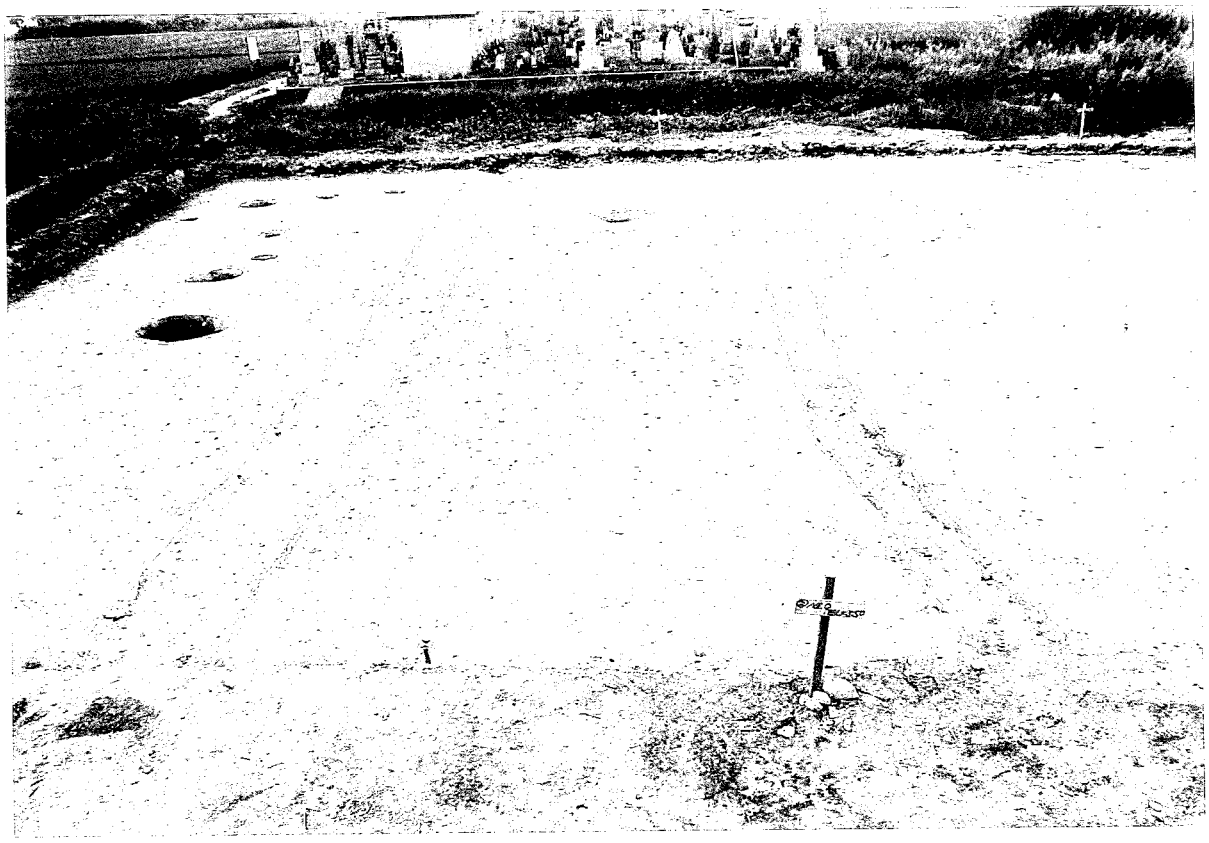
図版9



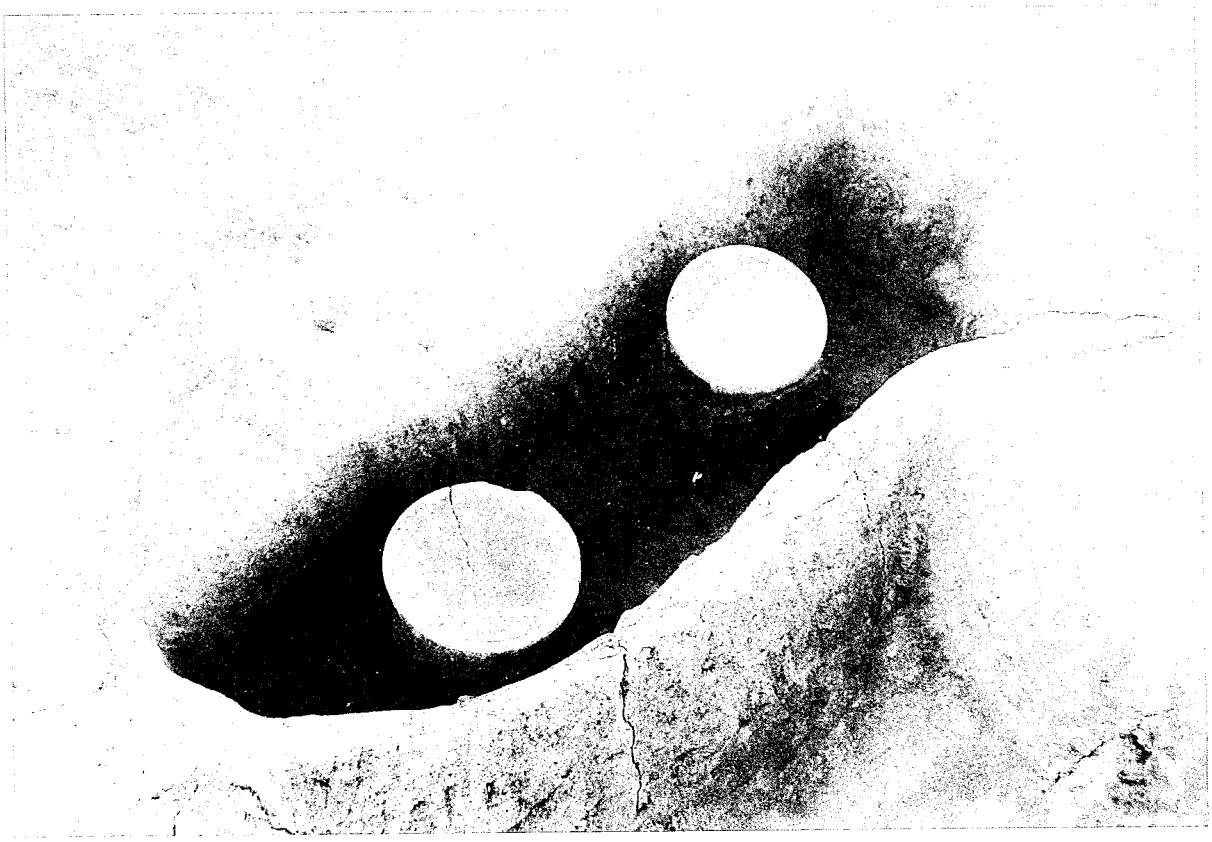
1　南Ⅳ区 SB07 全景（東から）



2　南Ⅳ区 SB08・09 全景（西から）

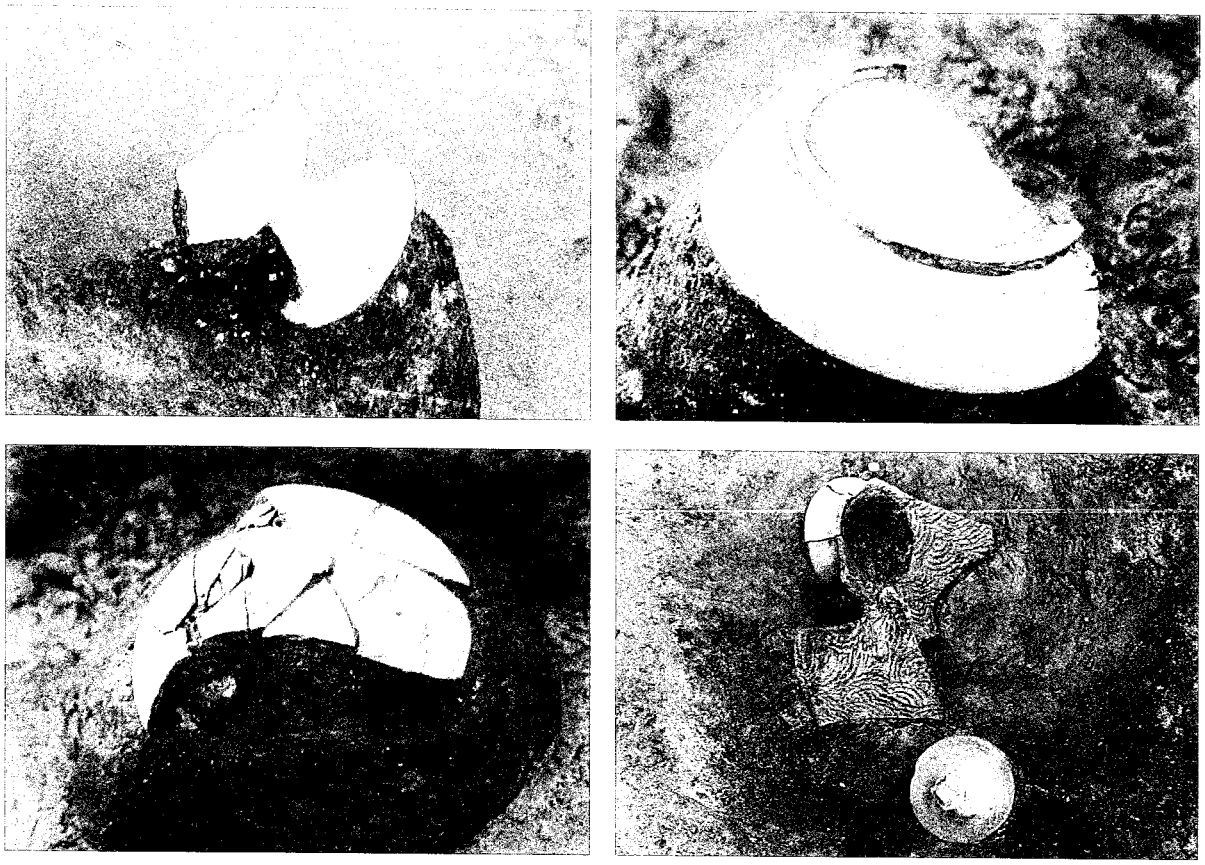


1　北Ⅱ区 SB49・50 全景（北から）

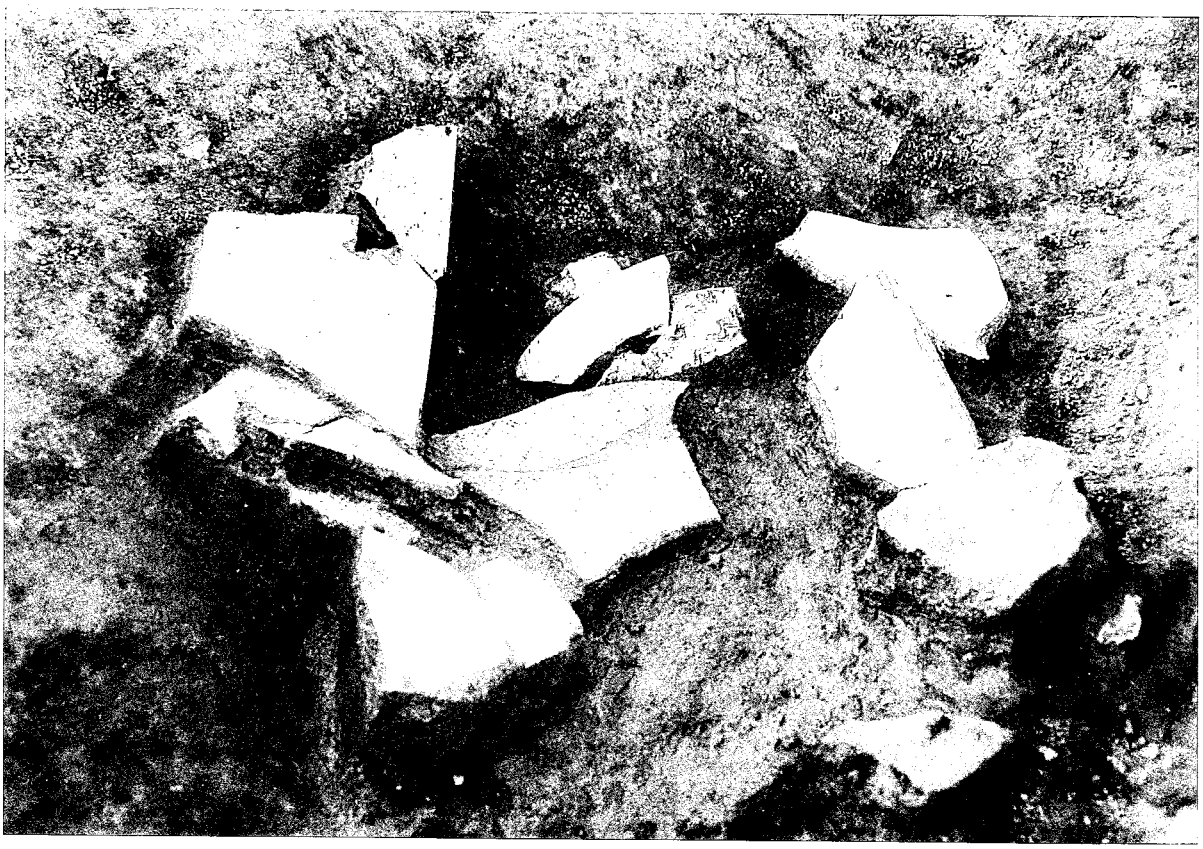


2　南Ⅳ区 SP01 遺物出土状況（東から）

図版 11



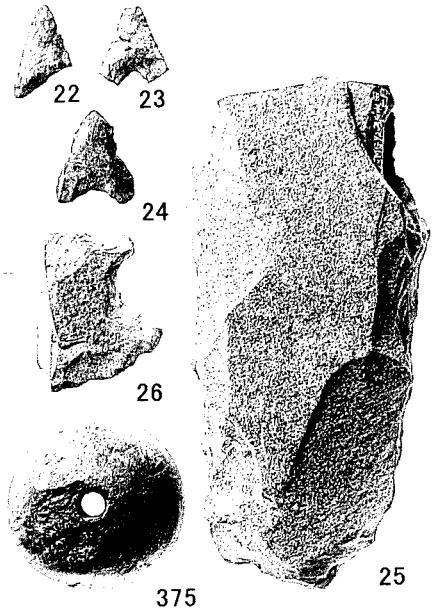
1　南Ⅱ～Ⅲ区 SD03 遺物出土状況



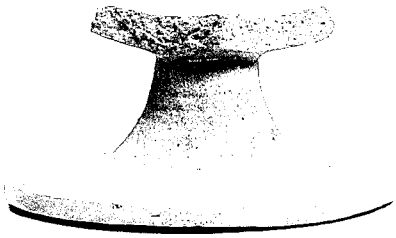
2　南Ⅲ区 SD03 遺物出土状況

4

75

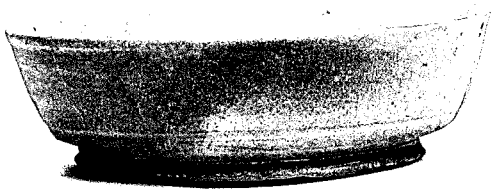


76



78

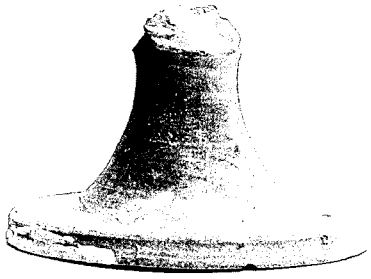
27



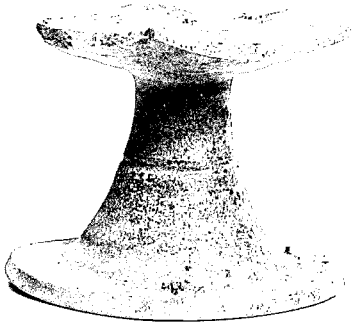
68

79

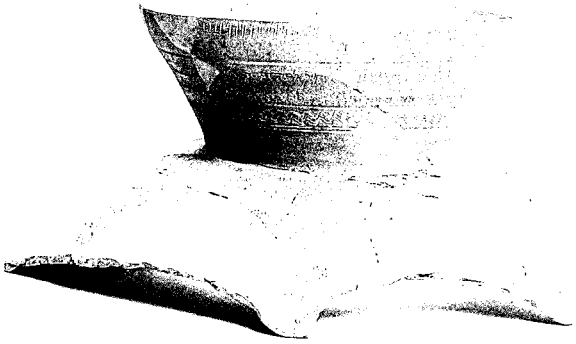
図版 13



80

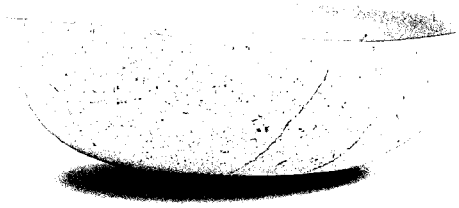


81

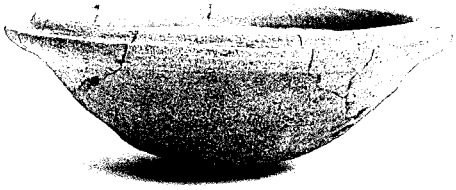


91

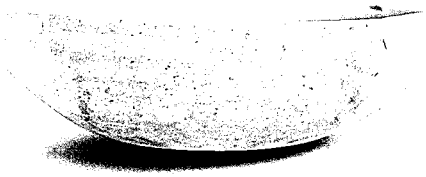
92



93



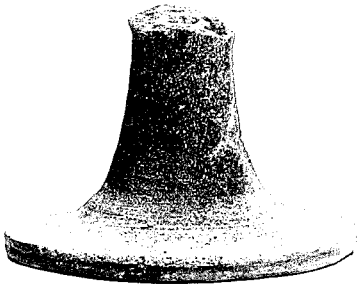
110



114

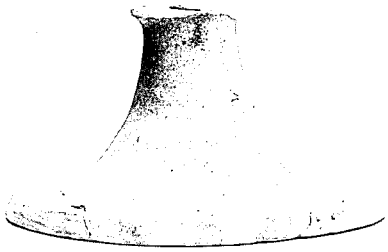
116

118



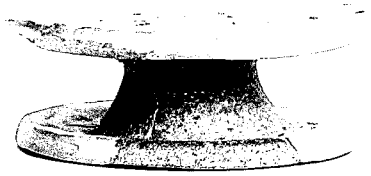
126

138



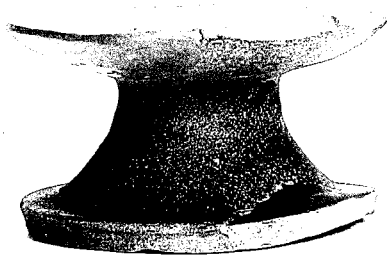
128

147

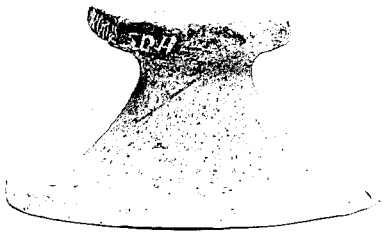


135

151

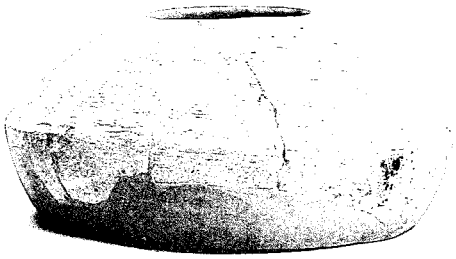


136



152

図版 15

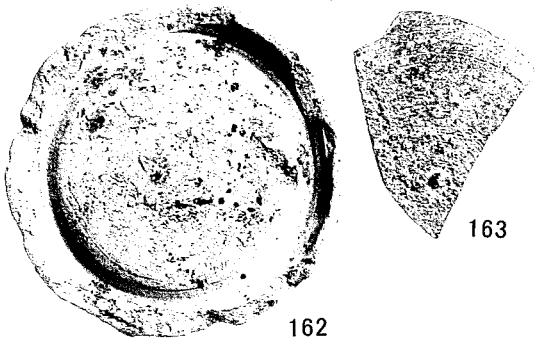


155

173

156

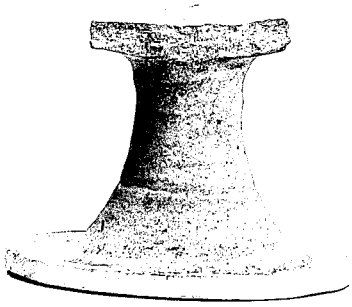
209



162

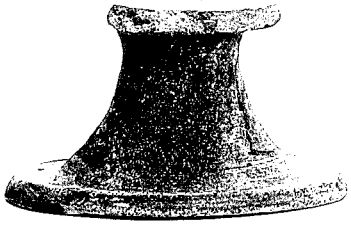
163

215

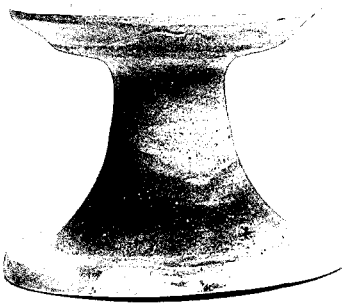


165

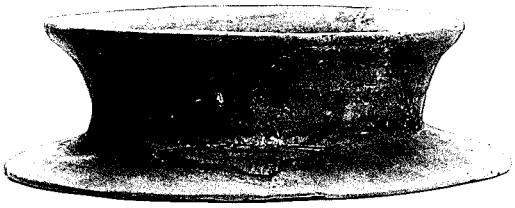
242



244

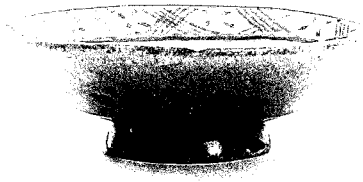


245



255

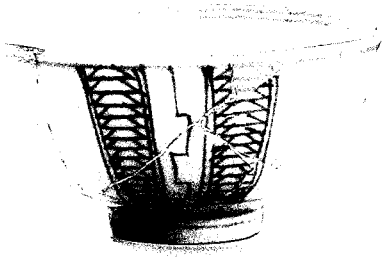
272



294

297

298



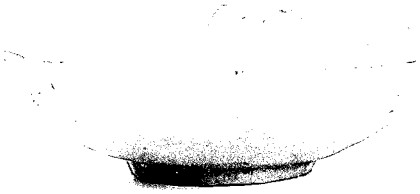
299

300

図版 17

302

309



304

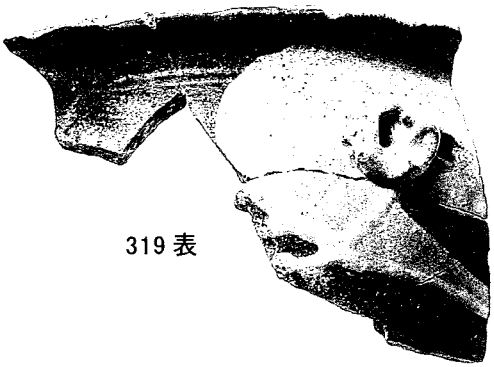
310

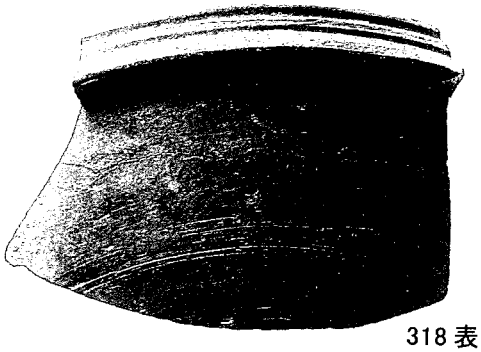
307

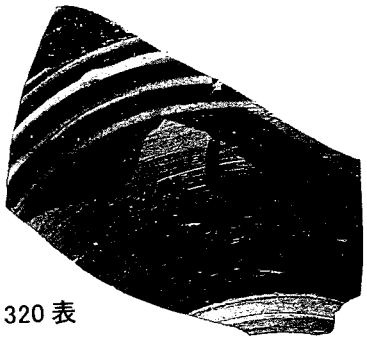
312

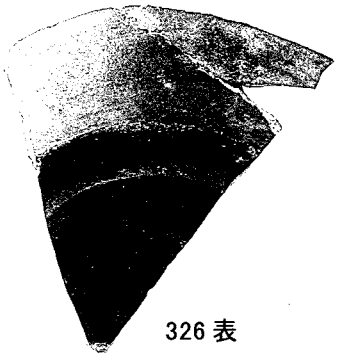
308

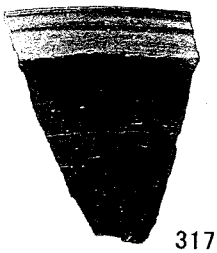
313

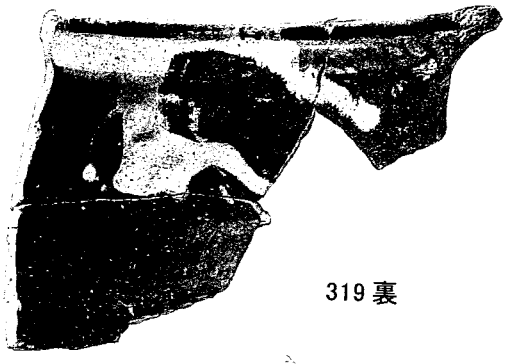

319 表

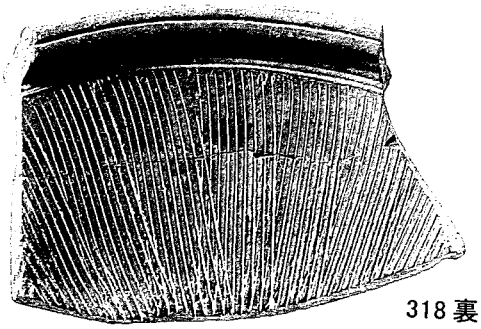

318 表

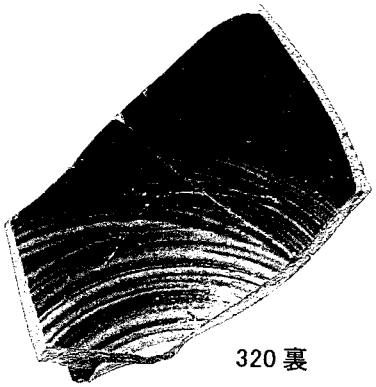

320 表

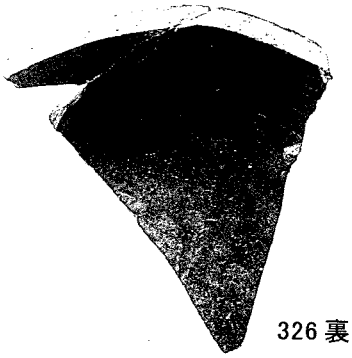

326 表

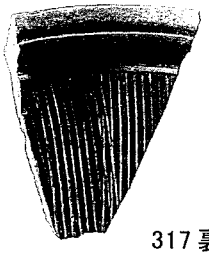

317 表


319 裏


318 裏


320 裏

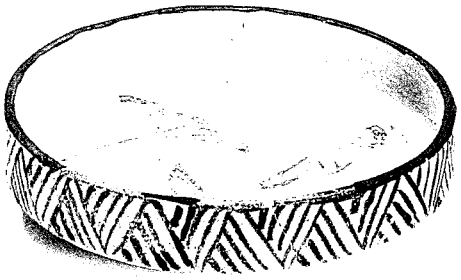

326 裏


317 裏

図版 19

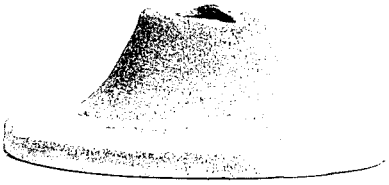
314

362 上



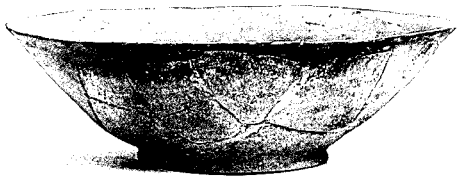
316

362 左



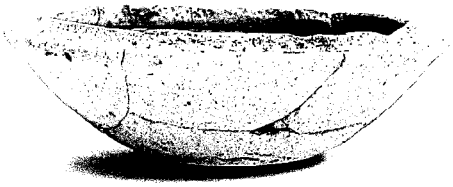
341

349



376

354



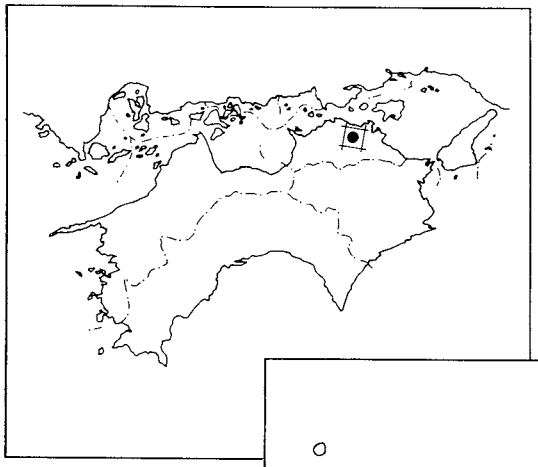
377

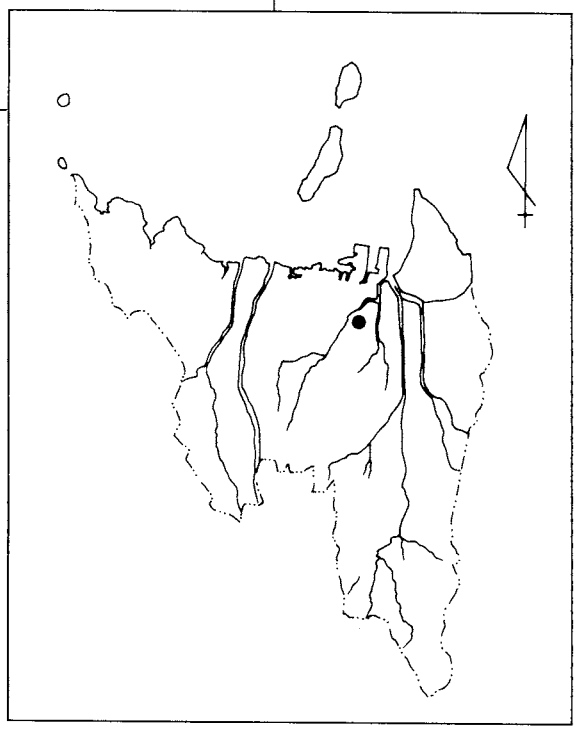
報告書抄録

ふりがな	まつなわげしょいせき
書名	松縄下所遺跡
副書名	太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第四冊
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第52集
編集者名	川畑　聰
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760-8571　香川県高松市番町一丁目８番15号　TEL 087(839)2636
発行年月日	平成13年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
まつなわげしょ 松縄下所遺跡	たかまつし まつなわ 高松市松縄町616番地ほか	37201		34°18′48″	134°3′53″	H3.8.29～H3.12.27	2,825㎡	道路建設
						H4.6.15～H4.9.30	3,900㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松縄下所遺跡	集落 生産遺跡	弥生時代	溝	弥生土器，石器	飛鳥～奈良時代の道路状遺構と掘立柱建物跡
		飛鳥～奈良時代	溝，掘立柱建物跡 柵列，土坑	須恵器，土師器， 土馬，紡錘車	
		平安末～鎌倉時代	掘立柱建物跡， 小区画水田	土師質土器，瓦器	
		江戸時代	溝，土坑	陶磁器	





松縄下所遺跡

太田第２土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告　第四冊

編集・発行　高松市教育委員会
高松市番町一丁目８番15号
発　行　日　平成13年３月31日
印　　刷　イマオカ印刷

附図1　松縄下所遺跡北Ⅰ区遺構配置図

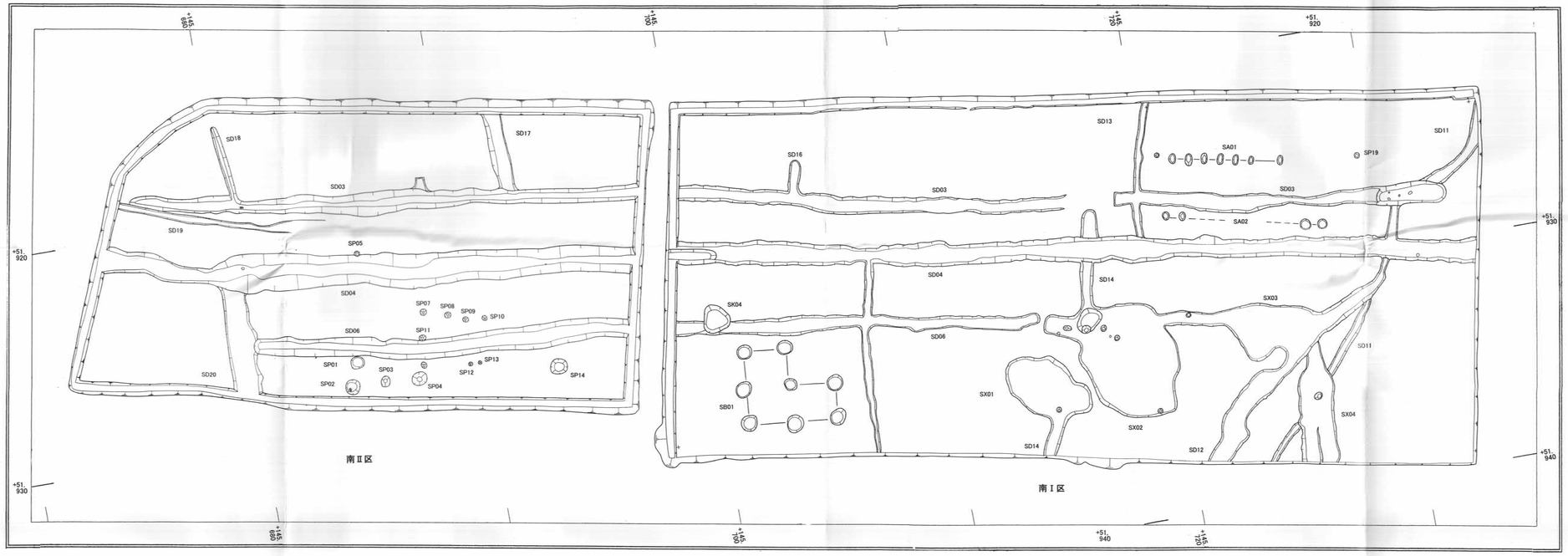
高松市教育委員会

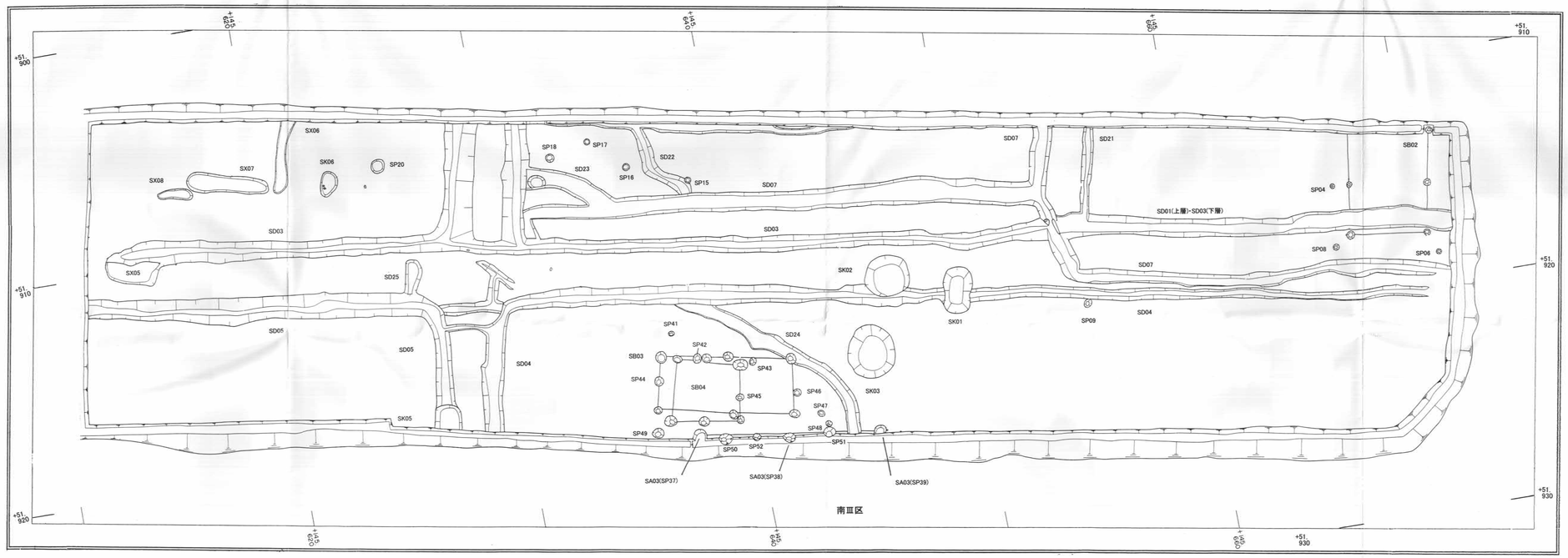
附図2　松縄下所遺跡北Ⅱ・Ⅲ区遺構配置図

高松市教育委員会

高松市教育委員会

附図3　松縄下所遺跡南Ⅰ～Ⅲ区遺構配置図

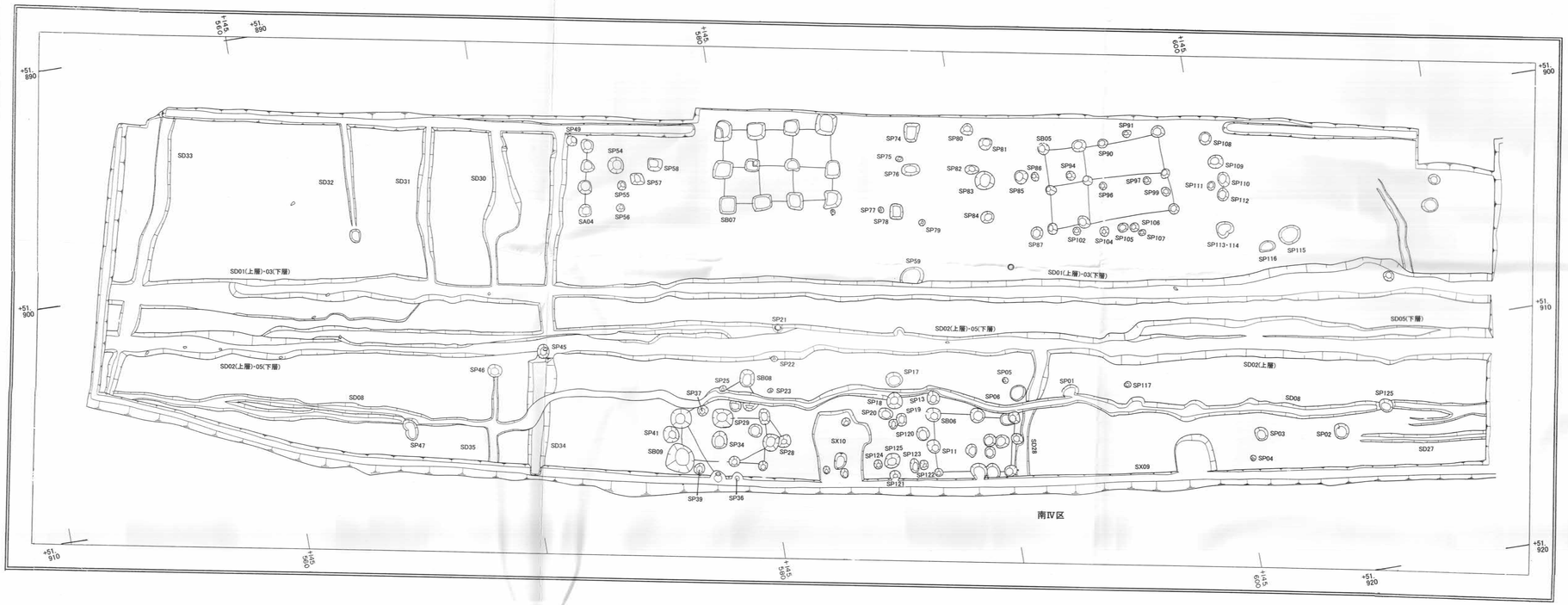


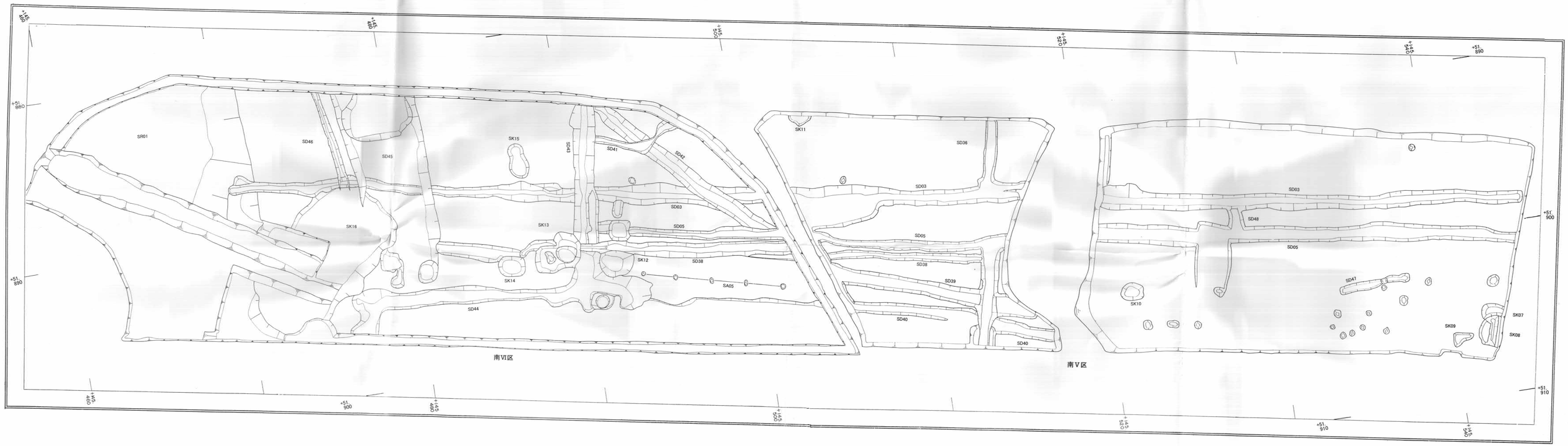


1:100

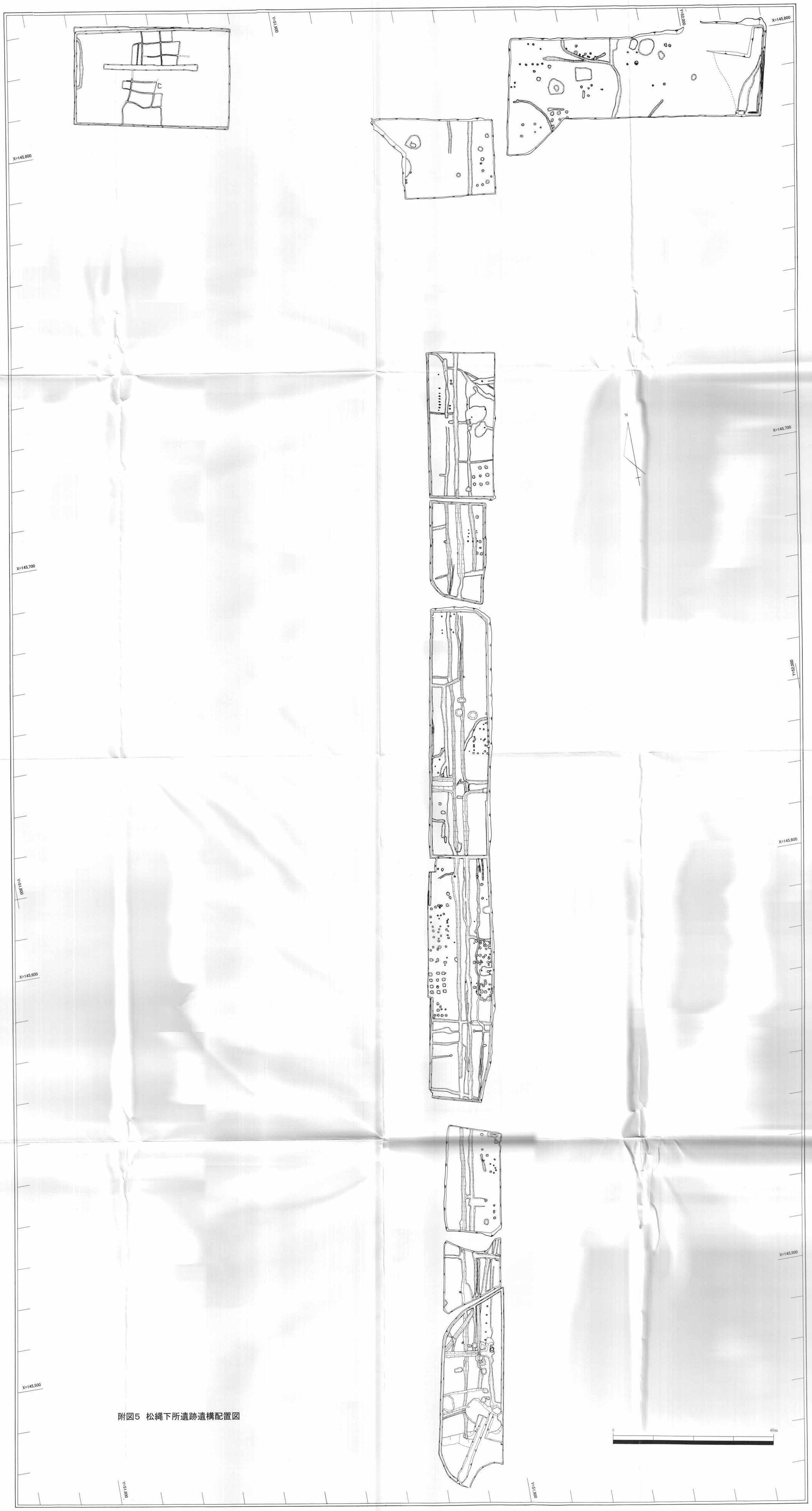
0 1 2 3 4 5 10 20m

附図4　松縄下所遺跡南Ⅳ～Ⅵ区遺構配置図





1:100



附図5　松縄下所遺跡遺構配置図